

平成 20 年度 修士学位論文

建築家のウェブサイトにおける写真表現

—建築専門誌との比較分析—

指導教員

坂牛卓

信州大学大学院工学系研究科社会開発工学専攻

坂牛研究室

07TA336E 平岩宏樹

建築家のウェブサイトにおける写真表現
—建築専門誌との比較分析—

目次

1章 序論 3

- 1.1. 研究の背景
- 1.2. 研究の目的
- 1.3. 研究対象
- 1.4. 既往研究
 - 1.4.1. 建築に関するウェブサイトについての研究
 - 1.4.2. 意匠的観点から見た建築写真分析
 - 1.4.3. 本研究の位置づけ
- 1.5. ウェブサイトの性質から見る本研究の着目点
 - 1.5.1. インターネットとウェブについて
 - 1.5.2. 印刷メディアとウェブメディア
 - 1.5.3. ウェブサイトについて
 - 1.5.4. ウェブサイトに掲載される写真
 - 1.5.5. 本研究の着目点
- 1.6. 本論の構成

2章 分析・考察 —対象ウェブサイトの概要— 21

- 2.1. 対象ウェブサイトの構成
- 2.2. 作品紹介ページ概要
 - 2.2.1. 言説の有無について
 - 2.2.2. 図面の有無について
 - 2.2.3. 写真枚数について
- 2.3. ウェブサイト作品紹介ページ表示形式について
 - 2.3.1. ウェブサイト作品紹介ページのタイポロジー化
 - 2.3.2. 分類結果

3章 分析・考察 —写真の連続性について— 32

- 3.1. 分析方法
- 3.2. 写真分類について

3.3. 全体写真の前後間の連続性	
3.4. 内観シーン・外観シーンごとの写真の連続性	
3.4.1. 分析方法	
3.4.2. シーン数の比較	
3.4.3. シーン内部の連続手法	
3.4.4. シーン間の連続手法	
3.4.5. まとめ	
3.5. ウェブサイト作品紹介ページ表示形式ごとのシーン構成	
3.5.1. 表示形式ごとのシーン内部の連続手法	
3.5.2. 表示形式ごとのシーン間の連続手法	
3.5.3. まとめ	
3.6. 写真一枚ごとにおける連続性	
3.6.1. 分析方法	
3.6.2. 全写真における枝数の比較	
3.6.3. ウェブサイトにおける、専門誌大写真で示される空間についての扱い	
3.6.4. まとめ	
3.7. 小結	
4章 分析・考察 ―写真の場面変遷について―	59
4.1. 分析方法	
4.2. 場面変遷のタイプ分類	
4.2.1. 対象写真の部位について	
4.2.2. 場面変遷のタイプ分類	
4.3. ウェブサイト作品紹介ページ表示形式ごとの場面変遷のタイプ分類	
4.4. 小結	
5章 結論	69
付章 現代建築のフラット化	71
参考文献	79
謝辞	82

1 章

序論

-
- 1.1. 研究の背景
 - 1.2. 研究の目的
 - 1.3. 研究対象
 - 1.4. 既往研究
 - 1.5. ウェブサイトの性質から見る
本研究の着目点
 - 1.6. 本論の構成

1.1. 研究の背景

近年、建築はテレビや雑誌・インターネットなど、様々なメディアで紹介され、そうした"情報としての建築"は広く社会全体に流布されている。実際、私たちが建築を知る際、実体験として建築を経験するよりも、情報としての建築を足がかりとすることが多いだろう。そうしたメディア上で形成される建築像は社会的影響力を持つ存在として実際の建築と共存しているといえよう¹⁾。

一方、総務省の情報流通センサス調査に示されるとおり、さまざまなメディアの中でも、インターネットは近年最も急速に発展しているメディアであるといえる²⁾。また、インターネットの普及によって消費行動のモデルが変化していると指摘³⁾されるように、インターネットの登場と普及によって現代社会を取り巻く状況に大きな変革が起こっているといえる。そのような状況から、現代のメディアを考えるとインターネットの存在を避けて通ることはできないだろう。

そうしたインターネットの普及は建築界においても変革をもたらした。近年さまざまな建築紹介サイトが登場し、多様な建築紹介を展開している。また、建築家側でも多くの建築家がウェブサイトを作成し、様々な情報を発信している。現在では、特定の建築家を調べるとして、ウェブサイトを開覧することは、広く認知される手段であるといえる。そのような建築家のウェブサイト⁴⁾は建築家の設計態度、作品を紹介する文章、作品の写真などから構成され、そういったコンテンツを通して一般の人が建築家について間接的に情報を得ることができる場となっている。

さらに、こうしたメディアは単に作品の発表ツールとして建築家に利便性を提供することにとどまらず、そのメディア特性に適合する建築像を建築家に促す影響力を持ち得る。評論家の多木浩二は、建築はジャーナリズムあるいはメディアに媒介されることによって普及されるとした上で、写真家はメディア独特のマナーに従って建築写真を撮り、また建築家は自覚の有無に関わらずそのマナーに影響され建築をつくるが多かったとする⁵⁾。多木は過去形で述べているが、現在でもこの様な状況は続いていよう。つまり、メディアに載る建築像と建築家の意図する建築像は相互に作用しており、建築家はメディアのマナーの影響を少なからず受けていると考えられる。

以上より、ウェブサイト上で展開される情報としての建築に目を向け、それらの"メディア独特のマナー"を調べることで建築意匠設計への影響の一端を見る。

1.2. 研究の目的

本研究は " 建築家のウェブサイト " と、従来の建築ジャーナリズムをリードしてきたメディアである " 建築専門誌 " の比較を通じ、建築家のウェブサイトを紹介した情報伝達の特徴を把握し、建築意匠設計に関わる社会構造の一端を明らかにすることを目的とする。

1.3. 研究対象

建築家のウェブサイトは言説や写真などから構成されるが、一般にウェブサイトの特質として文章は読まれにくい^{*6}、言説に比べ写真などが重視されやすい^{*7}。本研究ではウェブサイトにおける情報量の過半を占める“写真”を対象を限定し分析を行う。ここでいう写真とは、竣工後の建築写真のほかに、竣工前のパース / 模型写真 / アクソメなどの設計段階のもの、竣工中の工事写真も含むものとする。

比較対象として建築専門誌である『新建築住宅特集(以下専門誌)』を選ぶ。同誌は定期的に日本の最新住宅を特集する専門誌のなかで唯一、建築家の事務所 URL の記載が形式として見られるものである(2008年1月現在)。対象範囲は研究開始段階から近刊1年分として2007年1月号～2007年12月号^{*8}とする。

対象作品は、同誌対象範囲で掲載された竣工後の住宅作品のうち、巻末の建築家紹介欄で事務所の URL の掲載があるもの、かつその URL で示される事務所のウェブサイト上で同作品を紹介しているものとする。また、意匠設計事務所の作品を対象とし、構造設計事務所や設備設計事務所は対象外とする。

対象期間内で、専門誌にはプロジェクトも含め 161 事務所, 181 作品掲載された。さらに、竣工後の作品は 148 事務所, 164 作品であり、そのうち建築家紹介欄に URL の記載のあるものが 106 事務所, 122 作品である。さらに、その中でウェブサイト上でも同作品を紹介しているものが 90 事務所, 102 作品となり、本研究ではそれらを対象作品として研究する(図 1-3-1 参照)。対象事例は表 1-3-1 に示す。

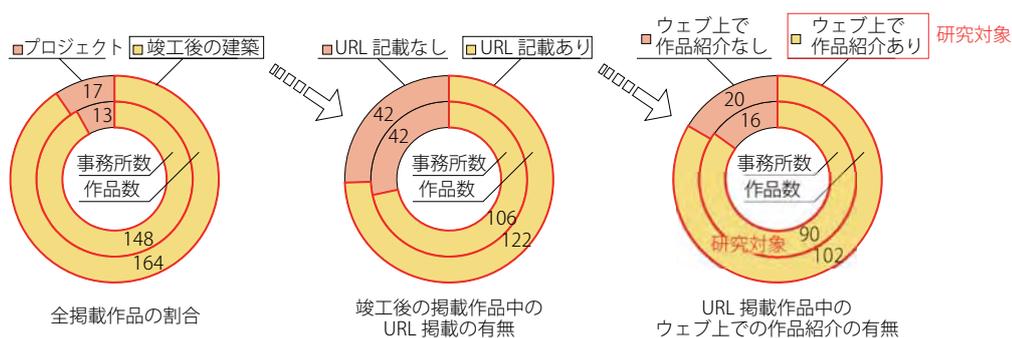


図 1-3-1 研究対象作品の選定

また、ウェブサイト上の作品紹介ページ(3-1 参照)に掲載される写真のみを対象とし、二次的に別ページにリンクされるブログや工事中のレポートなどは対象としない。

上記条件で対象を選定した結果、ウェブサイト総計 1125 枚、専門誌総計 947 枚の写真を抽出した。以下それらの写真を対象として比較分析を行う。

表 1-3-1 対象作品

No.	掲載月	建築家名	事務所名	作品名	住宅特集掲載URL	作品ページURL
1	1	戸沢啓治	芦沢啓治建築設計事務所	K邸	http://www.keijidesign.com/k-house.html	http://www.keijidesign.com/k-house.html
2	1	清水貞博・松崎正寿・清水裕子	atelier AS	KA house colors	http://www.a-a5.com/works/kahouse/index.asp	http://www.a-a5.com/works/kahouse/index.asp
3	1	河内一泰	河内建築設計事務所	O博士の家	http://www.kkas.net/	http://www.kkas.net/A4/COLORS.jpg
4	1	梶井一弥+太田秀俊+安田直民	SOY source	産の家	http://www.soy-source.com/	http://www.soy-source.com/
5	1	眞田大輔+名和研二	すわ製作所	産の家	http://www.s-uwu.com/	http://www.s-uwu.com/
6	1	真井誠・鍋島千恵	TNA	カラコンの家	http://www.tna-arch.com/	http://www.tna-arch.com/archi/archi_karakon01.html
7	1	中村拓志	N A P 建築設計事務所	Necklace House	http://www.nakam.info/	http://www.nakam.info/works/Necklace/index.html
8	2	宮崎浩	プランツアソシエイツ	富士河口湖の家	http://www.plants-associates.com/works-kawaguchiko.html	http://www.plants-associates.com/works-kawaguchiko.html
9	2	納合学・納合新	納合建築設計事務所	北茨城の平屋	http://www.naya1993.com/	http://www.naya1993.com/index.php?p=works&action=prview&prfoid=1033
10	2	八木敦司	八木淳司建築設計事務所	ラビットハウス	http://www003.upp.so-net.ne.jp/yagiarchitects/	http://www.yagi-arch.com/YA/Ya-Fa-Frameset.htm
11	2	早草隆恵	セルスペース	万華鏡の家	http://www.cell-space.com/	http://www.asahi-net.or.jp/~pj3h-sk/kaleidoscope-j/kaleidoscope-j.html
12	2	松原聡・相澤久美	一級建築士事務所ライフアンドスタイルター社	多重の景色	http://www.lifeandshelter.org/	http://www.lifeandshelter.org/index.html?page=works&cate=archi&id=tajyu
13	2	宇野亨	シーラカンズアンドアソシエイツ名古屋/CA n	産の岩	http://www.c-and-a.co.jp/	http://www.c-and-a.co.jp/
14	2	磯部邦夫	アーキショップー級建築士事務所	中野の家	http://www.archishop.co.jp/	http://www.archishop.co.jp/NewFiles/ak.html
15	2	川口英俊	アーキテクト・キューブ	AM・house	http://www.a-3.co.jp/	http://www.a-3.co.jp/
16	3	山中新太郎	山中新太郎建築設計事務所	幸手ハウス	http://www.yamanaka-architects.com/	http://www.yamanaka-architects.com/contents.html
17	3	久保清一+鍵山昌信+村上水音	アルキービ総合計画事務所	和歌浦の家	http://www.archivi.co.jp/	http://www.archivi.co.jp/html/TOP.html
18	3	小泉誠	Koizumi Studio	国立の家	http://www.koizumi-studio.jp/	http://www.koizumi-studio.jp/works_3.html
19	3	高安重一	アーキテクチャー・ラボ	点ノ線HOUSE	http://www.architecture-lab.com/4_beforework/01/index.html	http://www.architecture-lab.com/4_beforework/01/index.html
20	3	中村深	中村深建築設計事務所	北沢の家	http://www.nk-architect.com/	http://www.nk-architect.com/
21	3	石橋利彦	石橋密川建築設計所	I邸	http://www.it-arch.co.jp/	http://www.it-arch.co.jp/
22	3	中村勝己	中村勝己建築設計事務所	スタジオハウス	http://www.nakakatu.com/	http://www.nakakatu.com/sth.html
23	4	横内敏人	横内敏人建築設計事務所	たて庭の家	http://www.yokouchi-t.com/	http://www.yokouchi-t.com/works/6.html
24	4	菅正太郎	すがアトリエ	Co	http://www11.ocn.ne.jp/~suga/	http://www11.ocn.ne.jp/~suga/works/Co/Co-index.html
25	4	滝藤政樹	EDH滝藤政樹	ナチュラルフレックス	http://www.edh-web.com/	http://www.edh-web.com/
26	4	滝藤政樹	EDH滝藤政樹	ナチュラルステイック	http://www.edh-web.com/	http://www.edh-web.com/
27	4	小谷野重幸+田辺芳生	PRIME/プライム建築都市研究所	前橋の家	http://www.prime-lab.com/prime_hp_2008_Frameset.html	http://www.prime-lab.com/prime_hp_2008_Frameset.html
28	4	納合学・納合新	納合建築設計事務所	西新井の住宅	http://www.naya1993.com/	http://www.naya1993.com/index.php?p=works&action=prview&prfoid=2012
29	4	小泉雅生	小泉アトリエ	イガタ	http://www.k-ati.com/main/main_jap.htm	http://www.k-ati.com/main/main_jap.htm
30	4	伊丹潤	伊丹潤建築研究所	私の別荘	http://www.keyoperation.com/projects/flat_hiro-o/j_flat_hiro-o.html	http://www.keyoperation.com/projects/flat_hiro-o/j_flat_hiro-o.html
31	4	小山光	キー・オペレーションー級建築士事務所	フラット・ヒロオ	http://irei.exblog.jp/42/	http://irei.exblog.jp/42/
32	4	伊礼智	伊礼智設計室	古くて新しい事務所	http://www.umi-aa.com/works_folder/concrete_folder/nakasima_folder/nakasima.html	http://www.umi-aa.com/works_folder/concrete_folder/nakasima_folder/nakasima.html
33	4	海野健三	海建築工房	Stone Renaissance	http://www.edward.net/gallery.html	http://www.edward.net/gallery.html
34	4	鈴木エドワード	鈴木エドワード建築設計事務所	下鴨の家	http://homepage2.nifty.com/satofuse-arch/	http://homepage2.nifty.com/satofuse-arch/
35	4	佐藤西也+布施本絹子	佐藤・布施建築事務所	風の家	http://www.s-synapse.jp/	http://www.s-synapse.jp/
36	4	榎木幹也	スタジオソナパス	アイマ	http://www.tekuto.com/	http://www.tekuto.com/works/private/index1.html
37	5	山下保博	アトリエ・天工人	チカニウマルコウブツ	http://www.kmaa.jp/works/clover.html	http://www.kmaa.jp/works/clover.html
38	5	宮本佳明	宮本佳明建築設計事務所	クローバーハウス	http://www.kmaa.jp/works/grappa.html	http://www.kmaa.jp/works/grappa.html
39	5	宮本佳明	宮本佳明建築設計事務所	grappa	http://www.a-h-architects.com/photo/boz/boz.html	http://www.a-h-architects.com/photo/boz/boz.html
40	5	彦根明	彦根明建築設計事務所	BOZ	http://www.lily.sannet.ne.jp/kannkyo/	http://www.lily.sannet.ne.jp/kannkyo/works/matugaoka/matugaoka.html
41	5	安田博通	環境デザイン・アトリエ	松ヶ丘の家	http://www.nizekistudio.com/	http://www.nizekistudio.com/projects/Shimokitazawa/Web/shimokitazawa01.html
42	5	新関謙一郎	NIZEKI STUDIO	WEP下北沢	http://www.nakagame.com/	http://www.nakagame.com/works/kt_slide/works_ktf.html
43	5	仲島清進	仲島清進建築事務所	H/Orange	http://www3.ocn.ne.jp/~yamamoto/homepage/homepage1.htm	http://www3.ocn.ne.jp/~yamamoto/homepage/homepage1.htm
44	5	山本卓郎	山本卓郎建築設計事務所	山口の家	http://homepage2.nifty.com/toru-mukoyama-archi/	http://homepage2.nifty.com/toru-mukoyama-archi/work09/work09.html
45	5	向山徹	向山徹建築設計室	田口の家	http://www5d.biglobe.ne.jp/~hijiri-a/works/works_7.html	http://www5d.biglobe.ne.jp/~hijiri-a/works/works_7.html
46	6	山本恭弘	豊隆建築研究所	風笛の音	http://www2.odn.ne.jp/sato-sigenori/hutyuu%202/%7Bbuoncezoaiaej.html	http://www2.odn.ne.jp/sato-sigenori/hutyuu%202/%7Bbuoncezoaiaej.html
47	6	佐藤重徳	佐藤重徳建築設計事務所	産の音	http://www.shinichogawa.com/	http://www.shinichogawa.com/
48	6	小川晋一	小川晋一都市建築設計事務所	産の音	http://www.ne.jp/asahi/prime/nishijima/	http://www.ne.jp/asahi/prime/nishijima/
49	6	西島正樹	プライムー級建築士事務所	日本橋 川辺の家	http://members.edogawa.home.ne.jp/s2a/house/ro1.html	http://members.edogawa.home.ne.jp/s2a/house/ro1.html
50	6	一宮博・藁谷和子	ステューディオ2アークテック	TROLLEY		

表 1-3-1 対象作品

No.	掲載月	建築家名	事務所名	作品名	作品ページURL
51	6	矢部運也	矢部運也建築設計事務所	コトバノイエ A	http://homepage.mac.com/tyyb/kotobanoie/PhotoAlbum19.html
52	7	青木淳	青木淳建築設計事務所	ハマの家 beach house	http://www.aokijun.com/works/061
53	7	山原直人	kt一般建築士事務所	生久の住宅	http://www.geocities.jp/kt_kohsakutai/
54	7	小長谷亘	小長谷亘建築設計事務所	牛久の住宅	http://www.obase-arch.com/works/usiku_house/works_usiku_house_01.htm
55	7	都留理子	都留理子建築設計スタジオ	生田H	http://www.ricot.com/1710h/index.html
56	7	木内厚子	Sutudio8	南伊豆のセカンドハウス	http://www.geocities.co.jp/studio8/
57	7	武井誠・鍋島千恵	TNA	モザイクの家	http://www.tna-arch.com/archi/archi_mosaic01.html
58	8	早川利彦	早川利彦建築研究室	朱蓮の家	http://www.w010upp-so-net.ne.jp/K-HAYAKAWA/
59	8	木原千利・多田雅	木原千利設計工房	不慮の家	http://www.kihara-sekkei.com/works/02/index.html
60	8	千葉学	千葉学建築設計事務所	六会の家	http://www.chibamanabu.jp/
61	8	坂本昭	坂本昭・設計工房CASA	勝山の家	http://www.akirasakamoto.com/works/private/020katsuyama.html
62	8	石田敏明	石田敏明建築設計事務所	YONハウス	http://homepage2.nifty.com/ishida-archi/index/project/house/house.html
63	8	岸本和彦	acaa	湯河原の家	http://www.ac-aa.com/toppage.html
64	8	柳沢潤	コンテンポラリーズ	SKIP HOUSE	http://www.contemporaries.jp/html
65	8	前田紀貞	前田紀貞アトリエ	THEN?	http://www.5a.biglobe.ne.jp/norisada/
66	8	榎本弘之	榎本弘之建築研究所	ホワイテ・モノリス	http://www.enomoto-architects.co.jp/
67	8	木下洋	キノシタ建築研究所	親松の家	http://vtkino.com/ken-frame1.html
68	9	堀部安嗣	堀部安嗣建築研究所	浅草の家	http://www.w012.upp-so-net.ne.jp/horibe/
69	9	堀部安嗣	堀部安嗣建築研究所	東山の家	http://www.w012.upp-so-net.ne.jp/horibe/
70	9	手塚壽晴・手塚由比	手塚建築研究所	回廊の家	http://www.tezuka-arch.com/
71	9	真田大輔	ずわ製作所	門塚の家	http://www.s-uwa.com/
72	9	石原健也・中野正也	アネフェエ計画研究所	HOUSE_SAKT	http://www.denefes.co.jp/html/sakt_01.html
73	9	遠藤政樹	EDH遠藤設計室	ナチュラルパッチ	http://www.edh-web.com/
74	9	窪田勝文	窪田建築アトリエ	T-HOUSE	http://www.katsufumikubota.jp/
75	9	小嶋一浩	CA T	JETTY CABIN	http://www.c-and-a.co.jp/
76	10	横河建	横河設計工房	八ヶ岳の邸	http://www.kenyokogawa.co.jp/villa/villa.html
77	10	内海智行	miligram studio	俯仰の切妻	http://www.miligram.ne.jp/works/detail.html?house&4
78	10	入江悠一	入江悠一Power Unit Studio	M house	http://www.pus.jp/_content/works/r/m/m1.html
79	10	大塚聡	大塚聡アトリエ	白州の週末住宅	http://homepage3.nifty.com/soa/
80	10	齋田嘉彦	齋田嘉彦建築工房	御水端山荘	http://www.aida-arc.com/
81	10	二瓶洪・古谷清寿	アーキエ7	段の家	http://www.archi-air.net/
82	10	早草睦恵	セルススペース	水平線の家	http://www.asahi-net.or.jp/pj3h-sk/suihaisen/suihaisen.html
83	10	早草睦恵	セルススペース	緑陰の家	http://www.asahi-net.or.jp/pj3h-sk/ryokuin/ryokuin.html
84	10	田井勝馬	田井勝馬建築設計工房	湘南の家	http://www.tai-archi.co.jp/works/07_shonan.html
85	10	小形浩久	アロブ・ボジヨン一般建築士事務所	karuzawa-K	http://www.prop-position.co.jp/menu/index.html
86	10	甲村健一	KEN一般建築士事務所	森泉山麓の家	http://www.ken-architects.com/
87	11	五十嵐淳	五十嵐淳建築設計	room/set	http://jun-igarashi.webinfoseek.co.jp/works/024room_set/001.html
88	11	手嶋保	手嶋保建築事務所	大室高原の家	http://www.w007.upp-so-net.ne.jp/teshima/
89	11	庄司寛	庄司寛建築設計事務所	都筑の家	http://www.shoji-design.com/works/main.html
90	11	村田晴夫・村田淳	村田晴夫建築研究室	三ツ池の家	http://murate-associates.co.jp/works/works_aki.html
91	11	仲亀清進	仲亀清進建築事務所	五ツ池の家	http://www.nakagame.com/works/works_aki.html
92	11	粕谷淳司・粕谷奈緒子	カスヤアークアトリエ	TWIST	http://k-a-o.com/2007/02/twist_2.html
93	11	八島正年・八島夕子	八島建築設計事務所	葉山の家	http://www.yashima-arch.com/
94	11	高木雅行	一般建築士事務所アルキノーバ	クイーンズメドウ・カントリーハウス	http://archinova.jp/
95	12	横河建	横河設計工房	八丁堀・櫻庵 LC-SH12	http://www.kenyokogawa.co.jp/
96	12	伊礼智	伊礼智設計室	東京町家 あずきハウス	http://iei.exblog.jp/50/
97	12	奥村和幸	奥村和幸建築設計室	O v a l Panel House	http://oku-mura.com/08_oph_01.html
98	12	安藤和浩・田野恵利	アندوق・アトリエ	大塚の家	http://www.8ocn.ne.jp/aaand01/hp3/FRAMEHouse-otuka.html
99	12	塚田修大	塚田修大建築設計事務所	鉄のワイト口	http://www.ts-ar.com/frames/frame-w-01.html
100	12	森清敏・川村奈津子	MDS一般建築士事務所	鉄の家	http://www.mds-arch.com/file/japanese.html
101	12	小笠原経里	関工舎	桂坂の家	http://www.tctt.zaq.ne.jp/kan/
102	12	吉本剛	吉本剛建築研究室	BARN_6	http://go-yoshimoto.com/w_o_1.htm

* 事務所のウェブサイトやFlashやインフラームで表示するものは、事務所のURLと作品紹介ページのURLが同一となる場合がある。

1.4. 既往研究

既往研究を建築に関するウェブサイトを扱うものと、意匠的観点から見た建築写真分析に分け、それぞれを解説し、本研究との違いを述べる。

1.4.1. 建築に関するウェブサイトについての研究

建築に関するウェブサイトを対象とした研究は、東京工業大学奥山研究室で行われており、以下のものがある。1. 建築家の現代社会に対する表現手段の一形式であるウェブサイトの役割を明らかにすることを目的とするもの⁹⁾、2. ハウスメーカーのウェブサイトを経験し、その中でも商品化住宅の外観についての言語表現に着目することで、社会における住宅のイメージ形成に関する枠組の一端を明らかにすることを目的とするもの¹⁰⁾、3. ウェブサイトを拠点とする住宅プロデュース会社を資料とし、契約内容を中心に見ることで建築家との家づくりにおける住宅プロデュース会社の役割を把握し、さらに住宅プロデュース会社のコンセプトと建築家のコメントの意味内容を比較することから、建築家との家づくりにおける住宅プロデュース会社の意義を明らかにすることを目的とするもの¹¹⁾などが挙げられる。これらは主にウェブサイトに掲載される言説を対象とするものである。さらに、建築家のウェブサイトを対象とし建築意匠設計におけるウェブサイトの役割を位置づけることを目的としたものは1の研究のみである。以下、1の論文について詳しく解説する。

『建築設計事務所のウェブサイトにおける建築家の言語表現』(溝口恵美・奥山信一・横山天心・久保田創.2006)

本研究と同じく、建築家のウェブサイトを経験するものである。主に住宅設計を行う建築設計事務所のウェブサイトの言説表現を分析するものである。また、「新建築住宅特集」巻末の建築家紹介にURLが記載される建築設計事務所のうち言説表現のあるものを対象とする。本研究では、この研究を参考に分析対象を抽出した。

この研究は建築家が自身のウェブサイトに掲載する設計に対する態度や言説表現を研究対象とし、建築家がウェブサイトを利用しどのような建築家像を社会に発信しているかを解明するもので、メディア構造から建築意匠設計への影響を考察するものではない。

1.4.2 意匠的観点から見た建築写真分析

意匠的観点から建築写真を扱った研究としては、建築雑誌掲載写真を対象とする研究、建築家の作品集における写真表現に関する研究に二分することができる。

建築雑誌の掲載写真に関する研究としては、1. 建築誌及び住宅誌に掲載された住宅作品のスチール写真を取り上げ両誌の比較からその差異を抽出することにより建築のイメージ形成にかかわる枠組みの一端を明らかにすることを目的とするもの^{*12}、2. 建築誌上の住宅写真に注目し、年代別にこれらを比較検討することにより、写真を通して住宅のあり方を明らかにしようとするもの^{*13}、3. 建築雑誌に掲載された住宅作品の建築写真の分析をすることによって、建築写真の表現と、写真と建築の関係性を把握することを目的とするもの^{*14}、4. 現代住宅作品の主空間の写真を資料とし建築写真に表現された室内構成を資料とし建築写真に表現された室内構成を分析することで建築空間のイメージを形成する枠組みの一端を明らかにすることを目的とするもの^{*15}などがある。

また、建築家の作品集における写真表現について扱ったものとして、5. ル・コルビュジェの作品集における写真を取り上げ、シークエンスに注目することで情報としての建築の構成を明らかにしているもの^{*16}、6. ル・コルビュジェの建築空間を異なる表現手法のコラージュ的構成として捉え分析しているもの^{*17}、7. ル・コルビュジェの作品集における写真ごとに写された建築空間あるいは部位・要素といった写真の対象物を整理し、写真間での対象の共通性からその関係を写真の大きさをもとに検討したもの^{*18}などがある。

この中で本研究を行う上で、本研究と同じく写真の連続性について扱った5.の論文について詳しく解説する。

『情報化された建築空間の構成に関する研究 - ル・コルビュジェ全作品集の建築写真の連続性について -』(岡河貢・足立真・坂本一成.2003.)

ル・コルビュジェ全作品集を対象に、建築空間の情報としての建築写真の構成を映像の連続、不連続という視点で検討するものである。また、各作品ごとに全体写真の構成、および内観・外観ごとに取り出して並べた写真構成などの組み合わせからパターン分析し、セルゲイ・エイゼンシュタインのモンタージュ理論と比較することで、それぞれのパターンに特有な表現を見つけるものである。

本研究と同じく、写真の連続性について扱うものである。本研究では、この研究で用いられる、連続の手法の分類(視線による連続(オーバーレイ,パン,ズーム)・動線による

連続など)、及び内観・外観ごとに取り出して並べた写真構成(シーン)の組み合わせの考え方を参考に考察する。

1.4.3. 本研究の位置づけ

既往研究において、建築家のウェブサイトを扱ったもののうち、言説表現に着目したものは見受けられるが、写真を主題として扱ったものはない。また、意匠的観点から考察した建築写真分析においても雑誌に掲載された作品写真を分析対象としているものや、建築家個人の作品集の写真を扱っているものはあるが、ウェブサイトに着目したものは見られない。よってウェブサイト上の写真は新たな研究領域であるといえよう。

1.5. ウェブサイトの性質から見る本研究の着目点

本節では、ウェブサイトの写真を扱う際の研究の着目点を探る。

まずインターネットとウェブについての概要を述べた後、従来の印刷メディアとラジオ・テレビに代表される電子メディア（ここではウェブメディアは含まない）とを比較し、それぞれの性質を示す。その上で印刷メディアとウェブメディアの差異について概観する。

さらに、一般的なウェブサイトについての性質やウェブに掲載される写真の性質について示す。それらを考え合わせた結果、本研究では研究の着目点を「写真の連続性」とする。

1.5.1. インターネットとウェブについて

インターネットとは、世界規模で複数のコンピューターを結び、情報を交換できるようにしたものである。その起源は 1969 年にアメリカ国防省が構築した ARPANET にあり、その後、大学・研究機関等のコンピューターの相互接続で、全世界を網羅するネットワークに成長した。

ウェブとは、World Wide Web を略した言葉で、1989 年に誕生した、インターネットに公開されている情報を検索するためのシステムのひとつである。文字のほかに画像や音声なども扱うことができる。また、ウェブサイトとはインターネット上で WWW の方式に基づいてサーバーからの情報提供などのサービスが行われている場所で、ウェブページとはウェブサイト上で公開されているそれぞれの情報ページを指す。^{*19} また、ウェブによって構築される情報伝達手段を総称して、ここではウェブメディアとする。

1.5.2. 印刷メディアとウェブメディア

電信の登場以来、テレビ・ラジオなどさまざまな電子メディアが登場した。英文学者、文明批評家のハーバート・マーシャル・マクルーハンは電子メディアの登場によってもたらされた社会変化を受け、「メディアはメッセージである」^{*20} と述べ、メディアの内容以上にメディアそれ自体がメッセージとなることを指摘した。その結果人間の感覚比率が変化したし、感覚器官の変容をもたらしたとする。つまり、電子メディアは従来の印刷メディアと性質を異にするもので、人間に新しい感覚をもたらしたと指摘するのである。

一方、そうした指摘を受け、ニューハンプシャー大学コミュニケーション学部教授のジョシュア・メイロウィッツは印刷メディアが伝達する情報とテレビに代表される電子メディアが伝達する情報の違いについて、印刷メディアはコミュニケーション的、言説的、

デジタル的である一方、電子メディアは表出的、現示的、アナログ的であるという3つの二分法によって説明する。^{*21}つまり、電子メディアは、〈人が居るだけで生まれる身振りや信号や発声や徴表や動作〉を示すことができるメディアである点で表出的であり、印刷メディアは表出せず著者の意図でコミュニケーションの有無を操作する。また、電子メディアは言説的シンボルと共に様々な現示的情報を伝えるのに対し、印刷メディアは言説的情報のみで構成される。さらに、電子メディアは連続的に人の周辺に起っていること(=関係)を示す意味でアナログ的であり、印刷メディアは離散的単位で比較的特定の意味(=内容)を示す意味でデジタル的であるとする。電子メディアの登場によって、印刷メディアの時代にはその場に居合わせなければ体験できなかった相互行為が媒介され、様々な場所で体験できるようになったことを意味する。それは例えば、その場に居合わせなければ伝わらなかった雰囲気の出表や、人の周囲におこる連続的關係を電子メディアの登場で伝えることができるようになったということが挙げられる。それは、場所自体の意味を再定義するもので、場所がその場所のみ存在するという唯一性を失い場所感を喪失するものである。

それを時間の共有の観点から見ると、印刷メディアは時間を受信者と発信者で共有することができなかったのに対し、テレビに代表される電子メディアは受信者と発信者で時間を共有し、また受信者同士でも同じ時間を共有することができるようになったといえることから、印刷メディアは非同期なメディアであり、電子メディアは同期的なメディアであるといえる。

ウェブメディアは電子メディアの発展したものであり、いつでもウェブサイトを確認でき、世界中のどこに居ても同一の情報を得ることができる点で場所感を喪失させるものであるといえる。しかし、メイロウィッツの主張を考えると、ウェブメディアの性質はコミュニケーション的、言説的、デジタル的であり、テレビなどの電子メディアよりも印刷メディアに近い性質を持つといえよう。ここで、社会学者の濱野智史は

インターネットというのは、その通信方式のレベルで、非同期的なズレが必然的に生じるようになっていて、どちらかといえば、「テレビ」や「ラジオ」といった同期メディアよりも、「手紙」や「雑誌」といった非同期メディアを再現の方が向いていたのです。(濱野, 2008, p.200)^{*22}

と述べ、インターネット(=ウェブメディア)の性質は印刷メディアに近いことを指摘する。

つまり、ウェブメディアはテレビなどの電子メディアのもたらした場所感の喪失を促進しながら、時間的には非同期であり印刷メディアに類似する性質を持つといえる。

以上より、ウェブメディアは電子メディアの場所感の喪失といったような社会的な性質を受け継ぐ一方、印刷メディアの持つ情報の表現的な性質を持つものであるといえる。それを踏まえ、次節ではウェブメディアと印刷メディアの表現方法の差異を明らかにし、ウェブサイトの性質を述べる。

1.5.3. ウェブサイトについて

印刷メディアとウェブメディアのデザイン的な差異について、ウェブユーザビリティの研究者であるヤコブ・ニールセンは以下のように述べる。すなわち、印刷メディアのデザインはひとつの見開きページがデザイン単位となって固定サイズを作っているため2次元であるのに対して、ウェブメディアのデザインはスクロールによってひとつのページを体験する意味で1次元であると同時に、リンクによって多層的に結び付けられる点で多次元でもあるとする。さらに、そうした多次元性をもたらすページ間の移動の多重性がウェブメディアの本質であるとする。まとめると、印刷メディアは情報オブジェクトを選択的に閲覧し、空間的な位置関係を利用して、ページの要素を強調や説明をするのに対し、ウェブメディアでは情報を手で操作することで機能しており、情報相互の関係は、インタラクションやユーザの動きの一部として立ち現れるものであるとする。^{*23}

また、一般的なウェブページの特徴として、「①文章の読まれにくさ」、「②ページごとの滞在時間の短さ」、「③リンクなどによって使用者の意思でページ間を移動できること」、「④ページ間はリンクによって連続するため限定されたルートでしかページ間移動ができないこと」などを挙げる。^{*24}

つまり、多くのウェブサイトでは1ページごとの滞在時間は短く、文章も読まれにくい。さらに、リンクによって限定されたルート上でページを確認していくため、印刷媒体のようにページを飛ばして自由にページ間を往来し内容を確認することが困難であるといえる。

1.5.4. ウェブサイトに掲載される写真

デジタルカメラの普及・インターネット環境の整備などによって写真を取り巻く状況は常に変化してきた。デジタルカメラが誕生する前までは写真は銀塩写真が主流であり、その機構から写真は絶対的な記録性を保持していた。しかし、デジタルカメラ・インターネットの普及によって、ウェブサイトに掲載される写真は今までの銀塩写真とは性質を異にするものとなった。

ここで、写真評論家の飯沢耕太郎は元来の銀塩写真をフォトグラフィ (photography) と呼び、それに対するものとしてデジグラフィ (digigraphy) という言葉を用い説明している²⁵。ここで、デジグラフィとはデジタルカメラによって撮影された画像、あるいはアナログカメラによるものでもスキャニングによってデジタル化された画像の使用、及び表現のプロセス全体を示すものである。つまり、フォトグラフィが光によって化学変化した銀塩という物質的な基盤を持ち、フィルムの原材料であるアセテートやポリエステル、印画紙の原材料である紙のような物質と分かちがたい構造を持つのに対し、デジグラフィは0か1かの電気信号に変換されたデータである。以上よりウェブサイトに掲載される写真はすべてデジグラフィであるといえる。

飯沢はフォトグラフィとデジグラフィを比較したとき、デジグラフィの特徴として①改變性、②現認性、③蓄積性、④相互通信性、⑤消去性を挙げる。以下順を追って解説する。

①改變性

デジグラフィは電気信号であるために、簡単にデータの組み替え = 画像の改變を行うことができる。例えば、フォトグラフィではフォトモンタージュなど写真を改變する際大変な労力を用いるのに対し、デジグラフィでは画像編集ソフトを利用すればパソコン上で簡単に画像の合成や改變ができる。

②現認性

フォトグラフィではフィルムを現像して初めて像を確認するため、撮影時にはどのように写っているか確認できないのに対し、デジグラフィは撮影したその場で確認することができる。また、失敗した場合にもすぐに撮りなおすことができる。

③蓄積性

フォトグラフィはフィルムやネガ、印画紙が溜まっていくのに対し、デジグラフィは記録データが電子情報のため大量のデータの保存が場所をとらずにすることができる。また、そうしたデータを簡単に参照することもできる。

④相互通信性

デジグラフィは、インターネットのメールや携帯電話を利用して、即座に、大量に正確に送受信することができる。現在ではインターネットの普及などに伴い、相互通信性が完全に確立した。

⑤消去性

電子データであるデジグラフィは簡単な操作で一瞬にして画像を消去することができる。また、ウェブサイトに掲載される写真がすぐにクリックして移り変わっていく様もこの性質が表すものとしている。

以上より、デジグラフィは変更可能な画像データの集合であり、フォトグラフィのように対象物と強く結びついてはいない。デジグラフィは、フォトグラフィのように「それはかつてあった²⁶⁾」を強く証明することはできなくなっているといえよう。

デジグラフィによって一般大衆が膨大な量の写真を撮影し、その写真を簡単に編集し、ウェブサイトなどに掲載する側に回ったとき、写真は敷居が高く手の付けられない真実を示すものから、より手軽に変更可能なものになったといえよう。また、ウェブサイトに掲載されるデジグラフィは消去性による儚さや、相互通信性による手軽さ、累積性による膨大なデータの蓄積などにより、写真一枚あたりの閲覧者が受けるイメージの比重はフォトグラフィに比べ密度が薄くなっていよう。一例を示すと、デジグラフィを鑑賞する人は写真集（フォトグラフィ）を見るように一枚一枚を目に焼き付けながら見るのではなく、パソコンのディスプレイに表示される画像を一瞥の内に判断し、次へ次へと進んでいくように見る傾向があるだろう。

デジグラフィはそうしたイメージの消化の加速をもたらすものであり、ウェブサイトに掲載される画像はデジグラフィであるがゆえに、写真一枚あたりの内容の視覚情報がフォトグラフィよりも少ないといえよう。また、そうした写真の一枚あたりの視覚情報を補うために、多次元性という性質を持つウェブサイトでは、画像と画像のつながり、つまり写真の連続性が重要となるだろう。

1.5.5. 本研究の着目点

ウェブメディアは印刷メディアと電子メディア、両方の性質を持つものである。しかし、その表現形態の違いから、印刷メディアはページ内での位置関係などを利用することで情報を表現するメディアであるのに対し、ウェブメディアはページをリンクによって結ぶことで情報を多層的に表現するメディアであるといえる。また、ウェブサイトは閲覧時ページごとの滞在時間が印刷メディアと比較し短いため、デジグラフィの消去性などの性質が現れやすいものであるといえる。

以上から、ウェブサイトの作品写真閲覧時において写真一枚の視覚情報にも増して、写真間の関連性が提示する情報の重要度が示される。つまり、印刷メディアでは画像情報それぞれ自身の内容が重要であるのに対し、ウェブメディアでは情報の多次元性から画像と画像を結ぶつながりが重要となるといえよう。そこで本研究では以下、写真のつながりに着目し建築のイメージがどのように提供されているかについて分析する。

1.6. 本論の構成

本論の構成を以下に示す。

1章：研究の背景・目的・分析対象・既往研究について述べる。さらに、印刷メディアとウェブメディア差異について概観し、ウェブサイトについての性質・さらにウェブに掲載される写真の性質を挙げる。それらを踏まえウェブサイトの写真を研究対象とする際の研究の着目点を探る。

2章：2章／3章／4章は分析・考察の章である。

2章では対象となる102作品ごとにそれぞれのウェブサイトの作品紹介ページを確認し、言説の有無や図面の有無、また、そのウェブページの表示形式の差異を確認する。ここでは作品紹介のウェブページについての概要をまとめる。

3章：まず、3章では写真内容の連続性に着目し、ウェブサイト・専門誌で、それぞれの写真の連続性の差異からメディア構造による特質を考察する。その方法として、写真の前後間でのつながり、シーン間でのつながり、写真一枚と他写真のつながりなどに注目する。

4章：ここでは、写真の撮影された場所がどのように変遷していくかを確認することで、両メディアの場面変遷の流れの特徴を考察する。

5章：2章・3章・4章で得られた知見を総括し、全体のまとめとする。

付章：本研究で得られた結論を基に、現代建築の流れと、ウェブサイトの表現手法の相関関係について、私なりの考えを述べる。

註及び参考文献

- 1) 社会構築主義の分野では言説空間が集積しひとつの社会的実在をなすとした上で、言説を分析することによって社会の一面を捉えることができるとする。ここで、言説を写真に置き換えて考えることもできる。すなわち写真情報を分析することで、社会の一面を捉えることができよう。
参考文献：赤川学.(2006). 構築主義を再構築する, 勁草書房.
- 2) 総務省情報通信政策局情報通信経済室が発表した平成 18 年度情報流通センサス調査では、近年選択可能情報量が爆発的に増えていると報告されている。選択可能情報量とは、端的にいうと社会に出回る情報量の総和を示すものである。選択可能情報量のほとんどすべてがインターネットによるものであり、それはインターネット上に保存・蓄積されている情報に、何らかのアクセス手段を持っている利用者全員がアクセス可能であるというメディアの特徴によるところが大きい。
参考文献：総務省情報通信政策局情報通信経済室. 平成 18 年度情報流通センサス報告書.(http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/linkdata/ic_sensasu_h18.pdf).2009 年 1 月 19 日取得
- 3) 従来の消費行動を説明するモデルとして 1920 年ごろにアメリカのローランド・ホールが提唱した「AIDMA の法則」がある。AIDMA モデルは大きく分けて認知段階 (attention)、感情段階 (interest・desire・memory)、行動段階 (action) の 3 つのプロセスに分かれ、消費者が購入にいたる一連の購入プロセスを示している。それに対し、インターネットの普及によって現れた新しいモデルが電通の提唱する「AISAS の法則」(attention, interest, search, action, share) である。AISAS モデルは、AIDMA モデルの認知段階、感情段階のプロセスがコンパクト化され、行動段階に相当するプロセスが拡大 (search・action・share) されている。インターネットが普及し、“検索”という行為が一般化した現代においては誰でも情報に触れることができ、消費者の「能動的な情報接触」が盛んになってきているといえる。
参考文献：①電通「クロスメディア開発プロジェクト」チーム.(2008). クロススイッチ - 電通式クロスメディアコミュニケーションのつくりかた -, ダイヤモンド社. ②岸勇希.(2008). コミュニケーションをデザインするための本, 株式会社電通.
- 4) 本研究では新建築住宅特集の巻末にある建築家紹介の欄に示される URL によるウェブサイトを建築家のウェブサイトとする。
- 5) 多木浩二.(2007). 建築と写真の現在 vol.1 「建築と写真」,(建築と写真の現在).TN プローブ / 株式会社大林組.
- 6) 詳細は 2 章に示す。
参考文献： ①ヤコブ・ニールセン.(2006). ヤコブ・ニールセンの Alertbox,(船井淳・奥泉直子・川崎幹人 訳).RBB PRESS. ②ヤコブ・ニールセン.(2000). ウェブ・ユーザビリティ ,(グエル 訳) .エムディエヌコーポレーション. ③ヤコブ・ニールセン.(2002). ホームページ・ユーザビリティ ,(風工舎 訳) .エムディエヌコーポレーション.
- 7) 従来のナローバンドでは通信速度が遅く、ウェブサイト上の情報は文字情報などのファイルサイズの軽いものが多かった。しかし近年では、ブロードバンドの整備によって、画像や映像を多く使ったウェブサイトが充実してきているといえる。
- 8) ウェブメディアは総務省の情報流通センサス調査にも示される通り、ここ数年で大きく変容しているメディアである。そのため、そうした流動的な性質を持つウェブメディアを扱う本研究は、最新の状態であることが好まれる。そこで、対象となるウェブサイトが一定量が得られる範囲を選定し、結果として近刊 1 年分を対象とした。
- 9) 溝口恵美・奥山信一・横山天心・久保田創.(2006). 建築設計事務所のウェブサイトにおける建

- 築家の言語表現 . 日本建築学会 . 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東):585-586.
- 10) 奥山信一・久保田創・塩崎太伸 .(2005). ウェブサイトにおける商品化住宅の外観に関する言語表現 . 日本建築学会 . 日本建築学会学術講演梗概集 (近畿):621-622.
 - 11) 三桶士史・奥山信一・塩崎太伸 .(2006). 建築家との家づくりにおける住宅プロデュース会社の意義 . 日本建築学会 . 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東):583-584.
 - 12) 坂本一成・奥山信一 .(1986). 建築誌・住宅誌での写真における住宅－建築のイメージにかかわる枠組みの研究－ . 日本建築学会 . 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北海道): 865-866.
 - 13) 坂本一成・西沢大良・高橋寛 .(1987). 建築誌写真に表現される住宅－「建築としての住宅」のありかたに関する研究－ . 日本建築学会 . 日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿):1071-1072.
 - 14) 新谷美和・貝島桃代 .(2002). 建築雑誌に見る現代日本住宅における写真表現－写真と建築の関係－ . 日本建築学会 . 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸):579-580.
 - 15) 奥山信一・桜井春美・塩崎太伸 .(2003). 建築写真に表現された室内構成－建築空間のイメージ形成にかかわる枠組の研究－ . 日本建築学会 . 日本建築学会大会学術講演梗概集 (東海):281-282.
 - 16) 岡河貢・足立真・坂本一成 .(2003). 情報化された建築空間の構成に関する研究－ル・コルビュジエ全作品集の建築写真の連続性について－ . 日本建築学会 . 日本建築学会計画系論文集 , 第 564 号 :363-369.
 - 17) 岡河貢・足立真・坂本一成 .(2006). ル・コルビュジエ全作品集における建築写真と図面・スケッチの構成－情報化された建築空間の構成に関する研究 . 日本建築学会 . 日本建築学会計画系論文集 , 第 607 号 :225-232.
 - 18) 岡河貢・足立真・坂本一成 .(2006). ル・コルビュジエ全作品集における建築写真の対象と構成－情報化された建築空間の構成に関する研究－ . 日本建築学会 . 日本建築学会計画系論文集 , 第 609 号 :193-200.
 - 19) 小泉修 .(2007).web 大全 - 図解で理解 その進化のすべて -, 自由国民社 .
市村哲・宇田隆哉・伊藤雅仁 .(2003). 基礎 web 技術 , オーム社 .
 - 20) マクルーハンは、例えばラジオは聴くという人間の感覚の拡張であるというように、メディアはすべて身体の拡張であるとした。その上で、電子メディアは身体の中でも " 感覚 " の拡張をもたらしたとする。
参考文献：マーシャル・マクルーハン .(1987). メディア論 - 人間感覚の拡張 -, (栗原裕・河本仲聖 訳) . みすず書房 .
 - 21) ジョシュア・メイロウィッツ .(2003). 場所感の喪失 (上) - 電子メディアが社会的行動に及ぼす影響 -, (安川一・高山啓子・上谷香陽 訳) . 新曜社 .
 - 22) 濱野智史 .(2008). アーキテクチャの生態系 - 情報環境はいかに設計されてきたか -, NTT 出版 .
 - 23) ヤコブ・ニールセン .(2006). ヤコブ・ニールセンの Alertbox, (船井淳・奥泉直子・川崎幹人 訳) . RBB PRESS.
 - 24) 注釈 6 の参考文献から、ウェブサイトの表現的特徴を総合的にまとめた。
 - 25) 飯沢耕太郎 .(2004). デジグラフィ - デジタルは写真を殺すのか? -, 中央公論新社 .
 - 26) 批評家・思想家のロラン・バルトは、写真 (ここではフォトグラフィ) の持つ特性として「写真」の場合は、事物がかつてそこにあったということを決して否定できない。そこには、現実のものでありかつ過去のものである、という切り離せない二重の措置がある。」 (バルト , 1985 , p.93-94) と述べ、写真は撮影された瞬間が写されたとおりであったことを証明するものであるとした。しかし、デジグラフィの登場でその意見は覆ろう。
参考文献：ロラン・バルト .(1985). 明るい部屋 - 写真についての覚書 -, (花輪光 訳) . みすず書房 .

2章 分析・考察

対象ウェブサイトの概要

-
- 2.1. 対象ウェブサイトの構成
 - 2.2. 作品紹介ページ概略
 - 2.3. ウェブサイト作品紹介ページ
表示形式について

2.1. 対象ウェブサイトの構成

一般にウェブサイトはひとつひとつのページに URL アドレスを持ち、独立したページがリンクによって結び付けられていくものである。また、そうしたウェブサイトの多くは、おのこのウェブページをまとめるトップとしてホームページがあり、そこからリゾーム状にページが広がっていく構造をとる^{*1}。それは建築家のウェブサイトでも同様で、まず、事務所のホームページを提示し、そこから、作品介绍・建築家のプロフィール・建築家の受賞歴・事務所概要・掲示板・連絡先などがリンクされている場合が、対象となる 89 事務所 102 作品中、88 事務所 100 作品と圧倒的に多い^{*2}。つまり、建築家がウェブサイト上で自身の作品介绍を行う際、一般のウェブサイトと同様に定式化されたウェブサイト構成の型にはまりやすいといえる。

建築家のウェブサイトの典型例を以下に示す。本研究では、図 3-1 に示す点線で囲った部分の作品介绍ページを対象とする。

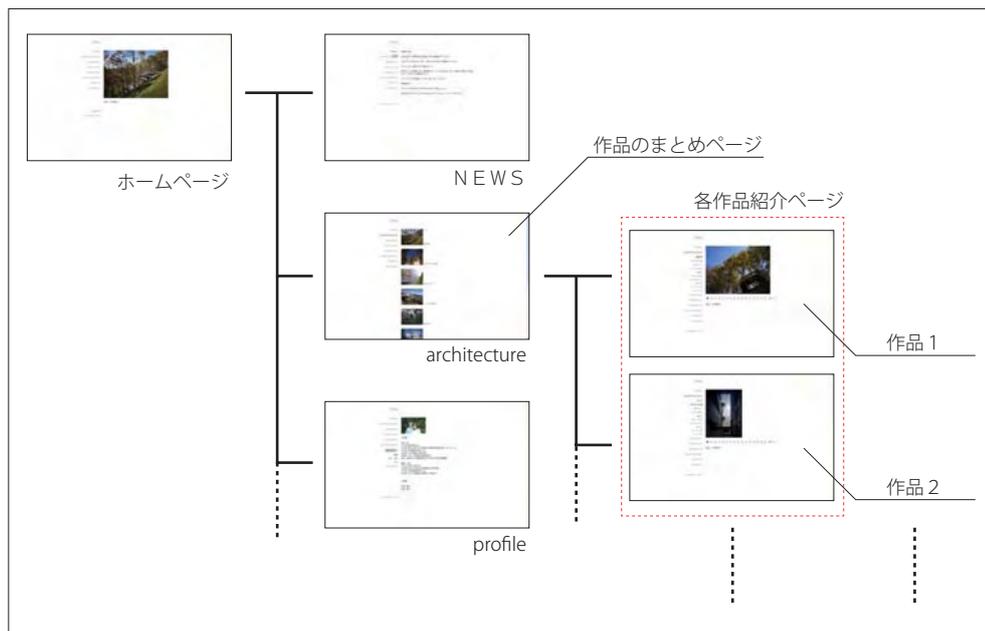


図 2-1-1 ウェブサイトの構成の典型例^{*3}

2.2. 作品紹介ページ概要

対象となる 102 作品の作品紹介ページについて概要を確認する。

まず、作品紹介ページでそこに掲載される言説の有無、図面の有無を確認する。次に、掲載写真枚数についてウェブサイトと専門誌を比較する。

2.2.1. 言説の有無について

研究対象となるウェブサイト

表 2-2-1 言説の有無について

作品紹介ページで各作品ごと言説の有無について調べたところ、	掲載事務所数			掲載作品数		
	言説あり	言説なし	計	言説あり	言説なし	計
件数	49	41	90	53	49	102
割合(%)	54.4	45.6	100	52.0	48.0	100

表 2-2-1 に示すとおりになり、作

品紹介のウェブページ上で個々の作品について紹介する言説があるものが 90 事務所 102 作品中、49 事務所 53 作品であり、割合は事務所で 54.4%・作品数で 52.0%であった。専門誌ではほぼすべての作品で言説による説明が付加されているのに対し、ウェブサイトでは比較的言説による説明がなされにくいことが読み取れる。これは、1 章でも述べたとおりウェブサイトでは文章が読まれにくく、滞在時間も短いという性質から、より視覚にうったえ、即座に建築像をイメージすることのできる写真などのイメージが好まれるといえよう。

2.2.2. 図面の有無について

次に、作品の平面図などの図

表 2-2-2 図面の有無について

平面掲載の有無について確認したところ、表 2-2-2 に示すとおり	掲載事務所数			掲載作品数		
	図面あり	図面なし	計	図面あり	図面なし	計
件数	10	80	90	10	92	102
割合(%)	11.1	88.9	100	9.8	90.2	100

となり、図面掲載のあるものが

90 事務所 120 作品中、10 事務所 10 作品であり、割合は事務所で 11.1%・作品数で 9.8%となった。図面掲載についても言説による説明同様、ウェブサイト上には掲載されにくい傾向が見られた。これは、メディアの構造上ウェブサイトでは、同時に複数の画像を閲覧しづらく、写真閲覧も決められたリンクによって順番に確認せざるをえないため、専門誌のように図面を参照し空間構成を理解することがなされにくいことを示していよう。言い換えると、専門誌では平面図や断面図を見ながら写真を確認するといった手順で建物を理解していき、ページ間も自由に行き来することができることから、内観写真や外観写真な

どが入り混じったような順番で紹介されているにもかかわらず、図面と一緒に確認することでひとつの建築を理解することができる誌面構造にあるといえる。逆に、ウェブサイトではそうした図面と写真による相互補完的な閲覧方法はなされにくいといえるだろう。

2.2.3. 写真枚数について

また、ウェブサイトと専門誌の写真枚数を比較すると、ウェブサイトで1125枚・一作品あたり平均11.0枚、専門誌で947枚・一作品あたり平均9.3枚となり、ウェブサイトのほうが多くの写真で作品を紹介しているということが分かった。一方、枚数の分布は図2-2-1に示すとおりになった。図2-2-1は横軸に各作品紹介に使用された写真の枚数、縦軸に同一枚数の件数を表したものである。図2-2-1より、専門誌では概ね5枚から12枚の写真で作品紹介をしているのに対し、ウェブサイトでは明確な集中は見られなかった。また、標準偏差は専門誌で2.51、ウェブサイトで6.18となり、専門誌に比べウェブサイトでかなり大きなばらつきを確認できる。ウェブサイトでは各事務所ごとに作品紹介ページの構成は自由になされる傾向があり、そのページ構成に枚数による定式はないといえる。以上より、ウェブサイトでは、事務所によって作品紹介枚数にばらつきが見られるが、平均して専門誌より多くの写真で紹介される傾向があるといえる。

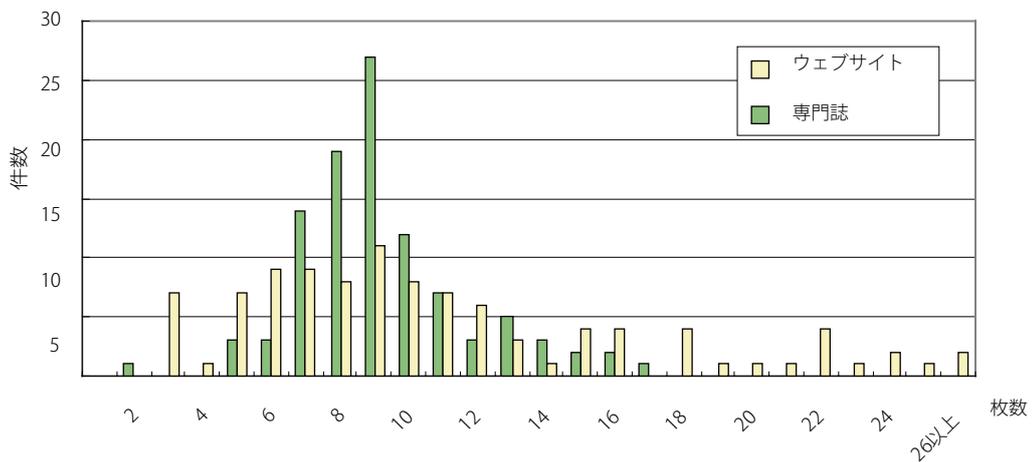


図2-2-1 掲載写真枚数分布

2.3. ウェブサイト作品紹介ページ表示形式について

2.1. で見たように、ウェブサイトの構成では各ウェブサイトごとに大きな差は認められなかった。しかし、研究対象となる作品紹介ページは表示形式に差が見られる。そのためここではその差を明らかにし、ウェブサイト作品紹介ページにおける表示形式についてタイポロジー化する。

2.3.1. ウェブサイト作品紹介ページのタイポロジー化

対象となる 102 作品についてそれぞれの作品紹介ページを確認したところ、ウェブサイト作品紹介ページは 1.『ポップアップ型』、2.『トリミング拡大型』、3.『羅列一覧型』、4.『羅列拡大型』、5.『羅列拡大 + ポップアップ型』の 5 つに分類することができた。以下順を追って説明する。

1. ポップアップ型

サイト上のアイコンをクリックすることで画像が登場するもの。また、画像が別ウィンドウで表示され、その画像をクリックすることで次の画像へと移動していく場合などもこれに含む。クリックしなければ次にどのような画像が登場するか確認することができない。

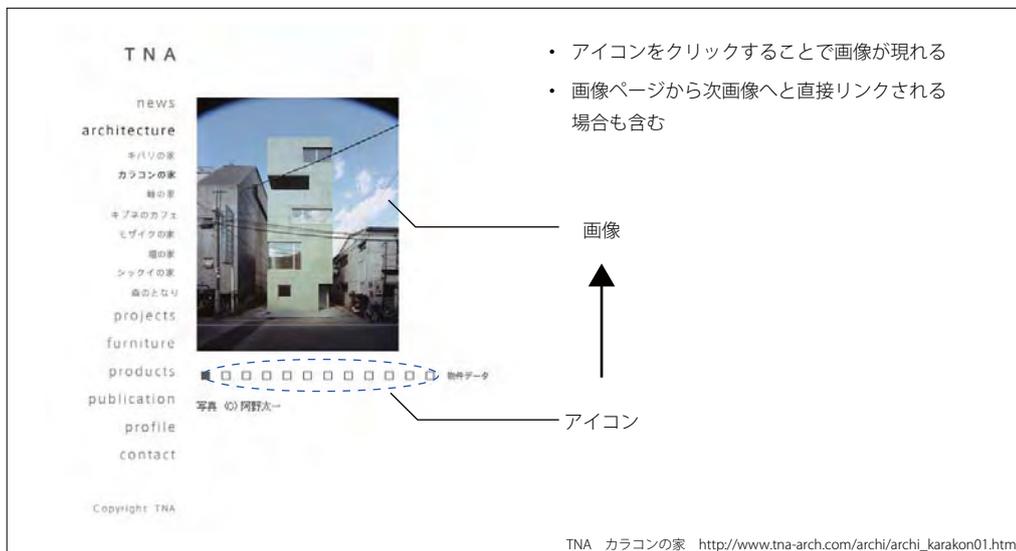


図 2-3-1 ポップアップ型の例^{*4}

2. トリミング拡大型

拡大画像表示される写真のトリミングされた一部をアイコンとして用い、トリミング画像をクリックすることで拡大画像が表示されるもの。多くの場合、トリミング画像はポップアップ型のアイコンと同じ役割となっており、トリミング画像から拡大画像を把握することは困難である。そのため、クリックすることで画像を確認することになる。

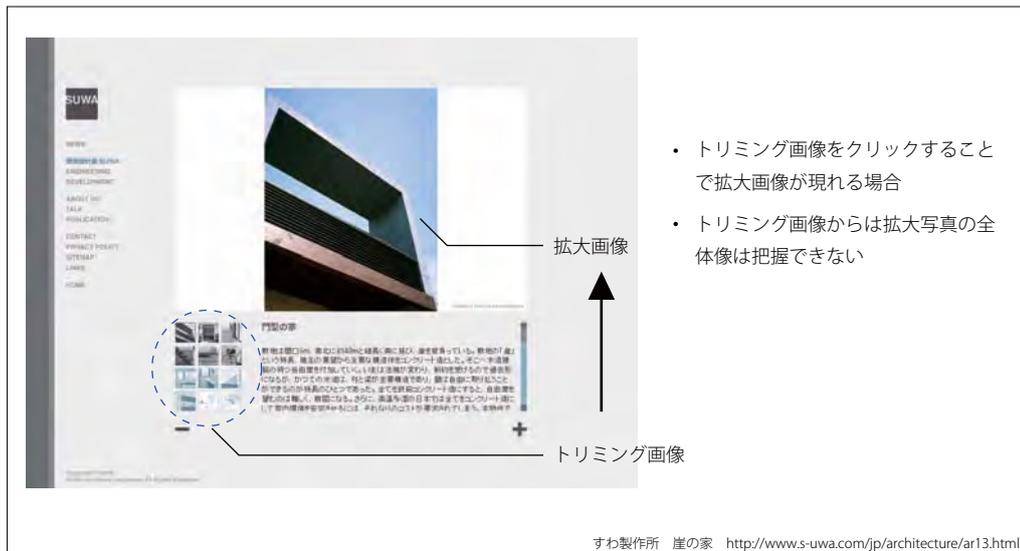


図 2-3-2 トリミング拡大型の例^{*5}

3. 羅列一覧型

1枚のウェブページに写真がレイアウトされており、スクロールによって全体の写真を確認するもの。一枚一枚の写真は拡大されない。一瞥して作品を見ることができ、最も印刷メディアに近い構成であるといえる。



図 2-3-3 羅列一覧型の例^{*6}

4. 羅列拡大型

一覧表示された縮小画像があり、それらをクリックすると拡大画像に変わるもの。拡大画像は別ウィンドウで表示されたり、同一画面内で表示されたりする。また、別ウィンドウで開かれた場合、そのウィンドウからは次画像にリンクすることは不可能である。羅列された縮小画像だけで一瞥して作品の概略を確認することができ、クリックすることでより詳しく見ることができる。



図 2-3-4 羅列拡大型の例^{*7}

5. 羅列拡大 + ポップアップ型

羅列拡大型同様、縮小画像をクリックすることで拡大画像になり、拡大画像から直接次の画像にリンクされ画像表示を進めることができるもの。多くの場合、拡大画像は別ウィ



図 2-3-5 羅列拡大 + ポップアップ型の例^{*8}

ンドウで表示され、そのウィンドウ内で次画像へリンクすることができる。縮小画像が一覧的に表示された段階では羅列拡大型の性質を持ち、拡大画像をひらいた後に画像から画像へとリンクされていく場合はポップアップ型の性質を持つ。

以上の5分類は次画像の確認の仕方において大きく3つに分けることができる。

ポップアップ型とトリミング拡大型は次画像にどのようなものが表示されるかを認識することが困難であり、次から次へと画像を進めていくことで全体を把握するものである。また、限定されたルートをリンクによって結んでいくため、前後間の写真の連続性が重要となるといえよう。また、これらのものは写真が現れては消えていくといったウェブサイトの特徴やデジグラフィの消去性などを顕著に表す形式である。以上より、ポップアップ型とトリミング拡大型を合わせて『ポップアップ系統』とする。

また、羅列一覧型と羅列拡大型はスクロール、もしくは縮小画像によって一瞥して作品の全体を確認することができるものである。その点で印刷メディアに近い性質を有している。以上より羅列一覧型と羅列拡大型を合わせて『羅列系統』とする。

最後に、羅列拡大+ポップアップ型は羅列系統とポップアップ系統の両方の性質を有するため、『複合系統』とする。また、複合系統は理論的には複数存在する可能性があるが、本研究の対象のなかでは羅列拡大+ポップアップ型のみ確認することができた。

2.3.2. 分類結果

分類結果は表 2-3-1 及び、図 2-3-6 に示すとおり、ポップアップ型が 41 作品 (40.2%)・トリミング拡大型が 18 作品 (17.6%)・羅列一覧型 18 作品 (17.6%)・羅列拡大型 16 作品 (15.7%)・羅列拡大+ポップアップ型 9 作品 (8.8%) であった。系統別に見ると、ポップアップ系統 59 作品 (57.8%)、羅列系統 34 作品 (33.3%)、複合系統 9 作品 (8.8%) となった。

表示形式で一番多く用いられる分類はポップアップ型であり、続いてトリミング拡大型・羅列一覧型となった。また、系統別ではポップアップ系統が全体の約 6 割を占めることが分かる。ポップアップ系統はウェブサイトの特色を表しやすい形式であり、ウェブサイト特有の表示形式が好まれることが読み取れる。

以下、3 章の 3.5. 及び、4 章の 4.3. で本分類を基に考察を行う。

表 2-3-1 分類結果

作品数 計	ポップアップ系統		羅列系統			複合系統
	ポップアップ型	トリミング拡大型	羅列一覧型	羅列拡大型	羅列拡大+ポップアップ型	
	41	18	18	16	9	
	59		34			9

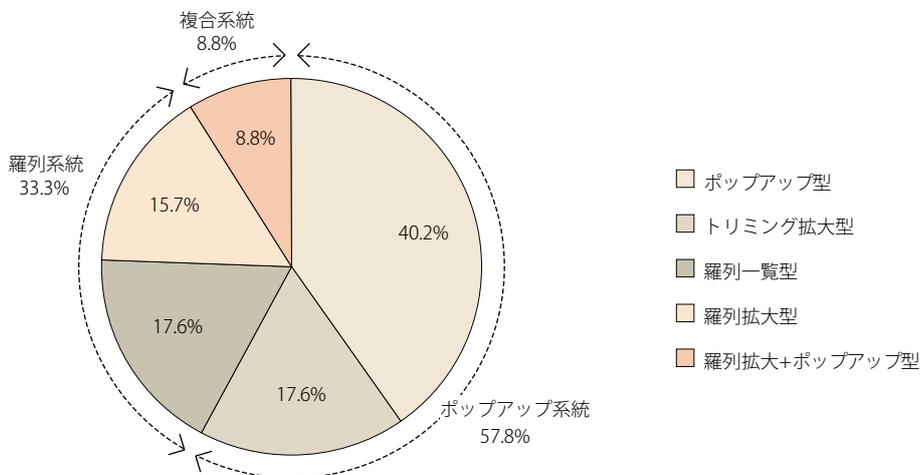


図 2-3-6 分類結果 (グラフ)

表 2-3-2 ウェブサイト概要データ

NO.	掲載月	建築家名	事務所名	作品名	言説紹介の有無	図面の有無	1サイト写真枚数	専門誌写真枚数	ウェブサイト表示形式
1	1	芦沢啓治	芦沢啓治建築設計事務所	K邸	○	-	8	2	羅列拡大型
2	1	清水貞博・松崎正寿・清水裕子	atelier A5	KA house	○	-	15	8	ポップアップ型
3	1	河内一泰	河内建築設計事務所	colors	○	-	10	7	羅列一覧型
4	1	桜井一弥+太田秀俊+安田直民	SOY source	O博士の家	○	○	8	5	ポップアップ型
5	1	眞田大輔	すわ製作所	崖の家	○	-	10	9	トリミング拡大型
6	1	武井誠・鶴島千恵	TNA	カラコンの家	-	-	12	9	ポップアップ型
7	1	中村拓志	N A P 建築設計事務所	Necklace House	○	-	15	11	ポップアップ型
8	2	宮崎浩	プランツアソシエイツ	富士河口湖の家	○	-	5	15	羅列拡大+ポップアップ型
9	2	納谷学・納谷新	納谷建築設計事務所	北茨城の平屋	○	-	24	8	羅列拡大型
10	2	八木敦司	八木淳司建築設計事務所	ラビットハウス	○	-	13	9	羅列拡大型
11	2	早草睦恵	セルスペース	万華鏡の家	○	-	18	9	羅列拡大+ポップアップ型
12	2	松野勉・相澤久美	一級建築士事務所ライフアンドシェルター社	多重の景色	○	-	10	7	羅列拡大型
13	2	宇野享	シーラカンズアンドアソシエイツ名古屋/CA	崖の岩	-	-	7	11	ポップアップ型
14	2	磯部邦夫	アーキショップ一級建築士事務所	中野の家	○	-	9	7	羅列拡大型
15	2	川口英俊	アーキテクト・キューブ	AM・house	○	-	10	10	トリミング拡大型
16	3	山中新太郎	山中新太郎建築設計事務所	幸手ハウス	○	-	16	8	トリミング拡大型
17	3	久保清一・鍵山昌信+村辻水音	アルキービ総合計画事務所	和歌浦の家	-	-	6	10	ポップアップ型
18	3	小泉誠	Koizumi Studio	国立の家	-	-	3	8	ポップアップ型
19	3	高安重一	アーキテクチャー・ラボ	点/線HOUSE	○	-	7	10	ポップアップ型
20	3	中村潔	中村潔建築設計事務所	北沢の家	○	-	7	9	ポップアップ型
21	3	石橋利彦	石橋徳川建築設計所	I邸	○	-	6	9	ポップアップ型
22	3	中村勝己	中村勝己建築設計事務所	スタジオハウス	○	-	11	9	羅列一覧型
23	4	横内敬人	横内敬人建築設計事務所	たて庭の家	○	○	16	8	羅列拡大型
24	4	菅正太郎	すがアトリエ	Co	○	○	11	9	羅列拡大型
25	4	遠藤政樹	EDH遠藤設計室	ナチュラルフレックス	○	-	7	9	ポップアップ型
26	4	遠藤政樹	EDH遠藤設計室	ナチュラルスティック	○	-	6	7	ポップアップ型
27	4	小谷野直幸+田辺芳生	PRIME/プライム建築都市研究所	前橋の家	○	-	10	9	ポップアップ型
28	4	納谷学・納谷新	納谷建築設計事務所	西新井の住宅	○	-	18	8	羅列拡大型
29	4	小泉雅生	小泉アトリエ	イガタ	-	-	3	7	トリミング拡大型
30	4	伊丹潤	伊丹潤建築研究所	私の別荘	-	-	3	8	羅列拡大+ポップアップ型
31	4	小山光	キー・オペレーション一級建築士事務所	フラット・ヒロオ	○	○	11	6	羅列拡大型
32	4	伊礼智	伊礼智設計室	古くて新しい事務所	○	○	22	7	羅列一覧型
33	4	海野健三	海建築家工房	Stone Renaissance	○	-	6	6	羅列一覧型
34	4	鈴木エドワード	鈴木エドワード建築設計事務所	下鴨の家	-	-	3	9	羅列一覧型
35	4	佐藤哲也+布施木綿子	佐藤・布施建築事務所	風の家	-	-	8	7	ポップアップ型
36	4	植木幹也	スタジオシナプス	アイマ	○	-	20	7	ポップアップ型
37	5	山下保博	アトリエ・天工人	チカニマルコウブツ	○	○	12	10	トリミング拡大型
38	5	宮本佳明	宮本佳明建築設計事務所	クローバーハウス	-	-	9	16	羅列拡大型
39	5	宮本佳明	宮本佳明建築設計事務所	grappa	-	-	10	15	羅列拡大型
40	5	彦根明	彦根建築設計事務所	BOZ	-	-	10	8	羅列一覧型
41	5	安田博道	環境デザイン・アトリエ	松ヶ丘の家	-	-	4	7	トリミング拡大型
42	5	新関謙一郎	NIZEKI STUDIO	WEP下北沢	-	-	8	13	ポップアップ型
43	5	仲亀清進	仲亀清進建築事務所	吉祥寺の家	○	-	22	7	ポップアップ型
44	5	山本卓郎	山本卓郎建築設計事務所	H/Orange	-	-	22	8	ポップアップ型
45	5	向山徹	向山徹建築設計室	田口の家	-	-	9	5	トリミング拡大型
46	6	山本恭弘	聖建築研究所	風笛の舎	○	-	5	12	羅列一覧型
47	6	佐藤重徳	佐藤重徳建築設計事務所	府中の住宅	○	○	15	11	羅列拡大+ポップアップ型
48	6	小川晋一	小川晋一都市建築設計事務所	CENTER COURT HOUSE	-	-	5	8	ポップアップ型
49	6	西島正樹	プライム一級建築士事務所	日本橋 八辺の家	○	-	9	9	羅列一覧型
50	6	二宮博・菱谷和子	ステューディオ 2アーキテクト	TROLLY	-	-	24	7	ポップアップ型
51	6	矢部達也	矢部達也建築設計事務所	コトパノイエ	-	-	35	7	羅列拡大+ポップアップ型
52	7	青木淳	青木淳建築計画事務所	A	-	-	5	11	トリミング拡大型
53	7	山隈直人	kt一級建築士事務所	ハマの家 beach house	-	-	6	9	羅列拡大型
54	7	小長谷亘	小長谷亘建築設計事務所	牛久の住宅	○	-	23	8	羅列拡大型
55	7	都留理子	都留理子建築設計スタジオ	生田H	-	-	13	6	ポップアップ型
56	7	木内厚子	Sutudio8	南伊豆のセカンドハウス	-	-	7	9	羅列拡大+ポップアップ型
57	7	武井誠・鶴島千恵	TNA	モザイクの家	-	-	16	11	ポップアップ型
58	8	早川邦彦	早川邦彦建築研究室	朱雀の家	○	-	6	9	ポップアップ型
59	8	木原千利・多田雅	木原千利設計工房	不盡の舎	-	-	7	17	トリミング拡大型
60	8	千葉学	千葉学建築計画事務所	六会の家	-	-	5	9	ポップアップ型
61	8	坂本昭	坂本昭・設計工房CASA	勝山の家	-	-	5	14	トリミング拡大型
62	8	石田敏明	石田敏明建築設計事務所	YONハウス	-	-	5	9	トリミング拡大型
63	8	岸本和彦	aca	湯河原の家	-	-	11	10	羅列拡大型
64	8	柳沢潤	コンテンツポラリス	SKIP HOUSE	○	-	8	12	ポップアップ型
65	8	前田紀貞	前田紀貞アトリエ	THEN?	-	-	14	5	羅列拡大型
66	8	榎本弘之	榎本弘之建築研究所	ホワイト・モノリス	-	-	28	9	羅列一覧型
67	8	木下洋	キノシタ建築研究所	観松の家	○	-	25	13	ポップアップ型
68	9	堀部安嗣	堀部安嗣建築研究所	浅草の家	-	-	3	9	羅列一覧型
69	9	堀部安嗣	堀部安嗣建築研究所	東山の家	-	-	3	13	羅列一覧型
70	9	手塚貴晴・手塚由比	手塚建築研究所	回廊の家	○	-	11	9	ポップアップ型
71	9	眞田大輔	すわ製作所	門型の家	○	-	12	10	トリミング拡大型
72	9	石原健也+中野正也	デネフェス計画研究所	HOUSE_SAKT	-	-	8	9	ポップアップ型
73	9	遠藤政樹	EDH遠藤設計室	ナチュラルパッチ	○	-	9	13	ポップアップ型
74	9	窪田勝文	窪田建築アトリエ	T-HOUSE	○	○	12	13	ポップアップ型
75	9	小嶋一浩	CA t	JETTY CABIN	○	-	7	9	ポップアップ型
76	10	横河建	横河設計工房	八ヶ岳のI邸	-	-	8	14	羅列一覧型
77	10	内海智行	milligram studio	俯仰の切妻	-	-	10	12	トリミング拡大型
78	10	入江経一	入江経一+Power Unit Studio	M house	-	-	18	10	ポップアップ型
79	10	大塚聡	大塚聡アトリエ	白州の週末住宅	○	-	19	8	羅列一覧型
80	10	飯田喜彦	飯田喜彦建築工房	御水端N山荘	-	-	7	10	ポップアップ型
81	10	二瓶涉・古谷清寿	アーキエア	段の家	○	-	3	10	羅列一覧型
82	10	早草睦恵	セルスペース	水平線の家	-	-	9	11	羅列拡大+ポップアップ型
83	10	早草睦恵	セルスペース	緑陰の家	-	-	22	10	羅列拡大+ポップアップ型
84	10	田井勝馬	田井勝馬建築設計工房	湘南の家	○	-	16	8	トリミング拡大型
85	10	小杉浩久	プロップ・ポジション一級建築士事務所	karuzawa-K	-	-	21	9	トリミング拡大型
86	10	甲村健一	KEN一級建築士事務所	森泉山荘の家	○	-	7	10	ポップアップ型
87	11	五十嵐淳	五十嵐淳建築設計	room/set	-	-	12	11	ポップアップ型
88	11	手嶋保	手嶋保建築事務所	大室高原の家	-	-	13	8	ポップアップ型
89	11	庄司寛	庄司寛建築設計事務所	都筑の家	-	-	9	9	トリミング拡大型
90	11	村田靖夫・村田淳	村田靖夫建築研究室	丘の切妻	○	-	11	8	羅列一覧型
91	11	仲亀清進	仲亀清進建築事務所	三ツ池の家	○	-	9	8	羅列拡大+ポップアップ型
92	11	粕谷淳司・粕谷奈緒子	カスヤアーキテクトソフィス	TWIST	○	○	9	8	羅列拡大型
93	11	八島正年・八島夕子	八島建築設計事務所	葉山の家	○	-	8	7	ポップアップ型
94	11	高木雅行	一級建築事務所アルキノバ	キーンズメドウ・カントリーハウス	-	-	6	16	ポップアップ型
95	12	横河建	横河設計工房	八丁堀・櫻庵 LC-SH12	-	-	6	10	羅列一覧型
96	12	伊礼智	伊礼智設計室	東京町家 あずきハウス	-	-	11	9	羅列一覧型
97	12	奥村和幸	奥村和幸建築設計室	Oval Panel House	○	○	9	9	トリミング拡大型
98	12	安藤和浩・田野恵利	アンドウ・アトリエ	大塚の家	-	-	18	8	羅列一覧型
99	12	塚田修大	塚田修大建築設計事務所	ホワイトロ	-	-	9	8	ポップアップ型
100	12	森清敏・川村奈津子	MDS一級建築士事務所	鉄の家	-	-	15	14	ポップアップ型
101	12	小笠原絵里	間工作舎	桂坂の家	○	-	12	9	ポップアップ型
102	12	吉本剛	吉本剛建築研究室	BARN_6	-	-	6	7	トリミング拡大型
計					53	10	1125	947	

註及び参考文献

- 1) ヤコブ・ニールセン.(2002). ホームページ・ユーザビリティ,(風工舎 訳). エムディエヌコーポレーション.
- 2) 唯一の例外は伊礼智設計室 (<http://irei.exblog.jp/>) であり、これは一般のポータルサイトのブログを事務所のウェブサイトとしている例であり、ブログの中に作品の紹介項目が存在するものであった。
- 3) TNA. 事務所ウェブページ. (<http://www.tna-arch.com>) .2008 年 10 月 1 日取得
- 3) TNA. カラコンの家. (http://www.tna-arch.com/archi/archi_karakon01.html) .2008 年 10 月 1 日取得
- 4) すわ製作所. 崖の家. (<http://www.s-uwa.com/jp/architecture/ar13.html>) .2008 年 10 月 1 日取得
- 5) 中村潔建築設計事務所. スタジオハウス. (<http://www.nakakatu.com/sth.html>) .2008 年 10 月 1 日取得
- 6) 芦沢啓治建築設計事務所.K 邸. (<http://www.kejjidesign.com/k-house.html>) .2008 年 10 月 1 日取得
- 7) セルスペース. 万華鏡の家. (<http://www.asahi-net.or.jp/~pj3h-sk/Kaleidoscope-j/kaleidoscope-j.html>) .2008 年 10 月 1 日取得

3章 分析・考察

写真の連続性について

-
- 3.1. 分析方法
 - 3.2. 写真分類について
 - 3.3. 全体写真前後間の連続性
 - 3.4. 内観シーン・外観シーンごとの
写真の連続性
 - 3.5. ウェブサイト作品紹介ページ
表示形式ごとのシーン構成
 - 3.6. 写真一枚ごとにおける連続性
 - 3.7. 小結

3. 分析・考察 —写真の連続性について—

ウェブサイトにはページ滞在時間が印刷メディアに比べ短いことや、リンクによって限定されたルートでしか画像閲覧しにくいといった特性がある。また、建築家のウェブサイトの作品紹介ページでもウェブサイトの特性の出やすい『ポップアップ系統』が多く使われている事を2章で確認した。

つまり、写真を見る順番が比較的自由であり写真を一覧的に確認できる専門誌などの印刷メディアに比べ、ウェブサイトでは限定されたルートで順番どおりに写真を確認していくことから写真の前後間の連続性が重要となることが予測される。そこで、本章では写真の連続性に着目し分析・考察を試みる。

ウェブサイトの写真順番は、ポップアップによって現れる順番もしくはスクロールする場合は上から下への順番とし、並列に並んでいるときは右上から左下へと順番をつけた。また、専門誌については1ページごと右上から左下への順番とした。さらに、両メディアともレイアウトだけでは順番判断がしにくい場合(同じサイズの写真が縦横に並んでいる場合など)、直前の写真と連続するものを次の順番の写真として優先した。

◆本章の構成

まず3.1.で分析方法を示す。次に3.2.で写真分類について、3.3.で前後する写真とおしの連続性について分析・考察し、3.4.で写真を内観・外観の大きなかたまりで見ることで、内観写真及び外観写真のかたまり同士の連続性を確認する。さらに、3.5.でウェブサイト作品紹介ページの表示形式ごとで前節までに示した項目でどのような差が出るのかを確認する。最後に、3.6.で写真一枚が作品紹介に使われる他写真とどのように連続しているのかを確認する。さらにそれをもとに、専門誌で扱われる大写真がウェブサイトではどのように扱われているのかを考察する。

3.1. 分析方法

全写真のうち竣工後写真を"内観"と"外観"に、竣工前写真をパース・模型・アクソメなどの"設計過程"のものと"工事写真"に4分類する。

次に、前後する写真の関係を図 3-1-1 に示す連続手法で捉える*1。

連続の手法は大きく、空間的連続と動線的連続に分けることができる。空間的連続とは同一空間を連続して取り上げている場合であり、空間的な移動は伴わない。また、動線的連続は同一空間ではなく、他空間と連続して取り上げられている場合であり、視点移動を伴って異空間を移動しながら連続するものである。以下にそれぞれの連続の詳細を示す。また、空間的連続・動線的連続のどちらにも該当せず、連続とならない場合を不連続とする。また、以下では連続手法を指す際、図 3-1-1 に示すそれぞれの連続手法に対応した記号を用いる。

「空間的連続」

1. 視線の連続

- a. ズーム：写真の対象に向かって写真視線が近づいたり遠ざかったりするもの。
- b. パン・ティルト：パンは垂直軸を固定し、写真視線を左右に回転させるもの。
ティルトは水平軸を固定し、写真視線を上下に回転させるもの。
- c. オーバーレイ：同一空間を撮影し、撮影対象が重なったもの。同一空間を多視点で移動しながら連続する。

2. 同一視点場面変化による連続

同一視点で、昼景・夜景の変化、家具の用途変化などの場面変化がある場合。

「動線的連続」

1. 動線による連続

写真内に動線を喚起させるような要素となりうる、階段・廊下・スロープなどがあり、その移動経路にしたがって写真が連続している場合。

2. 開口による連続

扉・窓などが写真内に存在し、その先に移動した写真が連続している場合。主に内観写真と外観写真が連続する。

3. 吹抜による連続

吹抜などによって上下のつながりを想起させるような写真が連続している場合。動線による連続が確認できない場合に適用。

竣工後写真		竣工前写真	
内観写真 ■ 	外観写真 □ 	工事写真 ● 	模型・パースなど設計段階のもの ○ 

(佐藤重徳建築設計事務所 府中の住宅 *2)

	連続の手法	記号	例
空間的連続	ズーム ズームイン ズームアウト	ズームイン ■ < ■ ズームアウト ■ > ■	 ズームイン ズームアウト □ < □ □ > □ ズームイン ズームアウト (塚田修大建築設計事務所 ホワイトロ *3)
	パン・ティルト パン ティルト	パン ■ → ■ ティルト ■ ↑ ■	 パン ■ → ■ ■ ↑ ■ ティルト ■ ↑ ■ (納谷建築設計事務所 北茨城の平屋 *4) (TNA モザイクの家 *5)
	オーバーレイ 同一空間を撮影し、 撮影対象が重なったもの	■ ⇔ ■	 □ ⇔ □ ■ ⇔ ■ (山中新太郎建築設計事務所 幸手ハウス *6)
	同一視点場面変化による連続 同一視点で、時間帯の 変化、家具の変化などの 場面変化がある場合	■ v ■	 □ v □ ■ v ■ (TNA カラコンの家 *7) (納谷建築設計事務所 西新井の住宅 *8)
動線的連続	動線による連続 写真内に階段・廊下 などがあり、その移動経 路にしたがって写真が連 続している場合	■ c ■	 □ c □ ■ c ■ (佐藤・布施建築事務所 風の家 *9) (佐藤重徳建築設計事務所 府中の住宅 *10)
	開口による連続 扉・窓などが写真内に 存在し、その先に移動 した写真が連続している 場合	■ w ■	 □ w □ ■ w ■ (前田紀貞アトリエ THEN? *11)
	吹抜による連続 吹抜などによって上下 のつながりを想起させ るような写真が連続し ている場合	■ s ■	 ■ s ■ (青木淳建築計画事務所 A *12)
不連続	上記の連続の手法 がいずれも確認でき ない場合	■ · ■	

図 3-1-1 連続手法

3.2. 写真分類について

対象写真を 3.1. で示したように内観, 外観, 模型/パースなど設計段階のもの, 工事風景に分類し、総数を確認したところ、表 3-2-1 及び、図 3-2-1 に示すとおりになった。

表 3-2-1 写真分類(表)

	■	□	●	○	計
ウェブサイト	694	376	15	40	1125
専門誌	599	292	22	34	947

(単位:枚)

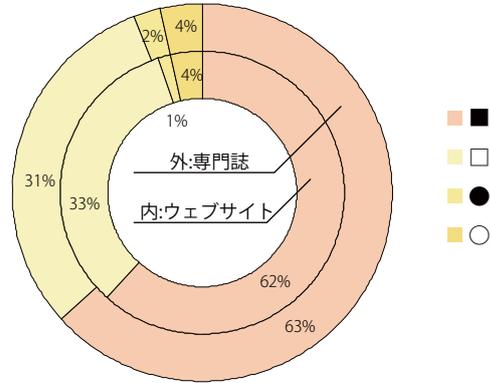


図 3-2-1 写真分類(グラフ)

図 3-2-1 より、ウェブサイトと専門誌双方で、内観写真が約 60%強, 外観写真が 30%強, 残りが 5%程度となっており明確な差は見られなかった。両メディアとも写真分類では相似しており、取り上げられる写真の分類についてメディアによる特色を持ちにくいことが分かる。

3.3. 全体写真の前後間の連続性

前節で、扱われる写真分類には明確な差異があらわれないことを確認した。ここでは前後する2枚の写真の連続性を3.1.で示した写真の連続性の手法で分類し、考察する。

対象となる写真はウェブサイトで1125枚、専門誌で947枚であるから、写真間のつながりとなる部分はウェブサイトで1023、専門誌で845となる。それらについての連続手法を分類した結果を表3-3-1及び、図3-3-1にまとめる。

表 3-3-1 全体写真前後間の連続手法 (表)

	・	>,<	→,↑	⇔	v	c	w	s	計
ウェブサイト	476	39	24	325	21	92	36	10	1023
専門誌	573	10	19	124	5	66	33	15	845

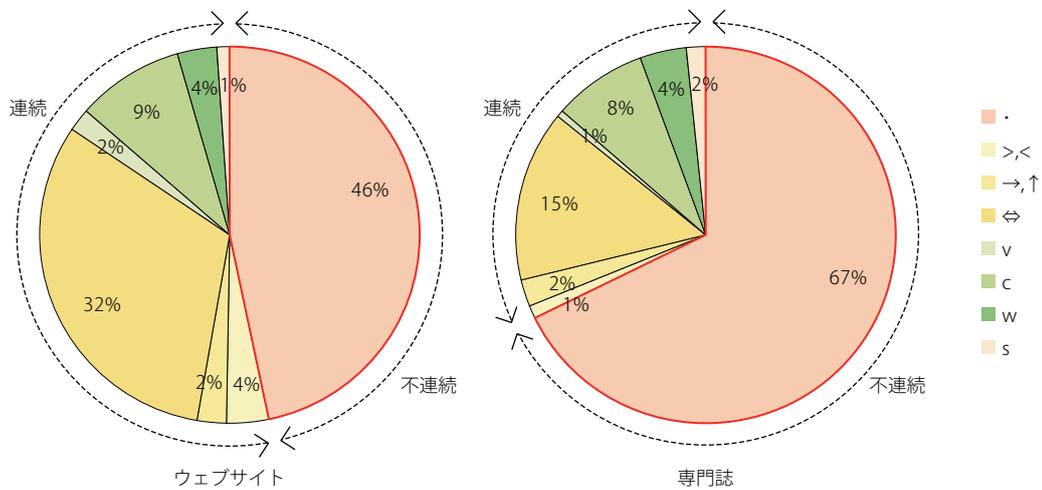


図 3-3-1 全体写真前後間の連続手法 (図)

図3-3-1より、不連続な写真のつながりについて(図中赤枠線)ウェブサイトで46%、専門誌で67%と大きな差が出た。ウェブサイトでは前後で連続した写真を用いることが多く、一連のつながりのなかで建築を理解させる構成となっているといえる。一方、専門誌では不連続な構成が比較的多いことが分かる。これは、ウェブサイトでは限定されたルートでしか写真閲覧できないのに対し、専門誌ではページごとの移動がしやすく一覽的に誌面を見ることが出来るため、不連続性が理解の妨げになりにくいからと思われる。

また、表3-3-1の不連続を除いた写真の連続手法について図化したものが、次ページに示す図3-3-2である。図3-3-2から、オーバーレイについて(図中赤枠線)ウェブサイトでは59%、専門誌で45%と大きな差異が出たことから、ウェブサイトで同一空間を多視点の複数ショットで連続して掲載する傾向を読みとることができる。また、空間的連続と動線的連続を比べたとき、ウェブサイトで空間的連続74%、動線的連続26%、専門誌で空間的連続58%、動線的連続42%となり、専門誌に比べウェブサイトで空間的連続が多い

ことが分かる。ここからも、ウェブサイトで同一空間を連続的に紹介する傾向が強いことが分かる。

以上結果から、ウェブサイトでデジグラフィの消去性やウェブページの滞在短期性の影響から、同一空間における連続的な視覚情報の数量を増加させる傾向を読み取ることができる。

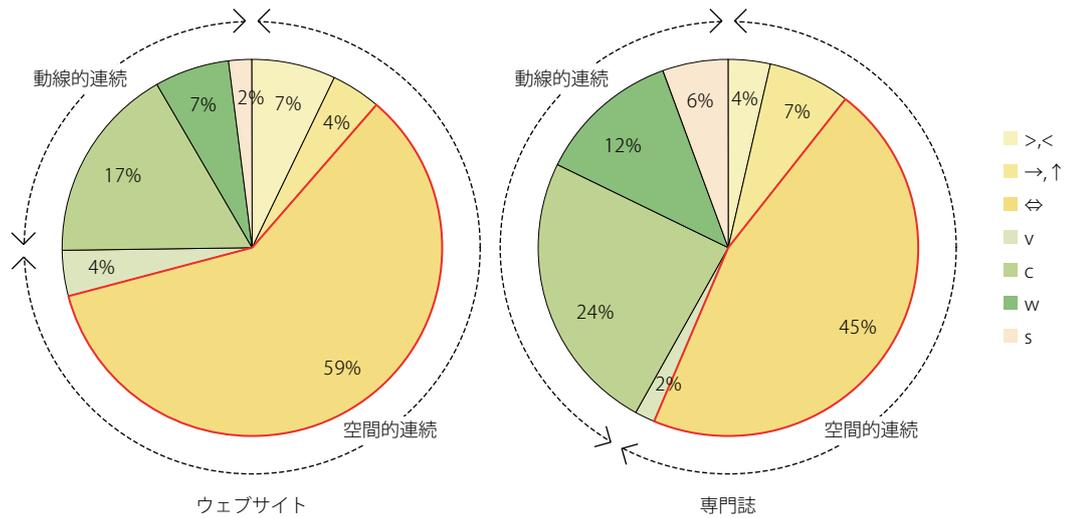


図 3-3-2 不連続を除く写真の連続手法



図 3-3-3 写真の連続手法の例

表 3-3-2 全体写真前後間の連続手法データシート (ウェブサイト)

NO.	建築家名	事務所名	作品名	写真枚数	連続手法								計	
					・	>,<	↑,↓	⇔	v	c	w	s		
1	芦沢啓治	芦沢啓治建築設計事務所	K邸	8	5			2						7
2	清水貞博・松崎正春・清水裕子	atelier A5	KA house	15	5			6		2	1			14
3	河内一泰	河内建築設計事務所	colors	10	3			2		2	2			9
4	桜井一弥+太田秀俊+安田直民	SOY source	O博士の家	8	7									7
5	眞田大輔	すわ製作所	崖の家	10	5	1		2		1				9
6	武井誠・鍋島千恵	TNA	カラコンの家	12	5			3	1	2				11
7	中村拓志	N A P 建築設計事務所	Necklace House	15	4		1	8			1			14
8	宮崎浩	プランツアソシエイツ	富士河口湖の家	5	4									4
9	納谷学・納谷新	納谷建築設計事務所	北茨城の平屋	24	7			2	11		2		1	23
10	八木敦司	八木淳司建築設計事務所	ラビットハウス	13	2		1	6		3				12
11	早草睦恵	セルスペース	万華鏡の家	18	11				6					17
12	松野勉・相澤久美	一級建築士事務所ライフアンドシエルトー社	多重の景色	10	5	1		3						9
13	宇野享	シーラカンズアンドアソシエイツ名古屋/CA/n	崖の岩	7	3			1		2				6
14	磯部邦夫	アーキショップ一級建築士事務所	中野の家	9	1		2	2		1	1	1		8
15	川口英俊	アーキテクト・キューブ	AM・house	10	5			1		2	1			9
16	山中新太郎	山中新太郎建築設計事務所	幸手ハウス	16	4	1		7		3				15
17	久保清一+鎌山昌信+村辻水音	アルキービ総合計画事務所	和歌浦の家	6	4						1			5
18	小泉誠	Koizumi Studio	国立の家	3	2									2
19	高安重一	アーキテクトチャー・ラボ	点/線HOUSE	7	4			1			1			6
20	中村潔	中村潔建築設計事務所	北沢の家	7	4			1			1			6
21	石橋利彦	石橋徳川建築設計所	I邸	6	2			2			1			5
22	中村勝己	中村勝己建築設計事務所	スタジオハウス	11	3	1		4			2			10
23	横内敬人	横内敬人建築設計事務所	たと庭の家	16	7	1		6			1			15
24	菅正太郎	すがアトリエ	Co	11	3			5			1	1		10
25	遠藤政樹	EDH遠藤設計室	ナチュラルフレックス	7	5			1						6
26	遠藤政樹	EDH遠藤設計室	ナチュラルスティック	6	2			2		1				5
27	小谷野道幸+田辺芳生	PRIME/プライム建築都市研究所	前橋の家	10	5	1		2		1				9
28	納谷学・納谷新	納谷建築設計事務所	西新井の住宅	18	4		1	8	3	1				17
29	小泉雅生	小泉アトリエ	イガタ	3	3			2						2
30	伊丹潤	伊丹潤建築研究所	私の別荘	3	2									2
31	小山光	キー・オペレーション一級建築士事務所	フラット・ヒロオ	11	6			3	1					10
32	伊礼智	伊礼智設計室	古くて新しい事務所	22	16	2		2	1					21
33	海野健三	海建築家工房	Stone Renaissance	6	3					1		1		5
34	鈴木エドワード	鈴木エドワード建築設計事務所	下鴨の家	3	2									2
35	佐藤哲也+布施木綿子	佐藤・布施建築事務所	風の家	8	3			1			3			7
36	橋本幹也	スタジオシナプス	アイマ	20	10			6		3				19
37	山下保博	アトリエ・木工人	チカニウマルコウブツ	12	4	2		3	1	1				11
38	宮本佳明	宮本佳明建築設計事務所	クローバーハウス	9	5			3						8
39	宮本佳明	宮本佳明建築設計事務所	grappa	10	5	1		2		1				9
40	彦根明	彦根建築設計事務所	BOZ	10	5	1		1	2					9
41	安田博道	環境デザイン・アトリエ	松ヶ丘の家	4	2			1						3
42	新関謙一郎	NIZEKI STUDIO	WEP下北沢	8	5	1		1						7
43	仲亀清進	仲亀清進建築事務所	吉祥寺の家	22	4	1		11		5				21
44	山本卓郎	山本卓郎建築設計事務所	H/Orange	22	14			3		3	1			21
45	向山徹	向山徹建築設計室	田口の家	9	3		1	3	1					8
46	山本恭弘	聖建築研究所	風笛の舎	5	2	1		1						4
47	佐藤重徳	佐藤重徳建築設計事務所	府中の住宅	15	6			6		2				14
48	小川晋一	小川晋一都市建築設計事務所	CENTER COURT HOUSE	5	3			1						4
49	西島正樹	プライム一級建築士事務所	日本橋 川辺の家	9	6			1		1				8
50	二宮博・菱谷和子	ステューディオ2アーキテクト	TROLLY	24	5	1		12	1	3	1			23
51	矢部達也	矢部達也建築設計事務所	コトバイエ	35	13	2	7	9			3			34
52	青木淳	青木淳建築設計事務所	A	5	3							1		4
53	山隈直人	kt一級建築士事務所	ハマの家 beach house	6	2			1	1	1				5
54	小長谷巨	小長谷巨建築設計事務所	牛久の住宅	23	6	2	1	8	1	3		1		22
55	都留理子	都留理子建築設計スタジオ	生田H	13	3	1		6		2				12
56	木内厚子	Sutudio8	南伊豆のセカンドハウス	7	3			3						6
57	武井誠・鍋島千恵	TNA	モザイクの家	16	3	2	1	7		2				15
58	早川邦彦	早川邦彦建築研究室	朱雀の家	6	2			3						5
59	木原千利・多田雅	木原千利設計工房	不盡の舎	7	4			2						6
60	千葉学	千葉学建築設計事務所	六会の家	5	1			2		1				4
61	坂本昭	坂本昭・設計工房CASA	勝山の家	5	3			1						4
62	石田敬明	石田敬明建築設計事務所	YONハウス	5	3					1				4
63	岸本和彦	aca	湯河原の家	11	7			3						10
64	柳沢潤	コンテンポラリーズ	SKIP HOUSE	8	4			1	1	1				7
65	前田紀貞	前田紀貞アトリエ	THEN?	14	2			3	1		7			13
66	榎本弘之	榎本弘之建築研究所	ホワイト・モノリス	28	14	1		9		3				27
67	木下洋	キノシタ建築研究所	観松の家	25	11			8	1	3	1			24
68	堀部安嗣	堀部安嗣建築研究所	浅草の家	3	1					1				2
69	堀部安嗣	堀部安嗣建築研究所	東山の家	3	2									2
70	手塚豊晴・手塚由比	手塚建築研究所	回廊の家	11	3			5		1	1			10
71	眞田大輔	すわ製作所	門型の家	12	5		1	3		2				11
72	石原健也+中野正也	デネフェエスタジオ	HOUSE_SAKT	8	2			5						7
73	遠藤政樹	EDH遠藤設計室	ナチュラルパッチ	9	2		2	3		1				8
74	窪田勝文	窪田建築アトリエ	T-HOUSE	12	5			3		3				11
75	小嶋一浩	CA t	JETTY CABIN	7	4					2				6
76	横河建	横河設計工房	八ヶ岳のJ邸	8	6			1						7
77	内海智行	milligram studio	俯仰の切妻	10	4	1		4						9
78	入江経一	入江経一+Power Unit Studio	M house	18	10		1	5		1				17
79	大塚聡	大塚聡アトリエ	白川の週末住宅	19	9		1	5		3				18
80	飯田喜彦	飯田喜彦建築工房	御水端N山荘	7	2			2			1	1		6
81	二瓶渉・古谷清寿	アーキエア	段の家	3	2									2
82	早草睦恵	セルスペース	水平線の家	9	1	1	1	2	1	1	1			8
83	早草睦恵	セルスペース	緑陰の家	22	8	2		7		3	1			21
84	田井勝馬	田井勝馬建築設計工房	湘南の家	16	5	3		5		2				15
85	小杉浩久	ブロッブ・ポジション一級建築士事務所	karuizawa-K	21	5			12	2	1				20
86	甲村健一	KEN一級建築士事務所	森山山麓の家	7	5			1						6
87	五十嵐淳	五十嵐淳建築設計	room/set	12	5	1		5						11
88	手嶋保	手嶋保建築事務所	大室高原の家	13	6	2		4						12
89	庄司寛	庄司寛建築設計事務所	都筑の家	9	7			1						8
90	村田靖夫・村田淳	村田靖夫建築研究室	丘の切妻	11	6			2		2				10
91	仲亀清進	仲亀清進建築事務所	ミッ池の家	9	3			4			1			8
92	粕谷淳司・粕谷奈緒子	カスヤアーキテクトオフィス	TWIST	9	7			1						8
93	八島正年・八島夕子	八島建築設計事務所	葉山の家	8	5			2						7
94	高木雅行	一級建築士事務所アルキノバ	クィーンズメドウ・カントリーハウス	6	2			2		1				5
95	横河建	横河設計工房	八丁堀・櫻庵 LC-SH12	6	2			2				1		5
96	伊礼智	伊礼智設計室	東京町家 あずきハウス	11	5			4		1				10
97	奥村和幸	奥村和幸建築設計室	O v a 1 Panel House	9	6			1			1			8
98	安藤和浩・田野恵利	アندوق・アトリエ	Ovの家	18	6	3		6	1	1				17
99	塚田修大	塚田修大建築設計事務所	ホワイトロ	9	1	2		3		2				8
100	森清敏・川村奈津子	MDS一級建築士事務所	鉄の家	15	8			2	1	1	1	1		14
101	小笠原絵里	間工作舎	桂坂の家	12	7		1	1			1	1		11
102	吉本剛	吉本剛建築研究室	BARN_6	6	3			1				1		5
		計		1125	476	39	24	325	21	92	36	10		1023

表 3-3-3 全体写真前後間の連続手法データシート (専門誌)

NO.	掲載号	建築家名	事務所名	作品名	写真枚数	連続手法											
						・	>	<	↑	↓	↔	v	c	w	s	計	
1	1	芦沢啓治	芦沢啓治建築設計事務所	K邸	2	1											1
2	1	清水貞博・松崎正寿・清水裕子	atelier A5	KA house	8	5						1					7
3	1	河内一泰	河内建築設計事務所	colors	7	3						1		2			6
4	1	桜井一弥+太田秀俊+安田直民	SOY source	O博士の家	5	3						1					4
5	1	眞田大輔	すわ製作所	崖の家	9	4							1	3			8
6	1	武井誠・鍋島千恵	TNA	カラコンの家	9	5	1					1		1			8
7	1	中村拓志	N A P 建築設計事務所	Necklace House	11	7						3					10
8	2	宮崎浩	フランツアソシエイツ	富士河口湖の家	15	7						2	1	2	2		14
9	2	納谷学・納谷新	納谷建築設計事務所	北茨城の平屋	8	4						3					7
10	2	八木敦司	八木淳司建築設計事務所	リビングハウス	9	6							1		1		8
11	2	早草睦恵	セルスペース	万華鏡の家	9	6						1				1	8
12	2	松野勉・相澤久美	一級建築士事務所ライフアンドシエルトア社	多重の景色	7	4						1			1		6
13	2	宇野亨	シーラカンサンドアソシエイツ名古屋/CA n	崖の岩	11	8						1		1			10
14	2	磯部邦夫	アーキショップ一級建築士事務所	点/線HOUSE	7	3						1		1			6
15	2	川口英俊	アーキテクト・キューブ	AM・house	10	6	1					2					9
16	3	山中新太郎	山中新太郎建築設計事務所	幸手ハウス	8	4						1	1	1			7
17	3	久保清一+鍵山昌信+村辻水音	アルキービ総合計画事務所	和歌浦の家	10	6						3					9
18	3	小泉誠	Koizumi Studio	国立の家	8	4						2					7
19	3	高安重一	アーキテクチャー・ラボ	点/線HOUSE	10	7								1	1		9
20	3	中村深	中村深建築設計事務所	北沢の家	9	8											8
21	3	石橋利彦	石橋徳川建築設計所	IB邸	9	5	1					1			1		8
22	3	中村勝己	中村勝己建築設計事務所	スタジオハウス	9	8											8
23	4	横内敏人	横内敏人建築設計事務所	たて庭の家	8	6										1	7
24	4	菅正太郎	すがアトリエ	Co	9	8											8
25	4	遠藤政樹	EDH遠藤設計室	ナチュラルフレックス	9	4						1		3			8
26	4	遠藤政樹	EDH遠藤設計室	ナチュラルスティック	7	5								1			6
27	4	小谷野直幸+田辺芳生	PRIME/プライム建築都市研究所	前橋の家	9	4						1		1	2		8
28	4	納谷学・納谷新	納谷建築設計事務所	西新井の住宅	8	5						2					7
29	4	小泉雅生	小泉アトリエ	イガタ	7	4						2					6
30	4	伊丹潤	伊丹潤建築研究所	私の別荘	8	4						1	2				7
31	4	小山光	キー・オペレーション一級建築士事務所	フラット・ヒロオ	6	4						1					5
32	4	伊礼智	伊礼智設計室	古くて新しい事務所	7	3						3					6
33	4	海野健三	海建築家工房	Stone Renaissance	6	4									1		5
34	4	鈴木エドワード	鈴木エドワード建築設計事務所	下鴨の家	9	8											8
35	4	佐藤哲也+布施木綿子	佐藤・布施建築事務所	風の家	7	5						1					6
36	4	植木幹也	スタジオシナス	アイマ	7	3								2		1	6
37	5	山下保博	アトリエ・工人工	チカコワマルコウブツ	10	5						2		2			9
38	5	宮本佳明	宮本佳明建築設計事務所	クローバーハウス	16	10						4		1			15
39	5	宮本佳明	宮本佳明建築設計事務所	grappa	15	12						1		1			14
40	5	彦根明	彦根建築設計事務所	BOZ	8	5						1			1		7
41	5	安田博道	環境デザイン・アトリエ	松ヶ丘の家	7	3						1		1	1		6
42	5	新開謙一郎	NIZEKI STUDIO	WZ北沢	13	11								1			12
43	5	仲亀清進	仲亀清進建築事務所	吉祥寺の家	7	4						2					6
44	5	山本卓郎	山本卓郎建築設計事務所	H/Orange	8	4						2			1		7
45	5	向山徹	向山徹建築設計室	田口の家	5	1						2		1			4
46	6	山本恭弘	聖建築研究所	風笛の舎	12	10						1					11
47	6	佐藤重徳	佐藤重徳建築設計事務所	府中の住宅	11	6	1					2		1			10
48	6	小川晋一	小川晋一都市建築設計事務所	CENTER COURT HOUSE	8	4									3		7
49	6	西島正樹	プライム一級建築士事務所	日本橋 川辺の家	9	5						1			2		8
50	6	二宮博・菱谷和子	ステューディオ2アーキテクツ	TROUBLE	7	4						2					6
51	6	矢部達也	矢部達也建築設計事務所	コトバノイエ	7	4						1			1		6
52	7	青木淳	青木淳建築計画事務所	A	11	9						1					10
53	7	山隈直人	kt一級建築士事務所	Hマの家 beach house	9	1							3	4			8
54	7	小長谷巨	小長谷巨建築設計事務所	牛久の住宅	8	8						5			1	1	7
55	7	都留理子	都留理子建築設計スタジオ	生田H	6	4								1			5
56	7	木内厚子	Sutudio8	南伊豆のセカンドハウス	9	6						1				1	8
57	7	武井誠・鍋島千恵	TNA	モザイクの家	11	5						2		3			10
58	8	早川邦彦	早川邦彦建築研究室	朱彦の家	9	7						1					8
59	8	木原千利・多田雅	木原千利設計工房	不盡の舎	17	10						2	1	2	1		16
60	8	千葉学	千葉学建築計画事務所	六会の家	9	4						3		1			8
61	8	坂本昭	坂本昭・設計工房CASA	勝山の家	14	10						1			2		13
62	8	石田敬明	石田敬明建築設計事務所	YON/ハウス	9	7						1					8
63	8	岸本和彦	acaa	湯河原の家	10	5						2	1	1			9
64	8	柳沢潤	コンテンポラリーズ	SKIP HOUSE	12	7								4			11
65	8	前田紀真	前田紀真アトリエ	THEN?	5	2						1				1	4
66	8	榎本弘之	榎本弘之建築研究所	ホワイト・モノリス	9	6						1			1		8
67	8	木下洋	キノシタ建築研究所	観松の家	13	11						1					12
68	9	堀部安嗣	堀部安嗣建築研究所	浅草の家	9	4						3		1			8
69	9	堀部安嗣	堀部安嗣建築研究所	東山の家	13	10								2			12
70	9	手塚典晴・手塚由比	手塚建築研究所	回廊の家	9	2						2				4	8
71	9	眞田大輔	すわ製作所	門型の家	10	6								2			9
72	9	石原健也+中野正也	デネフェス計画研究所	HOUSE_SAKT	9	5						2		1			8
73	9	遠藤政樹	EDH遠藤設計室	ナチュラルパッチ	13	9	1					1		1			12
74	9	窪田勝文	窪田建築アトリエ	T-HOUSE	13	7									1		12
75	9	小嶋一浩	CA t	JETTY CABIN	9	6										2	8
76	10	横河建	横河設計工房	八ヶ岳の邸	14	8	1	1	1	1	1			1		1	13
77	10	内海智行	milligram studio	俯仰の切妻	12	10						1					11
78	10	入江経一	入江経一+Power Unit Studio	M house	10	7	1					1					9
79	10	大塚聡	大塚聡アトリエ	白州の週末住宅	8	5						1				1	7
80	10	飯田喜彦	飯田喜彦建築工房	御水堀N山荘	10	2						4		2	1		9
81	10	二瓶沙・古谷清寿	アーキエア	段の家	10	8						1					9
82	10	早草睦恵	セルスペース	水平線の家	11	5	1	2	1						1		10
83	10	早草睦恵	セルスペース	緑陰の家	10	5			2	2							9
84	10	田井勝馬	田井勝馬建築設計工房	湘南の家	8	5						1			1		7
85	10	小杉浩久	ブロップ・ボジション一級建築士事務所	karuizawa-K	9	5								1		2	8
86	10	甲村健一	KEN一級建築士事務所	森山山麓の家	10	6				1	2						9
87	11	五十嵐淳	五十嵐淳建築設計	room/set	11	7				1				2			10
88	11	手嶋保	手嶋保建築事務所	大室高原の家	8	7											7
89	11	庄司寛	庄司寛建築設計事務所	都筑の家	9	6						2					8
90	11	村田晴夫・村田淳	村田晴夫建築研究室	丘の切妻	8	7											7
91	11	仲亀清進	仲亀清進建築事務所	三ッ池の家	8	6	1										7
92	11	粕谷淳司・粕谷奈緒子	カスヤアーキテクツオフィス	TWIST	8	3						2		2			7
93	11	八島正年・八島夕子	八島建築設計事務所	葉山の家	7	4								2			6
94	11	高木雅行	一級建築士事務所アルキノーバ	クィーンズメドウ・カントリーハウス	16	14											15
95	12	横河建	横河設計工房	丁・堀・櫻庵 LC-SH12	10	4				1	1				2	1	9
96	12	伊礼智	伊礼智設計室	東京町家 あずきハウス	9	5						2			1		8
97	12	奥村和幸	奥村和幸建築設計室	O v a l Panel House	9	3						5					8
98	12	安藤和浩・田野恵利	アンドウ・アトリエ	大塚の家	8	5				1				1			7
99	12	塚田修大	塚田修大建築設計事務所	ホワイトロ	8	5						1			1		7
100	12	森清敏・川村奈津子	MDS一級建築士事務所	鉄の家	14	10	1					2					13
101	12	小笠原絵里	間工作舎	桂坂の家	9	6										2	8
102	12	吉本剛	吉本剛建築研究室	BARN_6	7	3										1	6
					947	573	10	19	124	5	66	33	15				845

3.4. 内観シーン・外観シーンごとの写真の連続性

3.2. から、ウェブサイトと専門誌の両メディアとも写真全体のなかで内観写真、外観写真の占める割合が高いことが分かる。そこで、本節では内観写真・外観写真のみに注目し、内観シーン・外観シーンについて考察する。

3.4.1. 分析方法

シーンとは全体の写真配列のなかで内観写真のみ、もしくは外観写真のみが連鎖している部分を示し、内観写真のみ順番に並べたものを内観シーン、外観写真のみ順番に並べたものを外観シーンとする。また、シーンは1枚のみで構成されるものも含む。

ここでは、内観シーン同士、外観シーン同士の連続性について考察する。シーン間の連続手法は図 3-4-1 に示すように図 3-1-1 に示した記号を重複して使う。

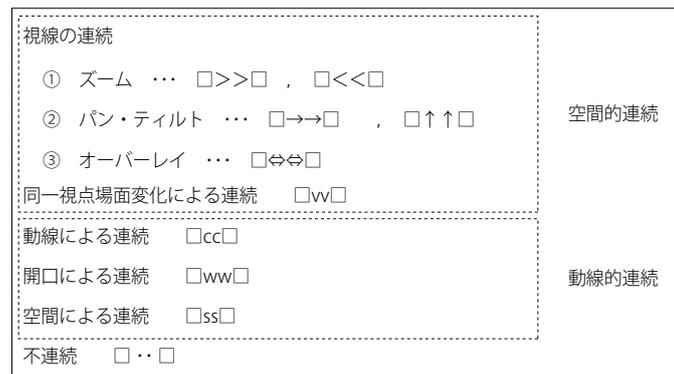


図 3-4-1 シーン間の連続手法の記号

例えば、図 3-4-2 の事例では全体が内観写真 6 枚、外観写真 5 枚、計 11 枚の写真で構成され、そのうち内観シーンは [2 枚目から 5 枚目] の "内観シーン 1" と [7 枚目から 8 枚目] の "内観シーン 2" の計 2 シーンとなり、外観シーンは [1 枚目] の "外観シーン 1" と [6 枚目] の "外観シーン 2"、そして [9 枚目から 11 枚目] の "外観シーン 3" の計 3 シーンとなる。

内観シーン同士のつながりでは、内観シーン 1 と内観シーン 2 は不連続となっている。また、外観シーン同士のつながりでは外観シーン 1 と外観シーン 2 が同一視点場面変化による連続、外観シーン 2 と外観シーン 3 がオーバーレイによる連続となっている。

対象となる内観写真はウェブサイトで 694 枚、専門誌で 599 枚、外観写真はウェブサイトで 376 枚、専門誌で 292 枚あり、それらのシーン内でのつながり、シーン間のつながりを以下で考察する。

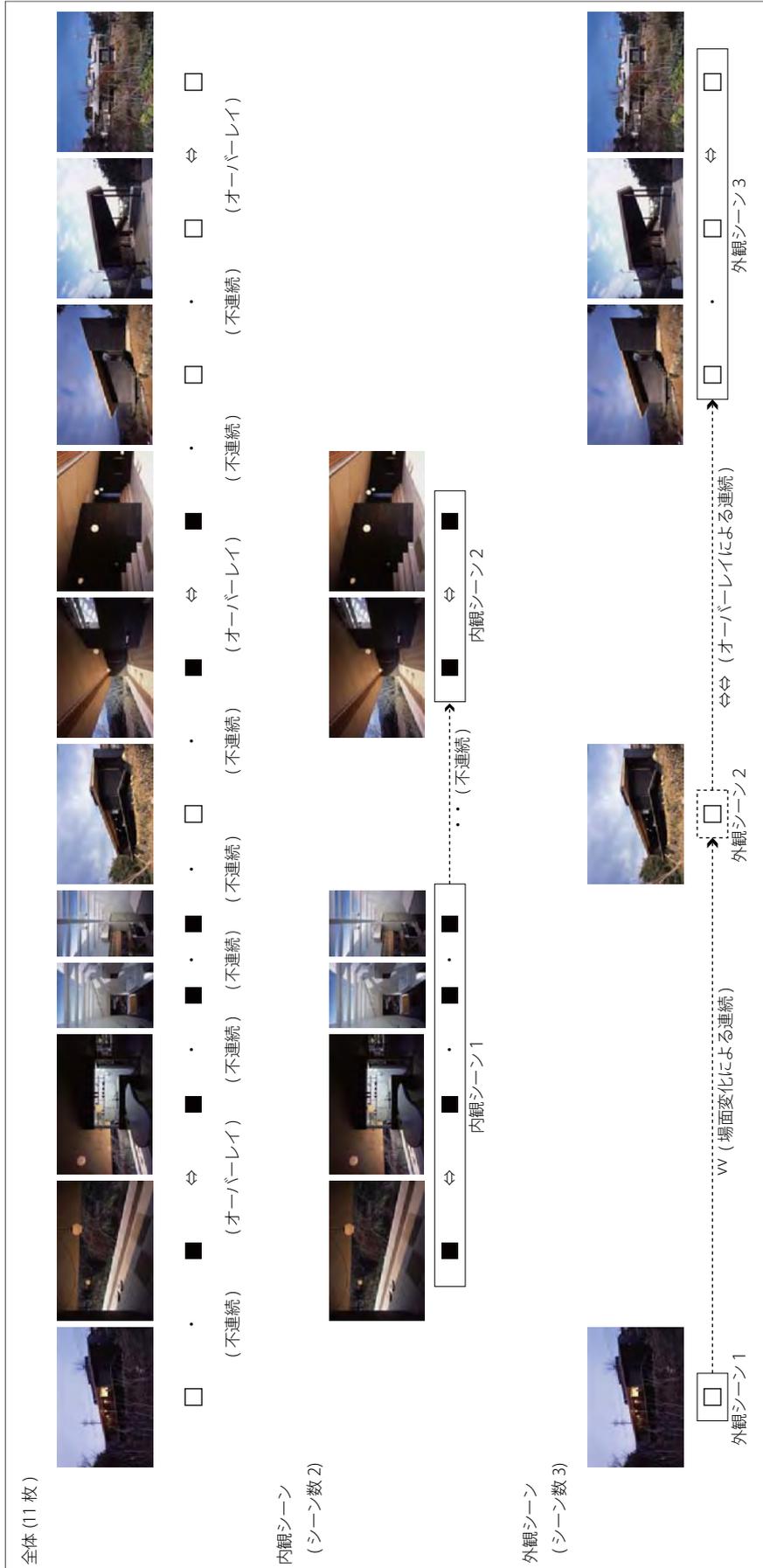


図 3-4-2 事例^{*14}

3.4.2. シーン数の比較

シーン数の比較の結果を表 3-4-1 に示す。表 3-4-1 より 1 シーンあたりの平均写真枚数を調べると、内観シーンでウェブサイト 4.85 枚、専門誌 3.5 枚 (表中赤枠)、外観シーンでウェブサイト 2.36 枚、専門誌で 1.6 枚 (表中青枠) となった。また、枚数に対するシーン数を比較すると専門誌ではウェブサイト 비해、内観シーンで 1.39 倍、外観シーンで 1.47 倍多く構成されていることが分かる。つまり、ウェブサイトでは多くの写真でひとつのシーンが構成されるが、シーン数自体は少ない傾向があり、専門誌ではひとつのシーンは少ない写真で構成されるが、多くのシーンで構成される傾向があるといえる。

表 3-4-1 シーン数の比較

	内観シーン				外観シーン			
	件数	枚数	シーン数	枚数/シーン数	件数	枚数	シーン数	枚数/シーン数
ウェブサイト	101	694	143	4.85	97	376	159	2.36
専門誌	102	599	171	3.5	100	292	182	1.6

3.4.3. シーン内部の連続手法

次に、内観シーン、外観シーンごとにシーン内部における前後写真の連続手法を確認し、その結果を表 3-4-2 及び、図 3-4-3 にまとめる。

表 3-4-2 シーン内部の連続手法 (表)

		.	><	→↑	⇔	v	c	w	s	計
内観シーン	ウェブサイト	230	14	18	196	9	70	7	7	551
	専門誌	249	2	19	81	1	58	4	14	428
外観シーン	ウェブサイト	47	23	5	116	11	13	0	2	217
	専門誌	54	8	0	37	4	6	0	1	110

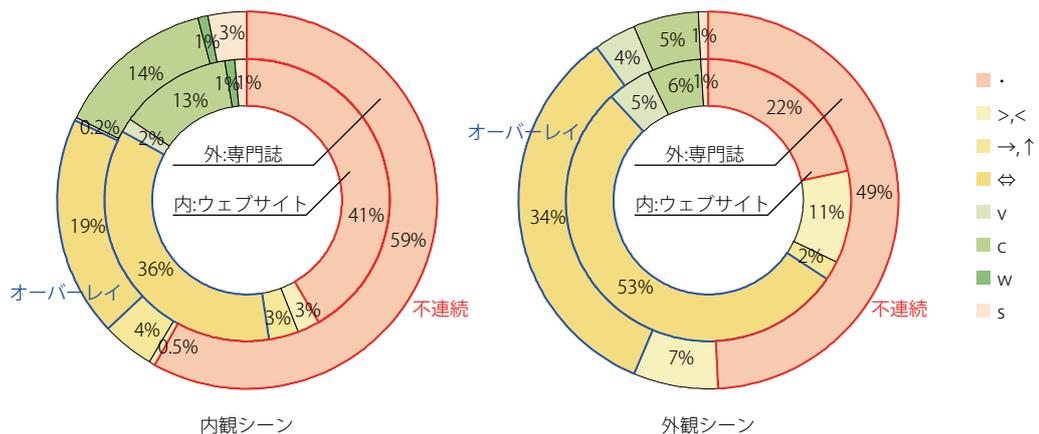


図 3-4-3 シーン内部の連続手法 (グラフ)

図 3-4-3 より、3.3. で確認した全体写真の前後間の連続性同様、シーン内部においてもウェブサイトの方が専門誌に比べ、前後間の写真を連続的に扱う傾向にあることが分かり、その傾向は外観シーンに強く見られる (図中赤枠)。また、両メディアとも内観シーンに

比べ、外観シーンで、より前後間の連続性を重視することが分かる (図中赤枠)。さらに、連続の手法をみると、専門誌に比べウェブサイトでオーバーレイが多く使われており (図中青枠)、シーン内部でも同一空間を多視点から連続的に扱われる傾向を読み取ることができる。

3.4.4. シーン間の連続手法

シーン内部における前後写真の連続性は全体写真の前後の連続手法と類似していることを確認した。ここでは、内観シーンと内観シーン、外観シーンと外観シーンといったシーン間の連続手法について考察する。結果を表 3-4-3 及び、図 3-4-4 にまとめる。

表 3-4-3 シーン間の連続手法 (表)

		..	>><<	↑↑,⇄	⇄⇄	vw	cc	ww	ss	計
内観シーン	ウェブサイト	19	0	5	11	2	3	1	1	42
	専門誌	33	0	0	20	0	13	3	0	69
外観シーン	ウェブサイト	34	4	2	17	4	0	1	0	62
	専門誌	33	8	0	31	5	4	0	1	82

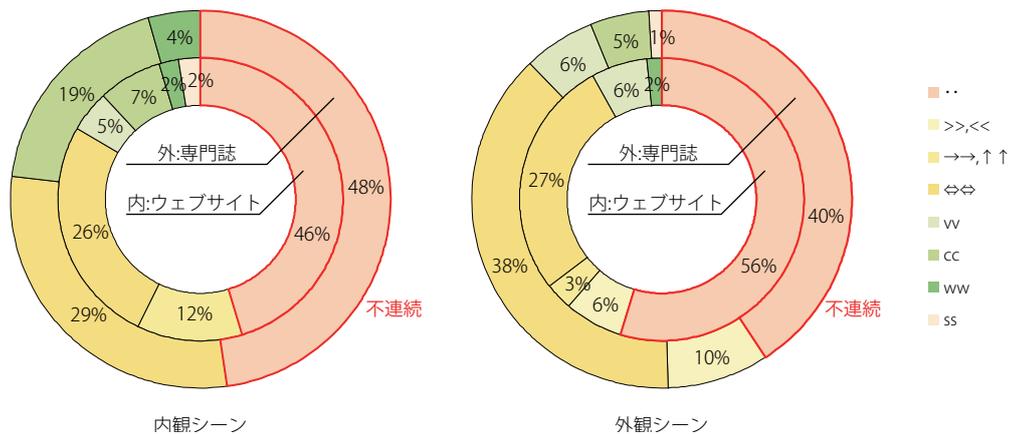


図 3-4-4 シーン間の連続手法 (グラフ)

図 3-4-4 よりシーンごとのつながりについて、不連続 (図中赤枠線) の部分に着目すると内観シーンではウェブサイト 46%、専門誌 48%、外観シーンでウェブサイト 56%、専門誌 40%となった。

シーン内部の連続手法 (図 3-4-3) と比較すると、ウェブサイトでは内観シーン・外観シーン共に不連続の割合が増え、特に外観シーンで大幅に不連続の割合が増えることがわかる。一方専門誌では、内観シーン・外観シーン共に不連続の割合が減り、前後写真の連続性に比べシーン間を連続的に扱う傾向があることが分かる。

また、シーン間の連続手法をウェブサイトと専門誌で比較すると、ウェブサイトに比べ

専門誌の方がシーン間を連続的に扱う傾向を確認することができる。

3.4.5. まとめ

以上より、シーン内部の前後写真のつながりではウェブサイトの方が連続的に扱われるが、シーン間のつながりでは専門誌の方が連続的なつながりを持つことを確認した。これはウェブサイトのシーンの独立性を示すものであり、ウェブサイトで一つのシーンを完結的に扱う傾向を示している。ウェブサイトでは画像を同時に並列的に閲覧しにくいいため、前後の写真のつながりは重要となるが、シーン間のつながりの必要性は薄いといえよう。また、専門誌ではページ間を閲覧者の意図で自由に往来できるため、シーン内部の前後写真のつながりはウェブサイト 비해重視されづらいが、シーン間のつながりにおいては連続的であることが求められているといえよう。

表 3-4-6 シーン内部及びシーン間接続手法データシート (専門誌 内観シーン)

NO.	掲載号	作品名	件数	枚数	シーン数	シーン内部の連続手法					シーン間の連続手法										
						>	<	↑,↓	⇔	v	c	w	s	.. >>,<<	↑↓,⇔	⇔⇔	vw	cc	ww	ss	
1	1	K邸	1	1	1																
2	1	KA house	1	5	1	2			1		1										
3	1	colors	1	5	1	2					2										
4	1	O博士の家	1	4	1	2			1												
5	1	崖の家	1	4	1	3															
6	1	カラコンの家	1	6	1	4					1										
7	1	Necklace House	1	7	1	4			2												
8	2	富士河口湖の家	1	6	2	2			1		1			1							
9	2	北茨城の平屋	1	5	1	2			2												
10	2	ラビットハウス	1	6	1	3			1		1										
11	2	万華鏡の家	1	7	2	3			1				1								
12	2	多重の景色	1	4	2	2														1	
13	2	崖の岩	1	8	3	3			1		1		1							1	
14	2	中野の家	1	5	2	2			1		1	1		1							
15	2	AM・house	1	6	3	1			2											2	
16	3	幸手ハウス	1	4	1	1				1	1										
17	3	和歌浦の家	1	4	1	2			1												
18	3	国立の家	1	6	1	2			2		1										
19	3	点ノ線HOUSE	1	6	3	2					1									2	
20	3	北沢の家	1	6	2	4											1				
21	3	邸	1	7	1	5			1							1					
22	3	スタジオハウス	1	7	2	5															
23	4	たて庭の家	1	6	2	3								1						1	
24	4	Co	1	7	2	5										1					
25	4	ナチュラルフレックス	1	5	2						3									1	
26	4	ナチュラルスティック	1	5	2	2					1			1							
27	4	前橋の家	1	4	2				1		1					1					
28	4	西新井の住宅	1	7	1	4			2												
29	4	イガタ	1	5	1	2			2												
30	4	私の別荘	1	4	1			1	2												
31	4	フラット・ヒロオ	1	6	1	4			1												
32	4	古くて新しい事務所	1	6	2	1			3											1	
33	4	Stone Renaissance	1	4	1	2															
34	4	下鴨の家	1	5	2	3															
35	4	風の家	1	5	3	1			1					1							
36	4	アイマ	1	6	1	2					2		1								
37	5	チカニマルコウブツ	1	8	1	4			1		2										
38	5	クローバーハウス	1	6	1	1			4												
39	5	grappa	1	13	1	10			1		1										
40	5	BOZ	1	5	2	3														1	
41	5	松ヶ丘の家	1	4	2	1					1									1	
42	5	WEP下北沢	1	7	2	4					1			1							
43	5	吉祥寺の家	1	6	1	2			2		1										
44	5	H/Orange	1	2	2															1	
45	5	田口の家	1	3	1				1		1										
46	6	風笛の舎	1	6	3	3								1						1	
47	6	府中の住宅	1	6	2	1			2		1			1							
48	6	CENTER COURT HOUSE	1	4	1	2														1	
49	6	日本橋 川辺の家	1	5	3	1			1											1	
50	6	TROLLEY	1	4	2				2											1	
51	6	コトバノイエ	1	5	2	2			1											1	
52	7	A	1	9	2	6			1					1							
53	7	ハマの家 beach house	1	4	1																
54	7	牛久の住宅	1	5	1				3											1	
55	7	生田H	1	4	2	1					1			1							
56	7	南伊豆のセカンドハウス	1	7	2	3			1					1							
57	7	モザイクの家	1	9	1	3			2		3										
58	8	朱雀の家	1	5	1	3			1												
59	8	不盡の舎	1	13	3	5			2		1			2						2	
60	8	六倉の家	1	6	2	1			2		1									1	
61	8	勝山の家	1	10	3	5			1		1			2							
62	8	YONハウス	1	6	2	3			1					1							
63	8	湯河原の家	1	7	2	1			2		1			1							
64	8	SKIP HOUSE	1	10	1	5														4	
65	8	THEN?	1	2	2															1	
66	8	ホワイト・モノリス	1	4	3	1														2	
67	8	観松の家	1	9	3	6								1						1	
68	9	浅草の家	1	7	2	1			3		1			1							
69	9	東山の家	1	9	1	6					2										
70	9	回廊の家	1	6	3	1			2											2	
71	9	門型の家	1	7	2	3			1		1									1	
72	9	HOUSE_SAKT	1	6	1	2			2		1										
73	9	ナチュラルパッチ	1	8	3	4			1					1						1	
74	9	T-HOUSE	1	8	2	3			3											1	
75	9	JETTY CABIN	1	5	2	2														1	
76	10	八ヶ岳の邸	1	8	2	3			1		1			1							
77	10	俯仰の切妻	1	8	1	7															
78	10	M house	1	5	2	3														1	
79	10	白州の週末住宅	1	6	2	2			1											1	
80	10	御水端山荘	1	3	1						1			1							
81	10	段の家	1	4	1	2			1												
82	10	水平線の家	1	6	1	2			2		1										
83	10	緑陰の家	1	6	1	3			2												
84	10	湘南の家	1	5	2	3														1	
85	10	karuizawa-K	1	7	2	2								1						2	
86	10	森泉山麓の家	1	6	2	1			1		2			1							
87	11	room/set	1	7	2	2			1					2							
88	11	大室高原の家	1	6	2	4														1	
89	11	都筑の家	1	5	2	1			2											1	
90	11	丘の切妻	1	6	2	4															
91	11	三ッ池の家	1	5	2	2			1											1	
92	11	TWIST	1	5	1						2										
93	11	葉山の家	1	5	1	2														2	
94	11	クィーンズメドウ・カントリーハウス	1	7	2	4														1	
95	12	八丁堀・櫻庵 LC-SH12	1	8	2	3			1		1									1	
96	12	東京町家 あずきハウス	1	7	1	4			2												
97	12	O v a l Panel House	1	2	1	1															
98	12	大塚の家	1	6	1	3			1											1	
99	12	ホワイトロ	1	5	1	3			1												
100	12	鉄の家	1	5	1	2			1		1										
101	12	桂坂の家	1	6	2	2														2	
102	12	BARN_6	1	6	1	2			2											1	
計			102	599	171	249	2	19	81	1	58	4	14	33	0	0	20	0	13	3	0

3.5. ウェブサイト作品介绍ページ表示形式ごとのシーン構成

2章で確認したようにウェブサイトの作品介绍ページには複数の表示形式が存在する。そこで、ウェブサイトの表示形式系統(ポップアップ系統,複合系統,羅列系統)ごとにシーン内の接続手法及び、シーン間の接続手法に着目し特質を探る。

3.5.1. 表示形式ごとのシーン内部の連続手法

系統ごと、シーン内部の前後写真の連続性を確認する。内観シーン,外観シーン内部における系統ごとの連続手法をまとめたものを表 3-5-1 及び、図 3-5-1 に示す。

図 3-5-1 より、不連続についてどの系統においても内観シーンで約 40%程度,外観シーンで約 20%程度と大きな差は見られなかった。また、他の連続手法でも系統ごとで明確な差は見られなかった。つまり、シーン内部の前後写真の連続性ではどの系統も類似した傾向を持ち、表示形式の違いによる連続手法の差がでにくいことが分かる。

表 3-5-1 表示形式におけるシーン内部の連続手法 (表)

		・	>,<	↑,↓	⇄	v	c	w	s	計
内観シーン	ポップアップ系統	125	5	6	100	1	46	2	5	290
	複合系統	23	2	5	19	0	6	0	0	55
	羅列系統	82	7	7	77	8	18	5	2	206
	計	230	14	18	196	9	70	7	7	551
外観シーン	ポップアップ系統	25	14	1	68	6	6	0	0	120
	複合系統	6	3	3	18	1	0	0	0	31
	羅列系統	16	6	1	30	4	7	0	2	66
	計	47	23	5	116	11	13	0	2	217

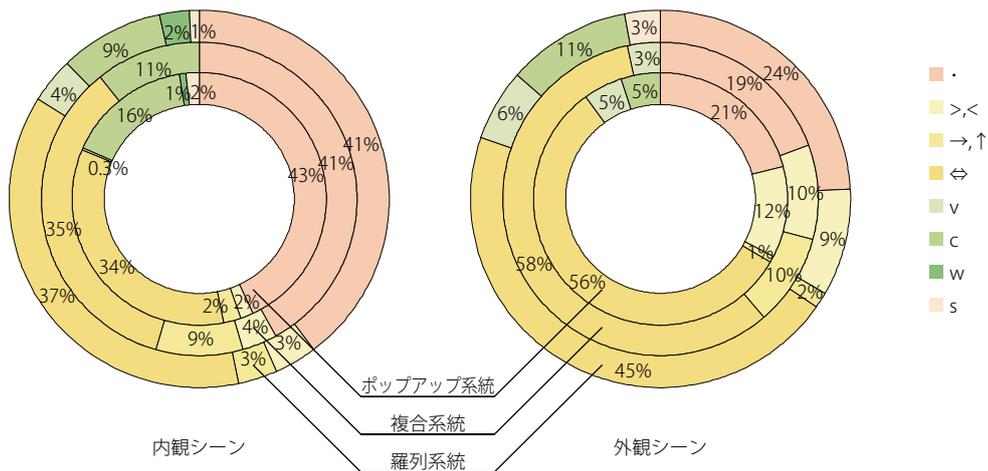


図 3-5-1 表示形式におけるシーン内部の連続手法 (図)

3.5.2. 表示形式ごとのシーン間の連続手法

次に表示形式系統ごと、内観シーン同士、外観シーン同士の連続性について確認する。それぞれの表示形式系統ごと、シーン間の連続手法をまとめたものが表 3-5-2 及び図 3-5-2 である。

表 3-5-2 表示形式におけるシーン間の連続手法 (表)

		..	>>,<<	↑↑,⇄	⇄⇄	vw	cc	ww	ss	計
内観シーン	ポップアップ系統	10	0	0	7	0	1	0	1	19
	複合系統	3	0	1	1	0	0	1	0	6
	羅列系統	6	0	4	3	2	2	0	0	17
	計	19	0	5	11	2	3	1	1	42
外観シーン	ポップアップ系統	20	1	1	9	1	0	1	0	33
	複合系統	6	0	1	1	2	0	0	0	10
	羅列系統	8	3	0	7	1	0	0	0	19
	計	34	4	2	17	4	0	1	0	62

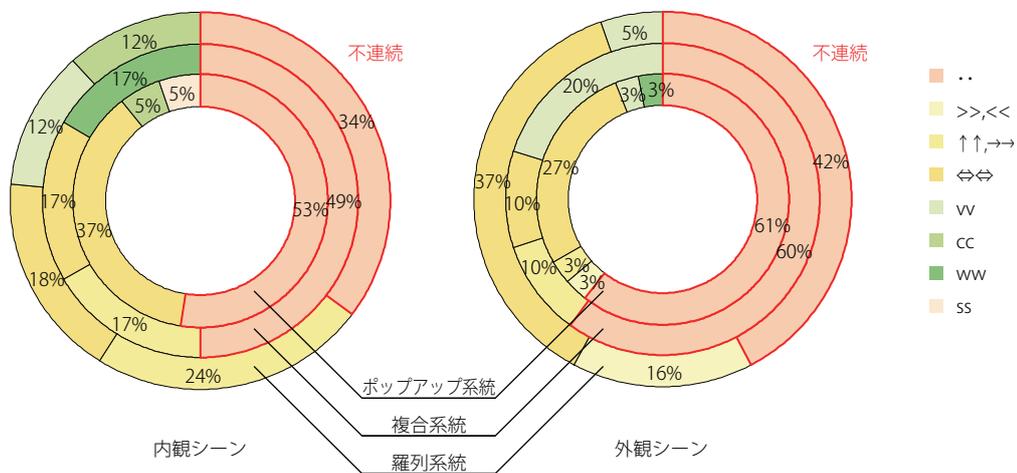


図 3-5-2 表示形式におけるシーン間の連続手法 (図)

図 3-5-2 より、不連続について内観シーンではポップアップ系統 53%、複合系統 49%、羅列系統 34%となり、外観シーンではポップアップ系統 61%、複合系統 60%、羅列系統 42%と、系統ごとに差異が見られた (図中赤枠線)。ここから、ポップアップ系統、複合系統に比べ羅列系統でシーン間を連続的に扱っていることを読み取れる。

その結果を 3.4. と比較すると、羅列系統はポップアップ系統・複合系統に比べ、専門誌に類似した傾向を示すことが分かる。これは羅列系統が、ポップアップ系統などのようにリンクによって限定されたルートで画像確認し、個々の写真ごとで確認していくのではなく、ウェブページ上でスクロールなどで確認することから、複数の写真を同時視認することが可能であるため、印刷メディアと類似した性質を持つものと考えられる。

3.5.3. まとめ

ウェブサイトの作品紹介ページの表示形式の違いによる写真の連続性の違いについて確認した。その結果、シーン内接続ではそれぞれの表示形式で連続性に明確な差はあらわれないが、シーン間の連続性ではポップアップ系統と複合系統は不連続となることが多い一方、羅列系統ではシーン間を連続的に扱っていることが分かった。つまり、羅列系統はリンクによって一枚一枚を確認していくようなウェブサイトの多次元性を持たないものであり、複数写真を同時視認しやすいため、専門誌に近い性質が見られるといえよう。

以上より、ウェブサイトの表示形式の違いによって写真の連続性に特徴が見られ、複数写真を同時視認しやすいか否かで、その性質が決まるということを確認した。

3.6. 写真一枚ごとにおける連続性

写真の前後間の連続性、シーン間の連続性について前節までで確認した。ここでは、写真一枚ごと他写真とどのようなつながりのなかで扱われているかについて空間的連続・動線的連続(図 3-1-1 参照)を用いて考察する。さらに、専門誌の大きな特徴として写真サイズの違いを用いた誌面構成を挙げることができるため、専門誌において大写真で紹介される空間がウェブサイトでどのように表現されるかについても確認する。

3.6.1. 分析方法

写真一枚ごと同一作品内で何枚の他写真と連続しているかを数えたものを枝数と呼称し、一枚ごと空間的連続、動線的連続の枝数を数える。例えば、図 3-6-1 の事例は全体作品介绍を内観写真 6 枚、外観写真 4 枚、計 10 枚で構成し、1 枚目の内観写真の枝数は空間的連続 2、動線的連続 2 の計 4 となる。また、同じように 2 枚目の外観写真の枝数は空間的連続 2、動線的連続 0 の計 2 である。以下、同様にウェブサイトと専門誌で対象となるすべての写真(ウェブサイト 1125 枚、専門誌 947 枚)について写真一枚ごと他写真との連続性を確認する。

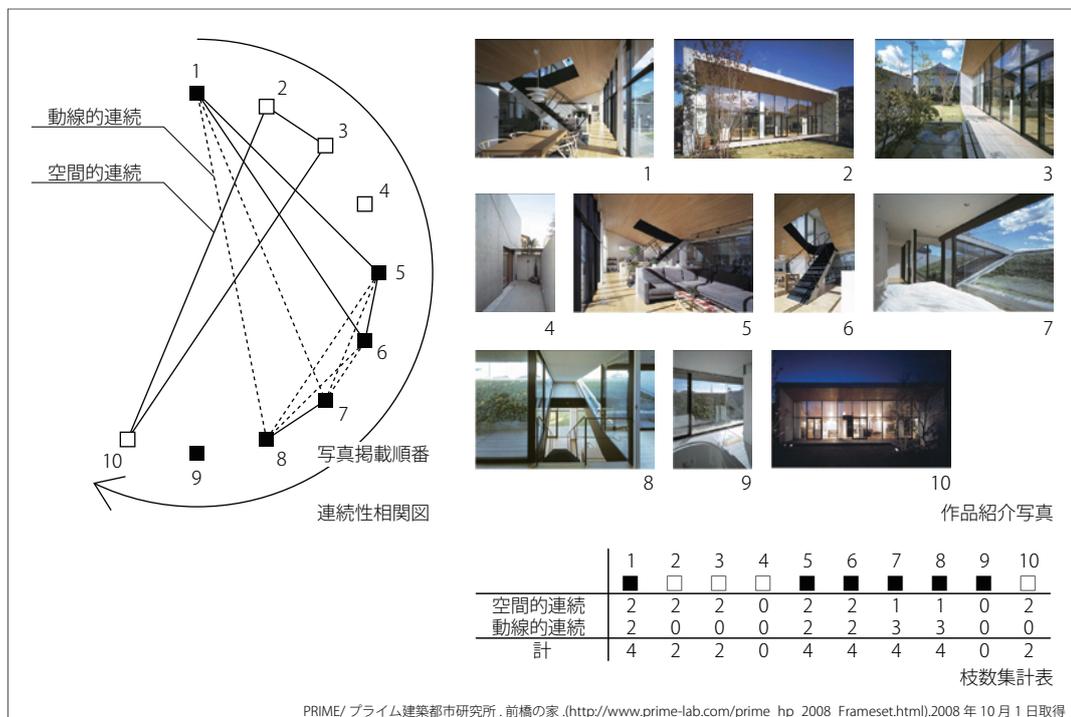


図 3-6-1 写真一枚ごとにおける連続性の例^{*15}

3.6.2. 全写真における枝数の比較

対象写真の枝数について表 3-6-1 にまとめる。

表 3-6-1 の赤枠 i より写真一枚あたりの平均枝数を比較すると、ウェブサイトで一枚あたり 2.47 本、専門誌で一枚あたり 1.73 本の枝が出ていることが確認できた。ウェブサイトのほうが専門誌に比べ一枚あたりの枝数が多く、写真の前後だけでなく他写真とも連続して扱われる傾向を持つことが分かる。

また、表 3-6-1 の青枠 ii より空間的連続と動線的連続に見られる差異について、ウェブサイトで一枚あたりの枝数が空間的連続 1.74 本、動線的連続 0.72 本となり空間的連続が多いことが分かる。一方、専門誌では一枚あたりの枝数が空間的連続 0.99 本、動線的連続 0.74 本となり、ウェブサイトのように明確な差は出なかった。つまり、ウェブサイトは同一空間を複数の写真で紹介するが、他空間へのつながりはあまり重視されていない傾向が読み取れ、専門誌では同一空間も他空間へのつながりも比較的均等に扱う傾向を読み取れる。

表 3-6-1 写真一枚ごとにおける枝数

	ウェブサイト(1125枚)		専門誌(947枚)	
	枝数	一枚あたりの枝数	枝数	一枚あたりの枝数
空間的連続	1959	1.74 ii	942	0.99 ii
動線的連続	815	0.72 ii	701	0.74 ii
合計	2774	2.47 i	1643	1.73 i

3.6.3. ウェブサイトにおける、専門誌大写真で示される空間についての扱い

専門誌などの印刷メディアでは様々な写真サイズで誌面を構成し、建築を紹介している。そのため、必然的にサイズの大きな写真は重要視され、そうした写真はいわゆる " 決めの一枚 " として扱われてきた。つまり、その建築で最も写真写りがよく作者の意図が表れたような空間が大写真として取り上げられ、その建築の顔となってきたといえる。しかし、ウェブサイトではメディアの特質上写真サイズに変化をつけて表現することは少ない。そこで、印刷メディアの特徴である大写真で扱われる空間がウェブサイトでどのように表現されているかを確認する。

専門誌における写真のなかで、1 ページもしくはそれに類似する面積以上の大きさで紹介されるものを「大写真」と定義する。その上で、1 ページもしくはそれに類似する面積の写真を「一頁写真」とし、それより大きいもので 2 ページもしくはそれに類似する面

積の写真を「二頁写真」とする。さらに、ウェブサイトで専門誌の大写真と同空間を同じ位置から撮影した類似写真を「大写真」とし、専門誌の二頁写真と二頁写真に類似する写真をそれぞれ「一頁写真」、「二頁写真」とし、それぞれの枝数を比較する。

以上の比較結果を表 3-6-2 にまとめる。さらに、その中から赤枠で囲われた部分を抜粋し、大写真とそれ以外の写真の、写真一枚あたりの平均枝数を比較したものが表 3-6-3 である。

表 3-6-2 大写真での比較

		ウェブサイト					専門誌				
		全体	大写真' 以外	大写真' 一頁写真'	大写真' 二頁写真'	合計	全体	大写真' 以外	大写真' 一頁写真'	大写真' 二頁写真'	合計
枝数	空間的連続	1959	1633	161	165	326	942	589	193	160	353
	動線的連続	815	666	85	64	149	701	426	168	107	275
	合計	2774	2299	246	229	475	1643	1015	361	267	628
一枚あたりの枝数	空間的連続	1.74	1.72	1.64	2.06	1.83	0.99	0.85	1.23	1.67	1.4
	動線的連続	0.72	0.7	0.87	0.8	0.84	0.74	0.61	1.07	1.11	1.09
	合計	2.47	2.43	2.51	2.86	2.67	1.73	1.46	2.3	2.78	2.48
(写真枚数)		(1125)	(947)	(98)	(80)	(178)	(947)	(694)	(157)	(96)	(253)

表 3-6-3 大写真と大写真以外の比

	ウェブサイト			専門誌		
	大写真' 以外	大写真' 合計	大写真'以外に 対する大写真'の比	大写真' 以外	大写真' 合計	大写真'以外に 対する大写真'の比
空間的連続	1.72	1.83	1.06	0.85	1.4	1.65
動線的連続	0.7	0.84	1.2	0.61	1.09	1.79
合計	2.43	2.67	1.1	1.46	2.48	1.7

表 3-6-2 赤枠線より、大写真とそれ以外の写真の一枚あたりの枝数を比べると、ウェブサイトでは大写真'で合計枝数 2.67 本, 大写真' 以外で合計枝数 2.43 本、専門誌では大写真'で合計枝数 2.48 本, 大写真' 以外で合計枝数 1.46 本となった。さらに、表 3-6-3 青枠線より大写真 (大写真') とそれ以外の枝数を比較すると、ウェブサイトでは空間的連続 1.06 倍, 動線的連続 1.2 倍, 合計 1.1 倍、専門誌では空間的連続 1.65 倍, 動線的連続 1.79 倍, 合計 1.7 倍となった。ウェブサイトでは大写真' と他写真の枝数があまり変わらないことから、すべての建築空間を均等に扱う傾向がある一方、専門誌では大写真'において他写真よりも枝数が多いことから、大写真'を中心とした写真紹介になっていることが分かった。

3.6.4. まとめ

以上より、ウェブサイトでは大写真'においても枝数に大きな差は見られなかったが、専門誌において大写真は多くの他写真との連続のなかで扱われる傾向が見られた。そこから、専門誌では大写真を作品紹介の中心として扱い、大写真に他の写真を関連させながら全体を構成していることが読み取れる。これは、いわゆる"決め一枚"として扱われてきた空間の誌面構成における重要性を示すものである。一方、ウェブサイトでは専門誌に比べるとそれほど大きな差異は見られなかったことから、ウェブサイトでは専門誌に比べすべての建築空間を満遍なく扱う傾向にあるといえる。

ウェブサイトは、専門誌のように写真サイズを操作できるといった特性を持ちにくいため、専門誌で"決め一枚"となるような写真であっても他の写真と同様な連続性のなかで扱われている。そこから、専門誌のような従来の"決め一枚"となる建築空間を中心とした"山"のある写真紹介構成ではなく、すべての写真に写される建築空間を満遍なくフラットに扱う傾向にあるといえよう。

3.7. 小結

写真内容の連続性に着目し、前後写真の連続性 (3.3.)、シーン内部とシーン間の写真の連続性 (3.4.)、ウェブサイト作品紹介ページ表示形式系統ごとに見たシーン間の連続の特徴 (3.5.)、同一作品内で一枚の写真と他写真の連続性 (3.6.) を確認した。

それぞれの節で得られたウェブサイトの相対的特質として、

- ① 前後写真の連続性を重視していること (3.3.)
- ② シーン内部では前後間の写真を連続的に扱うのに対し、シーン間では不連続に扱う傾向にあること (3.4.)
- ③ ウェブサイト作品紹介ページ表示形式系統ごとにシーン間の連続性に注目すると、ポップアップ系統と複合系統では不連続に扱う傾向があるのに対し、羅列系統では連続的に扱う傾向があること (3.5.)
- ④ ひとつの作品紹介のなかで一枚の写真は多くの他写真と連続する傾向にあり、それは空間的連続を用いる場合が多いこと。さらに、専門誌のように大写真を中心とした空間紹介ではなく、各空間を均等に扱う傾向にあること (3.6.)

が分かった。

以上より、建築家のウェブサイトでは連続的な写真構成が好まれることが分かる。しかし、シーン同士は連続となりにくいことと、専門誌のように大写真を中心とした空間構成ではなく各空間を一様に紹介する姿勢から、ひとつひとつの空間が独立し、独立したそれぞれの空間は均等に扱われる傾向を持つといえる。

註及び参考文献

- 1) 岡河貢・足立真・坂本一成.(2003). 情報化された建築空間の構成に関する研究—ル・コルビュジエ全作品集の建築写真の連続性について—, 日本建築学会・日本建築学会計画系論文集. 第564号: 363-369. を参考に分類した。
- 2) 佐藤重徳建築設計事務所. 府中の住宅.(<http://www2.odn.ne.jp/sato-sigenori/hutyuu%202/i%7Biunoezeoiaaeaj.html>).2008年10月1日取得
- 3) 塚田修大建築設計事務所. ホワイトロ.(<http://www.ts-ar.com/frames/frame-w-01.html>).2008年10月1日取得
- 4) 納谷建築設計事務所. 北茨城の平屋.(<http://www.naya1993.com/index.php?p=works&action=prview&prfolder=1033>).2008年10月1日取得
- 5) TNA. モザイクの家.(http://www.tna-arch.com/archi/archi_mosaic01.html).2008年10月1日取得
- 6) 山中新太郎建築設計事務所. 幸手ハウス.(<http://www.yamanaka-architects.com/contents.html>).2008年10月1日取得
- 7) TNA. カラコンの家.(http://www.tna-arch.com/archi/archi_karakon01.html).2008年10月1日取得
- 8) 納谷建築設計事務所. 西新井の住宅.(<http://www.naya1993.com/index.php?p=works&action=prview&prfolder=2012>).2008年10月1日取得
- 9) 佐藤・布施建築事務所. 風の家.(<http://homepage2.nifty.com/satofuse-arch/A005kaze.html>).2008年10月1日取得
- 10) 佐藤重徳建築設計事務所. 府中の住宅.(<http://www2.odn.ne.jp/sato-sigenori/hutyuu%202/i%7Biunoezeoiaaeaj.html>).2008年10月1日取得
- 11) 前田紀貞アトリエ.THEN?.(<http://www5a.biglobe.ne.jp/~norisada/forarchitects/works/houses/THEN/photo-THEN/THEN.html>).2008年10月1日取得
- 12) 青木淳建築計画事務所.A.(<http://www.aokijun.com/ja/works/061>).2008年10月1日取得
- 13) PRIME/ プライム建築都市研究所. 前橋の家.(http://www.prime-lab.com/prime_hp_2008_Frameset.html).2008年10月1日取得
- 14) acaa. 湯河原の家.(<http://www.ac-aa.com/>).2008/10/01取得
- 15) 前掲載13)と同じ

4章 分析・考察

写真の場面変遷について

-
- 4.1. 分析方法
 - 4.2. 場面変遷のタイプ分類
 - 4.3. ウェブサイト作品紹介ページ表示形式ごとの場面変遷のタイプ分類
 - 4.4. 小結

4. 分析・考察 —写真の場面変遷について—

3章では写真の"前後間"、"シーン間"、"一枚ごとの写真間"での連続性について分析した。ここでは、写真内容の連続性ではなく、写真の撮影された場面が作品紹介写真全体でどのように変遷しているかを確認することで、両メディアの場面変遷の流れの特徴を考察する。

また、ウェブサイト作品紹介ページの表示形式の違いによる場面変遷の流れの差異についても考察する。

4.1. 分析方法

まず、ウェブサイト・専門誌ともに写真の部位について建物のシークエンスに沿って図4-1-1に示すとおり a～g の7つの場面に分類する。

- a: 建物外観を撮影したもので、周辺環境を含むもの。
- b: 建物外観を撮影したもので、周辺環境を含めないもの。
- c: 内部と外部をつなぐもの。外部から内部を撮影したものや建物の玄関へ続くアプローチなどを撮影したもの。
- d: 建物内観、アプローチ階で撮影されたもの。
- e: 建物内観、アプローチ階以外で撮影されたもの。
- f: 屋上・バルコニーなど一度内部に入ってから外部へとつながるもの。(アプローチ階以外)
- g: 竣工前を撮影した、模型・パースなどの設計段階のもの、工事写真。

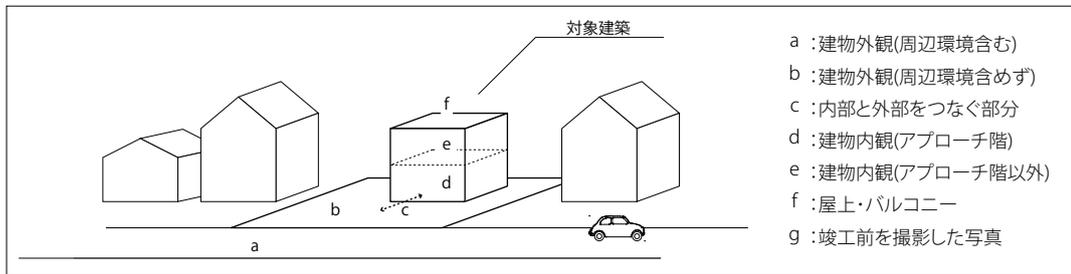


図 4-1-1 場面変遷分類

次に、場面変遷の流れを図4-1-2に従い図化する。また、ここでは対象建築の実体空間の連続性を確認するために g: 竣工前写真については図化する際に省き、前後する g 以外の写真の場面のつながりを考慮する。

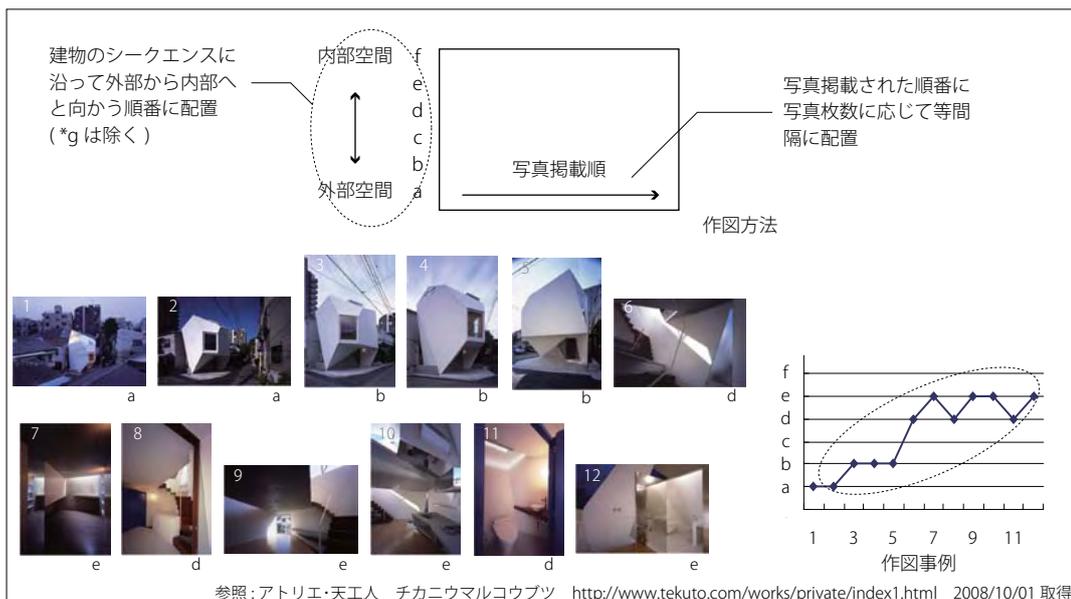


図 4-1-2 作図方法^{*1}

4.2. 場面変遷のタイプ分類

4.2.1. 対象写真の部位について

図 4-1-1 にしたがって、分類した結果を表 4-2-1 及び、図 4-2-1 に示す。

図 4-2-1 より、ウェブサイトと専門誌では撮影される写真の部位について大きな差が見られないことが分かる。ウェブサイトと専門誌で対象写真に登場する場面の割合は相似しており、メディア特性が現れにくいことが分かった。それを踏まえ、次項で作品紹介の中での写真配置による場面変遷の流れについて考察する。

表 4-2-1 対象写真の部位について (表)

	a	b	c	d	e	f	g	計
ウェブサイト	73	237	79	353	308	20	55	1125
専門誌	65	175	57	289	287	18	56	947 (枚数)

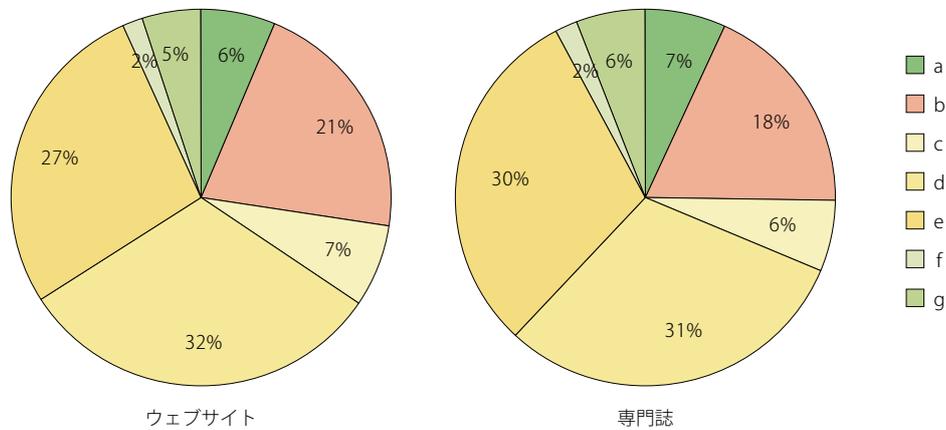


図 4-2-1 対象写真の部位について (グラフ)

4.2.2. 場面変遷のタイプ分類

図 4-1-2 にしたがって全作品を図化し、二段階以上の変化があるところ (a から c や、b から e など) を変曲点として分類したところ、図 4-2-2 に示す 9 タイプを得た。例えば、図 4-1-2 に示した例だと、外からはじまり内への流れとなるため、タイプ 1 となる。

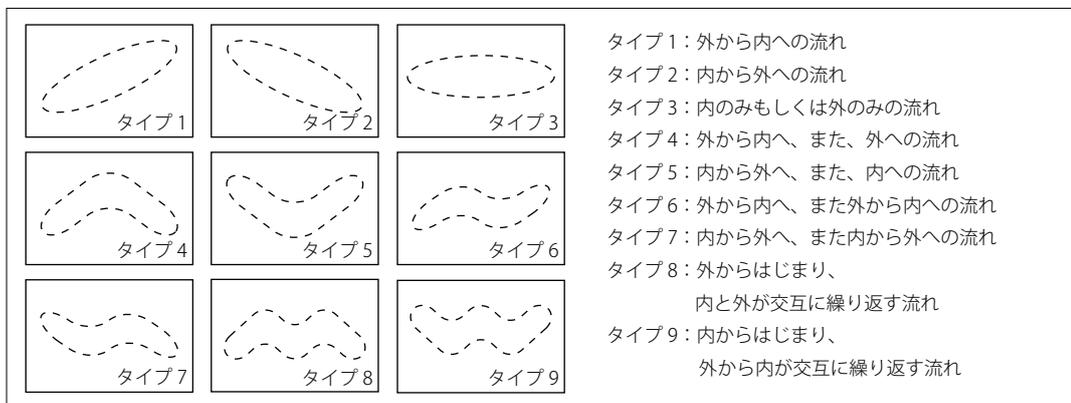


図 4-2-2 タイプ表

上記タイプに対象作品を分類し、まとめたものが表 4-2-2 及び、図 4-2-3 である。

図 4-2-3 より、ウェブサイトにおいて図中赤枠で示したタイプ 1 とタイプ 4 に明確な偏りが見て取れる一方、専門誌では比較的満遍なく様々なタイプで紹介されていることが分かった。

表 4-2-2 場面変遷のタイプ分類 (表)

タイプ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
ウェブサイト	46	3	7	20	4	9	4	7	2	102
専門誌	24	6	3	21	8	18	7	12	3	102 (作品数)

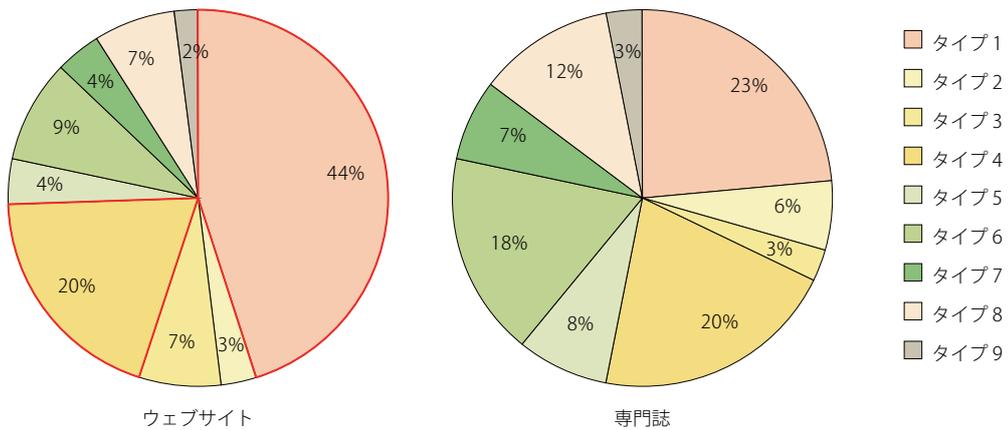


図 4-2-3 場面変遷のタイプ分類 (グラフ)

ウェブサイトに偏りが見られるタイプ 1・タイプ 4 は外部から内部への場面変遷の流れを持つもので、ウェブサイトではシークエンシャルな定式を持ったタイプが好まれることを読み取ることができる。

これは、前後写真の連続性のみだけでなく、外から内へと建物のシークエンスに沿った写真の配置とすることで、より建築を分かりやすく提示する姿勢の現れといえよう。

表 4-2-3 場面変遷の流れ データシート (ウェブサイト)

No.	作品名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	タイプ		
1	K邸	b	e	e	d	g	g	g	g																													1	
2	KA house	b	b	c	c	c	c	c	d	d	d	d	e	e	e																							1	
3	colors	b	e	e	e	e	d	d	e	e	a																											4	
4	O博士の家	d	b	d	d	d	d	d																														5	
5	崖の家	b	a	a	b	c	c	d	e	e	b																											4	
6	カラコンの家	b	b	b	a	e	e	e	e	e	e	e	a																									4	
7	Necklace House	b	b	b	b	e	e	e	e	e	e	e	e	c	c	b																					4		
8	富士河口湖の家	b	e	c	e	b																																8	
9	北茨城の平屋	b	b	a	b	b	b	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	1		
10	ラビットハウス	b	a	a	d	e	e	e	e	e	e	d	d																									1	
11	方華鏡の家	a	a	d	d	d	d	d	d	d	a	a	a	b	d	d	d	b																				8	
12	多重の景色	b	b	b	a	d	d	d	d	d	d																											1	
13	崖の岩	b	b	e	e	e	e	d																														1	
14	中野の家	b	b	c	e	e	e	e	d																													1	
15	AM・house	a	b	d	d	d	e	e	e	e	f																											1	
16	幸手ハウス	g	a	b	a	e	e	e	e	e	e	d	d	d	d	a																						4	
17	和歌浦の家	b	c	d	c	c	d																															1	
18	国立の家	g	b	d																																			1
19	点ノ線HOUSE	b	c	d	d	d	e	e																														1	
20	北沢の家	b	e	c	e	e	e	f																														6	
21	邸	a	e	e	e	d	d																															1	
22	スタジオハウス	b	b	e	e	e	f	f	e	e	d	d																										4	
23	たて庭の家	d	a	a	d	d	d	d	d	c	e	g	g	g	g	g	g																					5	
24	Co	b	b	b	b	b	e	e	e	e	b	g																										4	
25	ナチュラルフレックス	b	e	e	e	c	a	g																														4	
26	ナチュラルスティック	b	c	e	e	e	e																															1	
27	前橋の家	d	b	c	d	d	e	e	e	b																												7	
28	西新井の住宅	b	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d																					1	
29	イガタ	d	d	d																																		3	
30	私の別荘	a	a	d																																		1	
31	フラット・ヒロオ	d	d	d	d	d	d	d	d	c	g																											3	
32	古くて新しい事務所	d	d	d	d	c	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d		3		
33	Stone Renaissance	b	c	d	d	d																																1	
34	下鴨の家	c	b	e																																		1	
35	嵐の家	c	b	c	c	d	d	d	c																													1	
36	アイマ	b	a	b	d	d	d	d	d	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	1		
37	チカニマルコウブツ	a	a	b	b	b	d	e	d	e	e	d	e																									1	
38	クローバーハウス	b	d	d	d	d	d	b	b																													4	
39	grappa	a	a	b	a	b	b	d	e	e	e																											1	
40	BOZ	d	d	a	b	d	d	d	d	d	d																											5	
41	松ヶ丘の家	b	d	e	e																																	1	
42	WEP下北沢	b	a	b	b	c	d	d	e																													1	
43	吉祥寺の家	e	e	d	d	d	d	e	e	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	3		
44	H/Orange	b	a	d	d	e	e	e	e	e	e	e	e	e	a	d	d	e	b	c	e	e																8	
45	田口の家	a	b	b	c	d	d	d	b	b																													4
46	風笛の舎	a	c	a	b	b																																4	
47	府中の住宅	g	a	b	a	b	d	d	e	e	e	e	e	e	g	g																						1	
48	CENTER COURT HOUSE	c	c	c	d	d																																3	
49	日本橋 川辺の家	e	e	e	b	b	e	e	a	b																												9	
50	TROLLEY	a	a	a	b	b	b	b	d	d	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	f	f	e	e										1		
51	コトバノイエ	a	b	d	d	c	c	d	d	d	d	d	d	d	c	c	b	b	b	b	b	c	c	c	d	d	d	d	b	b	b	d	b	b			8		
52	A	c	d	d	e	e																																1	
53	ハマの家 beach house	b	b	c	d	d	d																															1	
54	牛久の住宅	b	b	e	d	b	b	e	e	e	e	d	d	d	d	e	d	d	d	d	d	e	e	d														6	
55	生田H	b	b	b	d	d	e	e	e	e	e	e	b																									4	
56	南伊豆のセカンドハウス	b	b	d	d	d	e	d																														1	
57	モザイクの家	a	b	b	b	d	d	e	e	e	e	e	e	e	e	a																						4	
58	朱雀の家	b	d	d	d	d																																1	
59	不盡の舎	b	b	b	d	d	e	e																														1	
60	六舎の家	b	b	d	d	e																																1	
61	勝山の家	a	b	d	d	e																																1	
62	YONハウス	b	c	e	e	e																																1	
63	湯河原の家	b	d	d	d	b	d	d	b	b	a																												8
64	SKIP HOUSE	b	b	b	e	e	e	e	e																														1
65	THEN?	b	b	f	c	f	c	f	f	d	b	f	d	f	d																								8
66	ホワイト・モノリス	d	a	b	f	f	b	b	f	d	d	d	d	d	d	d	e	e	e	b	b	b	a	a	a	a	a	g											

4.3. ウェブサイト作品紹介ページ表示形式ごとの場面変遷のタイプ分類

3.5. 同様に、ウェブサイトの作品紹介ページの表示形式ごとに場面変遷の流れのタイプを分類し、それぞれの表示形式の紹介方法の特質を探る。また、ここでは、ポップアップシステム、複合システム、羅列システムの系統ごとで比較を行う。

それぞれのウェブサイト表示形式系統で、場面変遷のタイプ分類した結果を、表 4-3-1 及び図 4-3-1 にまとめる。

表 4-3-1 ウェブサイト表示形式系統別 場面変遷のタイプ分類 (表)

タイプ		1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
ポップアップ系統	作品数	30	0	5	13	3	2	1	4	1	59
	割合(%)	50.8	0	8.5	22	5.1	3.4	1.7	6.8	1.7	100
複合系統	作品数	5	1	0	0	0	0	0	2	1	9
	割合(%)	55.6	11.1	0	0	0	0	0	22.2	11.1	100
羅列系統	作品数	11	2	2	7	1	7	3	1	0	34
	割合(%)	32.4	5.9	5.9	20.6	2.9	20.6	8.8	2.9	0	100

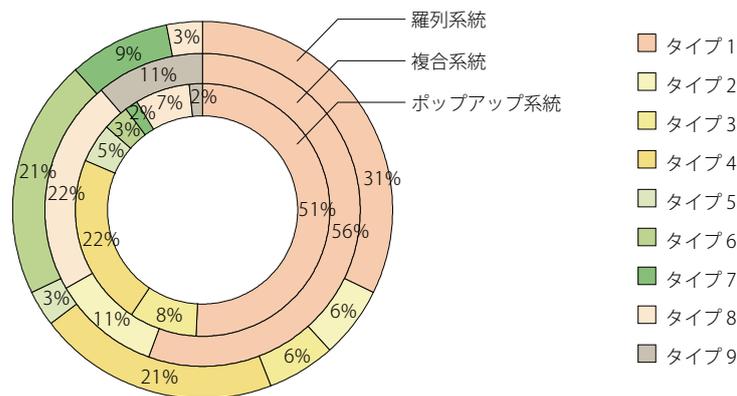


図 4-3-1 ウェブサイト表示形式系統別 場面変遷のタイプ分類 (グラフ)

図 4-3-1 より、ポップアップ系統と複合系統でタイプ 1 が過半数を占め (ポップアップ系統 50.8%, 複合系統 55.6%)、さらにポップアップ系統ではタイプ 4 にも偏りが見られた (22.0%)。一方、羅列系統ではポップアップ系統や複合系統に比べ、どのタイプも満遍なく分布していることが読み取れる。ここから、ポップアップ系統、複合系統では外から内へと場面をシークエンシャルに扱う場面変遷の流れが好まれ、定式化される傾向にあるといえる。対して、羅列系統では場面変遷の流れは定式化されにくく、自由な場面変遷の流れの中で紹介される傾向があるといえる。

これを 4.2. と比較すると 3.5. 同様に、羅列系統はポップアップ系統・複合系統に比べ、専門誌の持つ傾向が強いことが分かる。これは羅列系統が、ポップアップ系統・複合系統のようにリンクによって限定されたルートに従って一枚ごと写真を確認していくのではな

く、ウェブページ上でスクロールなどによって複数の写真を同時視認しやすく、自由に閲覧することが可能であるため、専門誌と類似した性質を持つものと考えられる。

以上より、シーン間のつながり同様、羅列系統で専門誌に類似した傾向を示すことがわかった。

4.4. 小結

本章では、写真の撮影された場面変遷の流れに着目し、撮影された場面が作品紹介のなかでどのように変遷していくか (4.2.)、ウェブサイト作品紹介ページ表示形式系統ごとで場面変遷の流れにどのような特徴を持つのか (4.3.) を確認した。

それぞれの節で得られたウェブサイトの相対的特質として、

- ① タイプ1とタイプ4に集中が見られ、外から内へといったシーケンスに沿って定式化された場面変遷の流れが好まれること (4.2.)
- ② ウェブサイト作品紹介ページ表示形式系統ごとに場面変遷の流れに着目すると、ポップアップ系統と複合系統でタイプ1とタイプ4に集中する傾向が見られるのに対し、羅列系統は比較的様々なタイプで紹介され、そのタイプ分布は専門誌に近い性質があること (4.3.)

が分かった。

以上より、建築家のウェブサイトでは、シーケンスに沿って実際に建物を体験するような場面変遷の流れで紹介される傾向にあるといえる。それは、ウェブページ閲覧者に分かりやすく空間構成を把握させることにつながり、ウェブサイトの滞在短期性やデジグラフィの消去性を補うための工夫であるともいえる。また、ウェブサイト作品紹介表示形式によって場面の扱われ方に差があり、それは複数写真を同時視認しやすいためか否かによるものと考えられる。

註及び参考文献

- 1) アトリエ・天工人. チカニウマルコウブツ .(<http://www.tekuto.com/works/private/index1.html>).2008/10/01 取得

5 章

結論

5. 結論

建築家のウェブサイトと専門誌の対象写真を比較した結果、ウェブサイトの相対的特質として次の6項目が確認できた。

- ①ウェブサイトにおいて言説に比べ写真などの視覚情報が重視されること
- ②ウェブサイトで前後する写真を連続的に構成する傾向があること
- ③全体の写真配列のなかで内観写真もしくは外観写真のみが順番に並んでいる部分をそれぞれ内観シーン・外観シーンとしたとき、ウェブサイトでは内観シーン同士・外観シーン同士を連続せずに扱う傾向を持つこと
- ④ウェブページの画面構成による表示形式の違いによって写真の連続性に差異があり、羅列系統は専門誌に類似した傾向を示すこと
- ⑤ウェブサイトは専門誌のように大写真を中心とした紹介ではなく、すべての建築空間にヒエラルキーをつけず均等に紹介する傾向を持つこと
- ⑥ウェブサイトで、外部から内部へといった定式化された場面変遷の流れを持つ写真構成が好まれること

である。

以上より、建築家のウェブサイトの特徴について以下の2つにまとめることができよう。すなわち、シークエンスに沿った連続的な空間紹介を重視すること。さらに、シーンの独立性や個々の写真の関連性から、建築空間を満遍なく一様に紹介するものとなっていることである。それらは、現代建築を取り巻く情報環境の変容の一端を示すものである。

付章

現代建築のフラット化



付章. 現代建築のフラット化

前章までで、建築家のウェブサイトを紹介した情報伝達的手段について分析し、結論を出した。では、現代建築にインターネットの情報環境がどのような影響を与える可能性があるのでしょうか。また、近代建築から現代建築の流れのなかで、インターネットの情報環境はどのように捉えられるのだろうか。ここでは本研究を通して得た見解をもとに私の考えを述べよう。

◆ インターネットの情報空間

これまで、印刷メディアとウェブメディアの違い、また、それぞれのデザインやページ構成の差からウェブサイトの表現的性質を述べた(1.5. ウェブサイトの性質から見る研究の着目点)。では、インターネットはどのような社会的性質を持ち、一般社会にどのような影響をもちえるのだろうか。

ここで、インターネット上において情報を扱う手段であるウェブ(World Wide Web)の性質を考える。現在では、ウェブはweb1.0と呼ばれる段階からweb2.0と呼ばれる段階に移行しているといわれている。web2.0とはティム・オライリーらが2004年に提唱した概念で、端的にいうとそれまで発信者から受信者への流れしか持たなかった一方向性のメディアであったウェブが、アクセスするすべてのユーザーが同等の双方向のネットワークを構築するようになった状況を示している^{*1}。また、IT企業コンサルタントの梅田望夫はweb2.0の本質を「ネット上の不特定多数の人々(や企業)を、受動的なサービス享受者ではなく能動的な表現者と認めて積極的に巻き込んでいくための技術やサービス開発姿勢」(梅田,2006,p.120)であるとする^{*2}。つまり、web2.0に移行したといわれる現在、情報の発信者と情報の受信者の境が無くなり、個々に様々なコンテンツを形成し、それがお互いにリンクしながら発展していく状況になったといえる。

そのような状況を受け、IT・ネット分野のフリージャーナリストの佐々木俊尚は、情報の発信者であるマスメディアが情報を独占し、それを一方的に発信する時代は終わりつつあるとする。その上で、従来は情報の受信者であった一般の人が、インターネット上のブログや掲示板などで、相互に議論する場が創出されるようになったという。^{*3}つまり、web2.0の浸透によってインターネット上ではマスメディアと個人が同じ地平に存在するようになったというのである。さらに、「インターネットのつくるフラットな空間がマスメディアや人間関係、政治などありとあらゆる人間社会の事象を呑み込みつつあるのだ。」

(佐々木,2007,p.3) と述べ、キーワードに情報空間の "フラット" 化を挙げる。つまり、インターネット環境では、情報はフラット化され、従来のマスメディアの持っていた絶対的な権力を相対化し、個人がマスメディアと同等に議論する場を創出しているのである。

◆ 建築家のウェブサイトにおける表現のフラット化

本研究で得られた建築家のウェブサイトについての相対的特質は、大きくまとめて2つに集約することができた。すなわち、シークエンスに沿った連続的な空間紹介を重視すること。さらに、シーンの独立性や個々の写真の関連性から、建築空間を満遍なく一様に紹介するものとなっていることである。つまり、建築家のウェブサイト上の表現は、断片的なシーンが連続し建築空間をフラットに紹介するものであるといえる。ここでいうフラットとは、様々な断片的な建築空間が独立して紹介されており、紹介される空間同士のヒエラルキーが少なくなっている状況を捉えるものである。

インターネットが情報のフラット化をもたらした。一方、その構造の上に立脚する存在である建築家のウェブサイトでも、"情報としての建築"の空間をフラットなものとして扱う傾向が見られた。つまり、誤解を恐れずいえば、インターネットは社会的階層のフラット化をもたらし、建築家のウェブサイトは"実体としての建築"空間のフラット化を促す可能性を持つといえよう。

◆ スーパーフラットの思想

ここで、現代美術家の村上隆が提唱した「スーパーフラット」という概念を紹介する。スーパーフラットとは日本のサブカルチャーから発見されたコンセプトである。社会学者の東浩紀はそうしたスーパーフラットの特徴として、固定化されたカメラアイの欠如とフレーム概念の弱さを挙げる。つまり、スーパーフラットの空間は近代絵画のように遠近法的な空間の収束がなく、どこにもピントがあっており視線が複数存在するというのである。

*4 また、スーパーフラットの概念はサブカルチャーの枠にとどまらず、さらに広い文脈のなかで扱われている。建築史家の五十嵐太郎は、スーパーフラットの傾向は映画や写真を含む、多くの分野でも指摘されているとし、建築の側からスーパーフラットを多様に解釈することもできるとする。五十嵐は、スーパーフラットの建築を2つの視点で考察する。ひとつは「超平面性」、つまり表現を皮膜となるファサードの部分に集中させ、2.5次元的な空間を持つ90年代の作品群で、文字通りにフラットな建築あるいは薄くて軽い建築

を指すものである。もうひとつは「ヒエラルキーの解体」、つまり、プログラムにおけるスーパーフラットである。プログラムにおけるスーパーフラットとは諸室のヒエラルキーをなくし、それぞれの空間を一様に均質に扱う姿勢である。その例として、SANAA の設計した「金沢 21 世紀美術館」(2004 年竣工) や伊東豊雄の設計した「せんだいメディアテーク」(2000 年竣工) が挙げられる。⁵

建築家のウェブサイトは作品紹介の際、情報としての建築空間をフラットに扱う傾向があり、それは複数の断片的なシーンが連続して紹介される様を示すものであった。つまり、決められたカメラアイがなく、複数の断片的シーンの連続で建築を紹介する傾向にある点、また、専門誌のように " 決めの一枚 " を中心とした空間紹介の傾向が薄い点から、東のいう複数の視点を持つものとしてのスーパーフラットや、五十嵐のいうヒエラルキーの解体としてのスーパーフラットの性質を持つといえる。

◆ 近代建築から現代建築への流れ —断片的シーンの集積による構成—

ウェブサイトにおける情報としての建築が示すフラット化は、実体の建築ではどのように現れるのであろうか。

近年、建築写真の世界において、" 決めの一枚 " がない建築が増えてきていると指摘されている。建築ライターの磯達雄は、

ここ数年、建築雑誌を見ながらしばしば思うことがある。それは、写真を撮りにくい建築が増えた、ということである。〔中略〕建築自体の魅力を、写真というメディアでは伝えきれなくなっているような気がするのだ。〔中略〕かつて建築はオブジェとして、すなわちひとつの形を持った見られる対象としてあった。しかし、ここで取り上げたような建築は、見られるというよりも、体験されるものとして存在している。それゆえに建築は、人によって全く違う現れ方をするのだ。(磯,2006,p.38-39)

と述べ、" 決めの一枚 " となる写真で表現できない建築が増え、それらは体験されることによって把握されるものであるとした。⁶ これは、従来のように " 決めの一枚 " となる、全体を代表する空間が存在する建築だけではなく、部分的な体験の連続から出来上がる建築が登場してきたことを示していよう。さらに、部分的体験の連続は、個々の空間を連続

的に紹介することにつながることから、断片的シーンの連続とも言い換えることができる。

ここで、建築家の藤本壮介は

部分の建築とは、建築を、大きな秩序、外側からの秩序によってではなく、部分と部分の関係性というちいさな秩序の連なりによって、内側からつくっていくことができるのではないか、〔中略〕近代というものが大きな秩序からものをつくる時代だったとすれば、この「部分の建築」は、真の意味で近代に取って代わる価値観になり得るのではないか、〔中略〕ここでいう「部分」は、局所的な部分と部分の関係性のことであり、その関係性自体の中から小さな秩序が立ち現れてくるのである。(藤本,2004,p.110)

と述べ、部分の集積としての建築が、現代建築を担うものになる可能性を指摘する。⁷⁷

例えば、藤本壮介の設計した「伊達の援護寮」(2003年竣工)は、部分の集積として出来上がる建築といえる。5.4mの正方形がそれぞれ角度を変えながら重なり合って全体を形成しており、全体写真を見ただけでは建物の全容がつかめない。また、それぞれの空間にヒエラルキーはなく、全体を理解するには個々の部分の集積として理解しなければならない。それは建築を断片的シーンの連続したものと認識することで、初めて捉えられる形であるといえよう。



図 付-1 伊達の援護寮(外観)⁷⁸

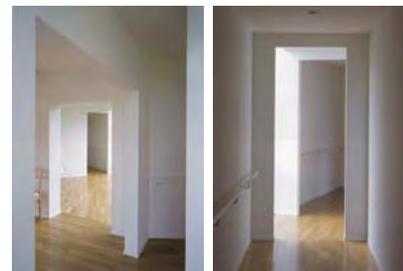


図 付-2 伊達の援護寮(内観)⁷⁹

一方、建築家の青木淳は近代建築から現代建築の流れを以下の観点から考察する。青木によると、建築物を見る視点は2つあり、ひとつは、実際にその場で見える人間の視点、もうひとつは、人間の視点で見た情報の集積を頭のなかで想像し建築の全体像を把握する神の視点であるという。そして、前者を具体、後者を抽象とし、抽象こそが建築の本質であるとする。また、近代建築は見てすぐに分かる建築が傑作とされたため、具体を抽象に近づけようとし、それが自己目的となって洗練されてきたという。その上で以下のように述べる。

建築でしっかりと具体を抽象に接近させてあれば、〔中略〕その建築の本質をたった一枚の写真に定着した、つまり決定的なショットを撮ることができる。モダニズムの建築においては、そんな決定的な写真が撮れる建築が、つまりは、すぐれた建築なのである。(青木,2008,p.259)

つまり、近代建築においては"決め一枚"のみで表現できる建築こそ本流であり、抽象化されない建築は亜流であったといえる。しかし、青木は自身の目指す建築を、

ぼくのところでつくる建築には、本質というものが無い。〔中略〕いま眼に見えている情景そのもの、あるいはそれが堅固なものでなく、いつでも壊れてしまうような相対的なものであることが主題だからだ。(青木,2008,p.259)

とする。青木は目の前にある情景から建築をつくる態度をとり、近代建築の求めた抽象への欲求を否定するのである。つまり、眼に見える具体が情景をつくり、その集積として建築をつくることから、それは個々の部分から出来上がっていく建築であるといえよう。そこには、近代建築の先に存在するものとして、断片的シーンの集積された建築を目指す態度が伺える。

さらに、そのような態度が最も発揮された建築として青木は「青森県立美術館」(2005年竣工)を挙げる。

^{*10} この建物は、上向きの凸凹に下向きの凸凹が被さったような断面形状をしており、白い壁と土の壁が交互に配されている。実際にこの建物は、平面図だけでは読み取ることのできないような空間構成となっており、たしかに抽象ではなく具体として表出しているものと感じられる。印象的な空間はたくさんあるのだが、その構成は、部分的な独立したシーンの連続として存在し、"決め一枚"となる空間が見当たらない。断片的シーンの集積から出来上がったこの建築は、ま



図 付-3 青森県立美術館(外観)^{*12}

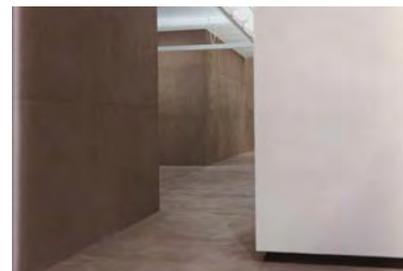


図 付-4 青森県立美術館(内観)^{*13}

さに具体の集積によってつくられる建築といえよう。^{*11}

以上の建築の流れは、断片的シーンの集積として建築をつくる態度のあらわれである。それは、" 決め一枚 " となる空間を持たず、各空間を均等に扱う姿勢でもある。そういった建築は空間にヒエラルキーをつけない、フラットな建築といえよう。

◆ 現代建築のフラット化と建築家のウェブサイト

断片的シーンの集積で構成される建築は、現代建築のひとつの流れとなっているといえる。それは、ヒエラルキーの解体としてのスーパーフラットな建築への流れを意味しよう。

社会の流れがスーパーフラットに向かい、それと共に現代建築の中にもフラット化の流れが生まれた。一方で、インターネットの登場は、現代社会を取り巻く情報環境のフラット化をもたらし、建築家のウェブサイトでは紹介される空間をフラットに扱う傾向が見られた。

建築家のウェブサイト上で扱われる " 情報としての建築 " のフラット化と、現代建築の流れのひとつである " 実体としての建築 " のフラット化。一方は、ウェブサイトの作品紹介における表現であり、もう一方は実際の建築空間を断片的シーンの集積として構成する態度であるが、これらは期せずして同じ傾向を示している。

ここで注意しなくてはならないのは、" 実体としての建築 " にフラット化の流れを持つものが現れたために、ウェブサイト上の " 情報としての建築 " がフラット化される傾向を示すわけでも、その逆でもないということである。それらは、それぞれが固有の源流の上に成り立っているものであり、全く別のところから互いを意識せず生まれたものといえよう。

しかし、現代建築を取り巻く情報社会において、ウェブサイト上の " 情報としての建築 " と " 実体としての建築 " は互いに影響を与え合う存在となることが予想される。研究の背景でも述べたが、建築家は自覚の有無に関わらず、メディアのマナーに影響されるのである。^{*14} 図らずも、同じ時代に生まれた同じ傾向を示す、建築家のウェブサイト上の " 情報としての建築 " と " 実体としての建築 "、インターネットの爆発的な普及などを考えたとき、これらの相互作用から現代建築のフラット化の流れは今後も推進されるものであろう。

- 1) 小泉修.(2007).Web 大全—図解で理解進化のすべて—. 自由国民社.
- 2) 梅田望夫.(2006). ウェブ進化論—本当の大変化はこれから始まる—. ちくま新書.
- 3) 佐々木俊尚.(2007). フラット革命. 講談社.
- 4) 東浩紀.(2000.09.16). 存在論的、広告的、スーパーフラットの.(<http://www.hirokiazuma.co./texts/superflat.html>).2008/01/26 取得.
この論文は『広告』2000年1+2月号, 博報堂に掲載された文章をウェブサイト上で加筆修正して公開しているものである。
- 5) 五十嵐太郎.(2001). 終わりの建築／始まりの建築—ポストラディカリズムの建築と言説—.INAX 出版.
- 6) 磯は写真を撮りにくい建築として藤本壮介設計「伊達の援護寮」(2003年竣工)や西沢立衛設計「森山邸」(2005年竣工)を挙げて説明する。
磯達雄.(2006). 写真を撮りにくい建築が増えている?. 日経BP社. 日経アーキテクチュア,2006年12月号:38-39.
- 7) 藤本壮介.(2004).Space of no Intention. 新建築社. 新建築,2004年9月号:110.
藤本壮介.(2001). 部分の建築. 新建築社. JA,43号:11.
- 8) 出典:藤本壮介.(2004). 伊達の援護寮. 新建築社. 新建築,2004年9月号:106.
- 9) 出典:藤本壮介.(2004). 伊達の援護寮. 新建築社. 新建築,2004年9月号:108.
- 10) 青木淳.(2008). 写真に撮りにくい建築になってしまうのは、. 東京都庭園美術館. 写真の記憶—写真と建築の近現代—:258-259.
- 11) 建築家の西沢立衛も青森県立美術館について、青木淳との対談のなかで「印象的だったのは全体としてすごく映像的な感じがしたことですね。それは単に視覚的という意味ではなくて、なんとというかシークエンシャルというんでしょうか、断片的ショットが連続していくような、非常に印象的な情景が度々現れる。」(西沢,2006,p.66)と述べる。西沢も、この美術館を部分が連続的につながるものと捉えているといえよう。
西沢立衛+青木淳.(2006). 図式とルール—青森県立美術館をめぐる—. 新建築社. 新建築,2006年9月号:66-69.
- 12) この写真集は青木が、この建築のあり方を捉えるために、自ら鈴木理策に依頼したものである。118枚の写真が掲載されている中で、建物の全体像が分かるのは3枚しかない。
出典:鈴木理策.(2006).AOMORI MUSEUM OF ART. 青木淳 COMPLETE WORKS 2.INAX出版:59.
- 13) 出典:鈴木理策.(2006).AOMORI MUSEUM OF ART. 青木淳 COMPLETE WORKS 2.INAX出版:123.
- 14) 多木浩二.(2007). 建築と写真の現在 vol.1 「建築と写真」,(建築と写真の現在).TN プローブ / 株式会社大林組.

参考文献

本論で直接引用・言及したもの

- ・ 青木淳.(2008). 写真に撮りにくい建築になってしまうのは、. 東京都庭園美術館. 写真の記憶—写真と建築の近現代—:258-259.
- ・ 赤川学.(2006). 構築主義を再構築する, 勁草書房
- ・ 東浩紀.(2000.09.16). 存在論的、広告的、スーパーフラットの.(<http://www.hirokiazuma.co/texts/superflat.html>).2008/01/26 取得.
- ・ 飯沢耕太郎.(2004). デジグラフィ - デジタルは写真を殺すのか?-, 中央公論新社.
- ・ 五十嵐太郎.(2001). 終わりの建築/始まりの建築 - ポスト・ラディカリズムの建築と言説, INAX 出版.
- ・ 磯達雄.(2006). 写真を撮りにくい建築が増えている?. 日経 BP 社. 日経アーキテクチャ, 2006年12月号 :38-39.
- ・ 市村哲・宇田隆哉・伊藤雅仁.(2003). 基礎 web 技術, オーム社.
- ・ 梅田望夫.(2006). ウェブ進化論—本当の大変化はこれから始まる—. ちくま新書.
- ・ 岡河貢・足立真・坂本一成.(2003). 情報化された建築空間の構成に関する研究—ル・コルビュジエ全作品集の建築写真の連続性について—. 日本建築学会. 日本建築学会計画系論文集, 第564号 :363-369.
- ・ 岡河貢・足立真・坂本一成.(2006). ル・コルビュジエ全作品集における建築写真と図面・スケッチの構成—情報化された建築空間の構成に関する研究—. 日本建築学会. 日本建築学会計画系論文集, 第607号 :225-232.
- ・ 岡河貢・足立真・坂本一成.(2006). ル・コルビュジエ全作品集における建築写真の対象と構成—情報化された建築空間の構成に関する研究—. 日本建築学会. 日本建築学会計画系論文集, 第609号 :193-200.
- ・ 奥山信一・久保田創・塩崎太伸.(2005). ウェブサイトにおける商品化住宅の外観に関する言語表現. 日本建築学会. 日本建築学会学術講演梗概集 (近畿):621-622.
- ・ 奥山信一・桜井春美・塩崎太伸.(2003). 建築写真に表現された室内構成—建築空間のイメージ形成にかかわる枠組の研究—. 日本建築学会. 日本建築学会大会学術講演梗概集 (東海):281-282.
- ・ 岸勇希.(2008). コミュニケーションをデザインするための本, 株式会社電通.
- ・ 小泉修.(2007). web 大全 - 図解で理解 その進化のすべて -, 自由国民社.
- ・ 坂本一成・奥山信一.(1986). 建築誌・住宅誌での写真における住宅—建築のイメージにかかわる枠組みの研究—. 日本建築学会. 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北海道):865-866.
- ・ 坂本一成・西沢大良・高橋寛.(1987). 建築誌写真に表現される住宅—「建築としての住宅」のありかたに関する研究—. 日本建築学会. 日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿):1071-1072.
- ・ 佐々木俊尚.(2007). フラット革命. 講談社.
- ・ ジョシュア・メイロウィッツ.(2003). 場所感の喪失 (上)- 電子メディアが社会的行動に及ぼす影響-, (安川一・高山啓子・上谷香陽 訳). 新曜社.
- ・ 新谷美和・貝島桃代.(2002). 建築雑誌に見る現代日本住宅における写真表現—写真と建築の関係—. 日本建築学会. 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸):579-580.
- ・ 鈴木理策.(2006). AOMORI MUSEUM OF ART. 青木淳 COMPLETE WORKS 2. INAX 出版
- ・ 総務省情報通信政策局情報通信経済室. 平成 18 年度情報流通センサス報告書. (http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/linkdata/ic_sensasu_h18.pdf).2009年1月19日取得

- ・ 多木浩二.(2007). 建築と写真の現在 vol.1「建築と写真」,(建築と写真の現在).TN プローブ / 株式会社大林組.
- ・ 電通「クロスメディア開発プロジェクト」チーム.(2008). クロスイッチ - 電通式クロスメディアコミュニケーションのつくりかた -,ダイヤモンド社.
- ・ 西沢立衛 + 青木淳.(2006). 図式とルール—青森県立美術館をめぐる—. 新建築社. 新建築,2006年9月号:66-69.
- ・ 濱野智史.(2008). アーキテクチャの生態系 - 情報環境はいかに設計されてきたか -,NTT 出版.
- ・ 藤本壮介.(2001). 部分の建築. 新建築社. JA,43号:11.
- ・ 藤本壮介.(2004).Space of no Intention. 新建築社. 新建築,2004年9月号:110.
- ・ マーシャル・マクルーハン.(1987). メディア論 - 人間感覚の拡張 -, (栗原裕・河本伸聖 訳). みすず書房.
- ・ 溝口恵美・奥山信一・横山天心・久保田創.(2006). 建築設計事務所のウェブサイトにおける建築家の言語表現. 日本建築学会. 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東):585-586.
- ・ 三桶士史・奥山信一・塩崎太伸.(2006). 建築家との家づくりにおける住宅プロデュース会社の意義. 日本建築学会. 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東):583-584.
- ・ ヤコブ・ニールセン.(2000). ウェブ・ユーザビリティ ,(グエル 訳). エムディエヌコーポレーション.
- ・ ヤコブ・ニールセン.(2002). ホームページ・ユーザビリティ ,(風工舎 訳). エムディエヌコーポレーション.
- ・ ヤコブ・ニールセン.(2006). ヤコブ・ニールセンのAlertbox,(船井淳・奥泉直子・川崎幹人 訳).RBB PRESS.
- ・ ロラン・バルト.(1985). 明るい部屋 - 写真についての覚書 -, (花輪光 訳). みすず書房.

本論で直接引用・言及したもの以外で本研究を行うに際して間接的に参考にしたもの

-
- ・ 東浩紀.(2001). 動物化するポストモダン - オタクから見た日本社会 -, 講談社現代新書.
 - ・ 飯沢耕太郎.(1996). ようこそ写真美術館へ, 講談社現代新書.
 - ・ 石田英敬.(2003). 記号の知 / メディアの知 - 日常生活批判のためのレッスン -, 東京大学出版会.
 - ・ ヴァルター・ベンヤミン.(1998). 写真小史,(久保哲司 訳). ちくま学芸文庫.
 - ・ ヴィヴィアン・バー.(1997). 社会的構築主義への招待,(田中一彦 訳). 川島書房.
 - ・ ヴィレム・フルッサー.(1997). テクノコードの誕生 - コミュニケーション学説 -, (村上淳一 訳). 東京大学出版会.
 - ・ エイドリアン・フォーティ.(2006). 言葉と建築,(坂牛卓・辺見浩久 訳). 鹿島出版会.
 - ・ エルヴィン・パノフスキー.(2003). <象徴形式>としての遠近法,(木田元 訳). 哲学選書.
 - ・ 北田暁大.(2000). 広告の誕生 - 近代メディア文化の歴史社会学 -, 岩波書店.
 - ・ 京都造形芸術大学 (編).(2003). 現代写真のリアリティ, 角川書店.
 - ・ 坂牛卓.(2008). 建築の規則 - 現代建築を創り・読み解く可能性 -, ナカニシヤ出版.
 - ・ 坂本一成.(2000). 閉鎖から開放,そして解放へ - 空間の配列による建築論 -. 新建築社. 新建築,2000年11月号:60-67.
 - ・ 坂本一成.(2001). 住宅 - 日常の詩学 -.TOTO 出版.

- ・ 佐々木健一.(1995). 美学辞典, 東京大学出版会.
- ・ 佐野寛.(2005). メディア写真論 - メディアの中の写真を考える -, パロル社.
- ・ ジョン・バージャー.(1986). イメージ - 視覚とメディア -.PARCO 出版.
- ・ 鈴木謙介.(2005). カーニバル化する社会, 講談社現代新書.
- ・ 鈴木謙介.(2005). 暴走するインターネット, イースト・プレス.
- ・ 鈴木謙介.(2007). ウェブ社会の思想—< 偏在する私 >をどう生きるか—,NHK ブックス.
- ・ セルジュ・ティスロン.(2001). 明るい部屋の謎 - 写真と無意識 -, (青山勝 訳). 人文書院.
- ・ 多木浩二.(2001). 生きられた家 - 経験と象徴 -, 岩波現代文庫.
- ・ 多木浩二.(2003). 写真論集成, 岩波現代文庫.
- ・ ビアトリス・コロミーナ.(1996). マスメディアとしての近代建築 - アドルフ・ロースとル・コルビュジェ -, (松畑強 訳). 鹿島出版会.
- ・ 美術手帖編集部 + 谷川渥 [監修] .(2002).20 世紀の美術と思想, 美術出版社.
- ・ 平岩宏樹・坂牛卓.(2007). 建築意匠設計における建築雑誌の役割に関する研究—建築一般誌と建築専門誌の作品紹介写真から読み取れる両誌の特質分析—. 日本建築学会. 日本建築学会. 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州) : 665-666.
- ・ マーク・ポスター.(2001). 情報様式論, (室井尚・吉岡洋 訳). 岩波現代新書.
- ・ 宮澤淳一.(2008). マクルーハンの光景メディア論がみえる, みすず書房.
- ・ 宮島喬.(1994). 文化的再生産の社会学, 藤原書店.
- ・ ロラン・バルト.(1967). 神話作用, (篠沢秀夫 訳). 現代思潮新社.
- ・ ロラン・バルト.(2005). 映像の修辞学, (蓮實重彦・杉本紀子 訳). ちくま学芸文庫.

建築家のウェブサイトにおける写真表現 - 建築専門誌との比較分析 -

坂牛研究室 07TA336E 平岩 宏樹

1. 序

1.1. 研究背景と目的

近年、建築はテレビや雑誌・インターネットなど、様々なメディアで紹介され、情報としての建築は広く社会全体に流布されている。つまりメディア上で形成される建築像は社会的影響力を持つ存在として実際の建築と共存しているといえよう¹⁾。

また、建築を扱うメディアの普及によって一般の人が建築の知識を得る機会が増加している。そのようなメディアの中でもインターネットは急速に発展しているメディアのひとつといえる。近年さまざまな建築紹介サイトが登場し、多様な建築紹介を展開している。また、建築家側でも多くの建築家がウェブサイトを作成し、様々な情報を発信している。現在では、特定の建築家を調べる際、ウェブサイトを閲覧することは、広く認知される手段であるといえよう。

建築家のウェブサイト²⁾は建築家の設計態度や作品紹介の文章、作品写真などから構成され、一般の人が手軽に建築家について情報を得ることができる場となっている。そして今後ウェブサイトを紹介した情報伝達はより広まるものと思われる。また、こうしたメディアは単に作品の発表ツールとして建築家に利便性を提供することにとどまらず、そのメディア特性に適合する建築像を建築家に促す影響力を持ち得る³⁾。

そこで、本研究は“建築家のウェブサイト”と、従来の建築ジャーナリズムをリードしてきたメディアである“建築専門誌”の比較を通じ、建築家のウェブサイトを紹介した情報伝達の特徴を把握し、建築意匠設計に関わる社会構造の一端を明らかにすることを目的とする。

1.2. 研究対象

建築家のウェブサイトは言説や写真などから構成されるが、一般にウェブサイトに掲載される文章は読まれにくい⁴⁾、言説に比べ写真が重視されやすい。そこで本研究はウェブサイトにおける情報量の過半を占める“写真”を対象を限定し分析を行う。

対象建築作品は、建築専門誌である『新建築住宅特集（以下専門誌）』近刊1年分⁵⁾として2007年1月号から2007年12月号に掲載された竣工後の住宅作品のうち、巻末に示される建築家紹介欄のウェブサイト上で紹介されているものに限定した⁶⁾。

その結果、研究対象となるウェブサイトをもつ設計事務所は90事務所、作品数は102であった。また、写真数⁷⁾はウェブサイト総計1125⁸⁾枚、専門誌総計947枚となり、以下それらの写真を対象として比較分析する。

1.3. 既往研究

既往研究において、建築家のウェブサイトを紹介したもの⁹⁾のうち、言説表現に着目したもの⁹⁾は見受けられるが、写真を主題として扱ったものはない。また、意匠的観点から考察した建築写真分析においても建築家個人の作品集の写真を扱っているもの¹⁰⁾や、雑誌に掲載された作品写真を分析対象としているもの¹¹⁾はある

が、ウェブサイトに着目したものは見られない。よってウェブサイト上の写真は新たな研究領域であるといえよう。

1.4. 研究の着目点

ウェブユーザビリティの研究者であるヤコブ・ニールセンは一般的なウェブページの特徴として、「①文章の読まれにくさ」、「②1ページごとの滞在時間の短さ」、「③リンクなどによってユーザーの意思でページ間を移動できるが、ページ同士はリンクによって結ばれるため、その移動ルートは限定されること」などを挙げる¹²⁾。つまり、多くのウェブサイトでは印刷メディアに比べ、1ページごとの滞在時間は短く、文章も読まれにくい。さらに、リンクによって限定されたルート上でページを確認していくため、印刷メディアのようにページを飛ばして自由に往來し内容を確認することが困難であるといえる。

そのようなウェブページ上に掲載される写真は、従来の銀塩写真とは異なった性質を保持している。ここで、写真評論家の飯沢耕太郎は従来の銀塩写真=フォトグラフィ (photography) に対し、デジタルメディアによる写真をデジグラフィ (digigraphy) と定義し、以下の5つの特徴を挙げる¹³⁾。①デジタルデータであるため画像編集が簡便である(=改変性)、②撮影した場ですぐに確認し、再撮影が容易である(=現認性)、③データでの保存によって簡単に蓄積され、かつ過去のデータの参照がしやすい(=蓄積性)、④写真データの送受信の簡易化によってデータが共有される(=相互通信性)、⑤容易にデータを消去でき、また、ウェブサイトなどでクリックすることで一瞬のうちに画像が切り替わる(=消去性)。その上で、ウェブサイトがデジグラフィの特徴を生かした発表媒体であるとする。

以上より、ウェブサイトは閲覧時ページごとの滞在時間が印刷メディアと比較し短く、デジグラフィの消去性などの性質が現れやすいものであるといえる。このことは、ウェブサイトの作品写真閲覧時において画像情報自体の内容よりも、写真間の関連性が提示する情報の重要度を示している。そこで本研究では写真のつながりに着目し建築のイメージがどのように提供されているかについて分析する。

2. 対象ウェブサイトの概要

1.2. で対象となった102作品について、専門誌ではすべての作品で言説による説明と図面掲載があった。一方、ウェブサイト上で作品紹介の言説が掲載されているものは53作品(52.0%)であり、ウェブサイトでは言説が重視されない傾向を読み取れる。また、平面図などの図面掲載があるものは10作品(9.8%)と少なかった。これは、ウェブサイトでは同時に複数ページを閲覧することが構造上困難なため、専門誌のように図面を参照しながら空間構成を理解する手法がとられにくいことを示している。

次に作品紹介ページの表示形式について分類を試みたところ、「ポップアップ型」・「トリミング拡大型」・「羅列一覧型」・「羅列拡大型」・「羅列拡大+ポップアップ型」に5分類することが

でき、ポップアップ型とトリミング拡大型をポップアップ系統、羅列拡大型と羅列一覧型を羅列系統、羅列拡大+ポップアップ型を複合系統¹⁴とし、総じて3系統5分類に大別した。(図1)

分類結果はポップアップ型41作品(40.2%)・トリミング拡大型18作品(17.6%)・羅列一覧型18作品(17.6%)・羅列拡大型16作品(15.7%)・羅列拡大+ポップアップ型9作品(8.8%)であった。系統別に見ると、ポップアップ系統59作品(57.8%)・羅列系統34作品(33.3%)・複合系統9作品(8.8%)となった。一番多いポップアップ系統は写真が現れては消えていくといったウェブサイトの特徴を顕著に示す形式といえる。

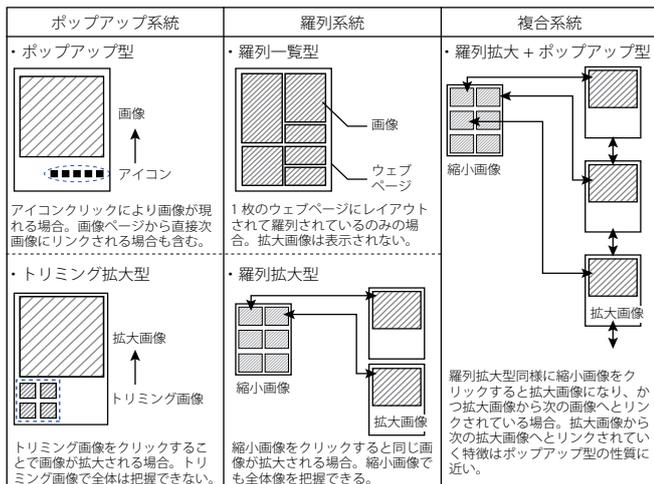


図1 ウェブサイト表示形式について

また、ウェブサイトと専門誌の写真枚数を比較すると、ウェブサイト1125枚・一作品あたり平均11.0枚、専門誌947枚・一作品あたり平均9.3枚となり、ウェブサイトのほうが多くの写真で作品を紹介しているということが分かった。一方、枚数の分布は図2に示すとおりになった。図2より、専門誌では一作品あたり概ね7枚から11枚の写真で紹介されるものに集中するのに対し(標準偏差2.51)、ウェブサイトでは明確な集中が見られなかった(標準偏差6.18)。以上からウェブサイトでは各サイトごとでばらつきが見られるが、平均して専門誌より多くの写真で紹介される傾向があることが分かる。

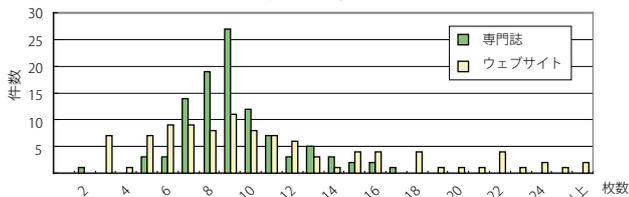


図2 掲載写真枚数分布

3. 分析・考察

1.4. で述べたとおり、ウェブサイトでは写真間のつながりが重要となる。そこで以下、写真のつながりに着目し、分析する。

3.1. 写真のつながりについて

3.1.1. 分析方法

まず全写真のうち竣工後写真を内観、外観、竣工前写真を工事写真、パース/模型写真など設計段階のものに4分類する。

次に、前後する写真の関係を図3に示す連続手法で捉える¹⁵。

《視線の連続》：《①ズーム》は写真の対象に向かって近づいたり、遠ざかったりするもの。《②パン》は水平軸又は垂直軸を固定し、その場で視線を回転することで写真対象が移動するもの。

《③オーバーレイ》は同じ写真対象を移動しながら撮影するもの。《同一視点場面変化による連続》：同一視点で、昼景・夜景の変化、家具の用途変化などの場面変化がある場合。

以上2項目は同じ空間が連続するため、“空間的連続”とする。

《動線による連続》：写真内に動線要素(階段・廊下など)があり、その移動経路にしたがって写真が連続している場合。

《開口による連続》：扉・窓などが写真内に存在し、その先に移動した写真が連続している場合。

《吹抜による連続》：吹抜などによって上下のつながりを想起させるような写真が連続している場合。

以上3項目は視点移動を伴い、異なる空間が連続するため“動線的連続”とする。

《不連続》：上記の分類にあてはまらず、連続しない場合。

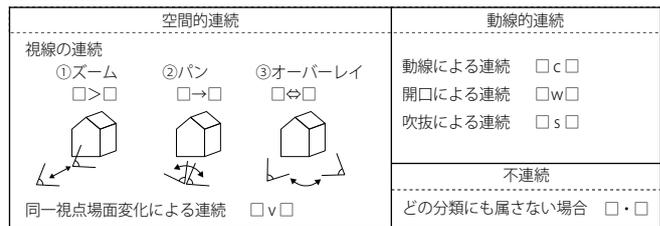
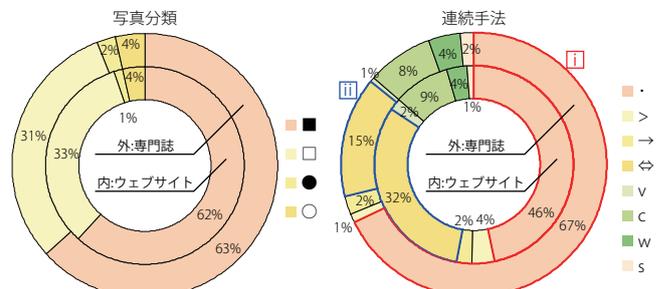


図3 連続手法

3.1.2. 全体写真の前後間のつながり

3.1.1. で示した写真分類と、前後写真の連続手法について図4及び表1にまとめる。

図4より連続手法を比較すると、不連続についてウェブサイト46%、専門誌67%(図中赤枠①)と大きな差が出た。ここからウェブサイトでは前後で連続した写真を用いることで、一連のつながりのなかで建築を理解させる構成となっており、一方専門誌では不連続な構成が比較的多いことが分かる。これは、専門誌はページごとの移動がしやすく一覽的に誌面を見ることが出来るため、不連続性が理解の妨げになりにくいからと思われる。また、オーバーレイについてウェブサイト32%、専門誌15%(図中青枠②)と大きな差異が出たことから、ウェブサイトで同一空間を多視点の複数ショットで連続して掲載する傾向を読み取ることができる。これはデジグラフィの消去性や滞在短期性に起因し、連続的な視覚情報の数量を増加させるためであるといえよう。



	■	□	●	○	計	・	>	→	⇄	v	c	w	s	計
ウェブサイト	694	376	15	40	1125	476	39	24	325	21	92	36	10	1023
専門誌	599	292	22	34	947	573	10	19	124	5	66	33	15	845

図4・表1 写真分類と連続手法

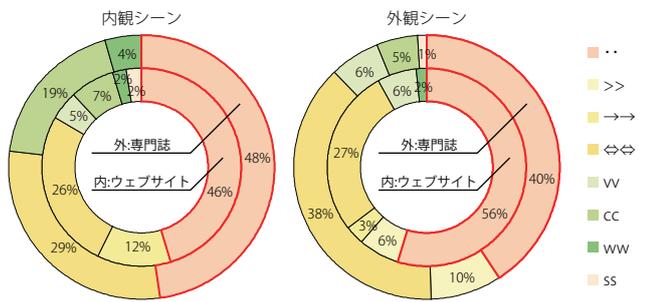
3.1.3. 内観シーン・外観シーンごとの写真のつながり

図4の写真分類から内観・外観写真が両メディアとも紹介写真の中で多くの割合を占めることが分かる。そこで、ここでは全体

の写真配列のなかで内観・外観写真のみがそれぞれ連鎖している部分をシーンと呼び、シーンのつながりについて取り上げる。その上で、内観写真のみ順番に並べたものを内観シーン、外観写真のみ順番に並べたものを外観シーンとし、内観シーン同士・外観シーン同士のつながり^{*16}について考察する(本頁下 図5参照)。

シーン間の連続手法について、結果を図6及び表2に示す。表2より枚数に対するシーン数の割合を調べると、専門誌はウェブサイトと比べ、内観シーンで1.39倍、外観シーンで1.47倍多くのシーンから構成されていることが分かる。つまり、ウェブサイトでは多くの写真でひとつのシーンが構成されるが、シーン数自体は少ない傾向があり、専門誌ではひとつのシーンは少ない写真で構成されるが、多くのシーンで構成される傾向があるといえる。次に図6よりシーン間のつながりについて確認する。不連続(図中赤枠)の部分に着目すると内観シーンではウェブサイト46%・専門誌48%、外観シーンでウェブサイト56%・専門誌40%となった。これを、3.1.2.と比較すると、専門誌では前後のつながりに比べ、シーン間のつながりを連続的に扱っているといえ、その傾向は外観シーンに顕著に現れることが分かった。

以上より、前後写真のつながりではウェブサイトの方が連続的に扱われている傾向があるが、シーン間のつながりでは専門誌の方が連続的に扱われている傾向を確認した。これはウェブサイトのシーンの独立性を示すものであり、ウェブサイトでは一つのシーンを完結的に扱う傾向を示している。ウェブサイトでは画像を同時に並列的に閲覧しにくいいため、前後の写真のつながりは重要となるが、シーン間のつながりの必要性は薄いといえよう。



	件数	枚数	シーン数	..	>>	→→	⇔⇔	VV	CC	WW	SS	計
内観 シーン	101	694	143	19	0	5	11	2	3	1	1	42
内観 シーン	102	599	171	33	0	0	20	0	13	3	0	69
外観 シーン	97	376	159	34	4	2	17	4	0	1	0	62
外観 シーン	100	292	182	33	8	0	31	5	4	0	1	82

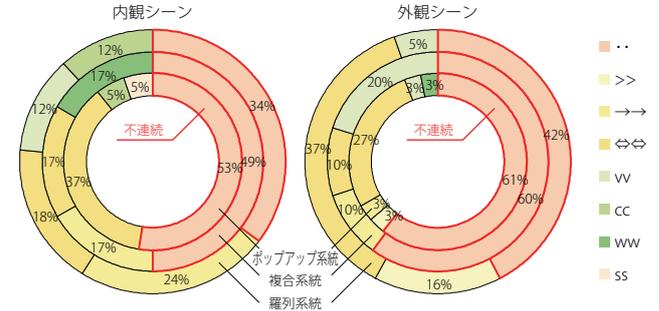
図6・表2 シーン間の連続手法

3.1.4. ウェブサイト表示形式系統ごとのシーン構成

2章で確認したようにウェブサイトの作品紹介ページには複数の表示形式が存在する。そこで、ウェブサイトの表示形式ごとにシーン間の連続手法に着目し特質を探る。

表示形式系統でシーン間のつながりについて確認した結果を図7及び表3に示す。図7赤枠線よりポップアップ系統・複合系統に比べ羅列系統でシーン間を連続的に扱っていることが読み取れ

る。その結果を3.1.3.と比較すると、羅列系統はポップアップ系統・複合系統に比べ、専門誌の持つ傾向が強くあらわれているといえる。つまり、ウェブサイトの表示形式の違いによってシーン間のつながりに特徴が見られ、そこには従来の印刷メディアとの関連を見て取ることができよう。



	件数	枚数	シーン数	..	>>	→→	⇔⇔	VV	CC	WW	SS	計
内観 シーン	58	367	77	10	0	0	7	0	1	0	1	19
内観 シーン	9	70	15	3	0	1	1	0	0	1	0	6
内観 シーン	34	257	51	6	0	4	3	2	2	0	0	17
外観 シーン	56	209	89	20	1	1	9	1	0	1	0	33
外観 シーン	9	50	19	6	0	1	1	2	0	0	0	10
外観 シーン	32	117	51	8	3	0	7	1	0	0	0	19

図7・表3 ウェブサイト表示形式系統別 シーン間の連続手法

3.1.5. 写真一枚ごとにおけるつながり

写真の前後間のつながり、シーン間のつながりについて前項までに確認した。ここでは、写真一枚ごと他写真とどのようなつながりのなかで扱われるかについて空間的連続・動線的連続(図3参照)を用い考察する。さらに、専門誌の大きな特徴として写真サイズの違いがあるため、専門誌において大写真^{*17}で紹介される空間がウェブサイトとどのように表現されるかも確認する。

写真一枚ごと同一作品内で何枚の他写真と連続しているかを数えたものを枝数と呼称する。その上で専門誌の大写真とウェブサイトにおいて専門誌の大写真と類似する構図で撮影されている写真^{*18}とを比較し、枝数をまとめたものが表4である。

表4赤枠①よりウェブサイトのほうが一枚あたりの枝数が多く、各写真についても連続して扱われる傾向があるといえる。また、表4青枠②よりウェブサイトでは空間的連続の方が動線的連続に比べ重視されていることから、同一空間を複数の写真で紹介するが、他空間へのつながりはあまり重視されていない傾向が読み取れる。また、表4緑枠③より大写真とそれ以外の枝数を比較すると、ウェブサイトでは1.1倍・専門誌では1.7倍となり、ウェブサイトでは大写真に類似する構図の写真において大きな差は見

		枝数				一枚あたりの枝数			
		全体	大写真以外	大写真一頁	大写真二頁	全体	大写真以外	大写真一頁	大写真二頁
ウェブサイト	空間的連続	1959	1633	161	165	1.74	1.72	1.64	2.06
	動線的連続	815	666	85	64	0.72	0.7	0.87	0.8
	合計	2774	2299	246	229	2.47	2.43	2.51	2.86
	枚数	1125	947	98	80	—	—	—	—
専門誌	空間的連続	942	589	193	160	0.99	0.85	1.23	1.67
	動線的連続	701	426	168	107	0.74	0.61	1.07	1.11
	合計	1643	1015	361	267	1.73	1.46	2.3	2.78
	枚数	947	694	157	96	—	—	—	—

表4 枝数の比較

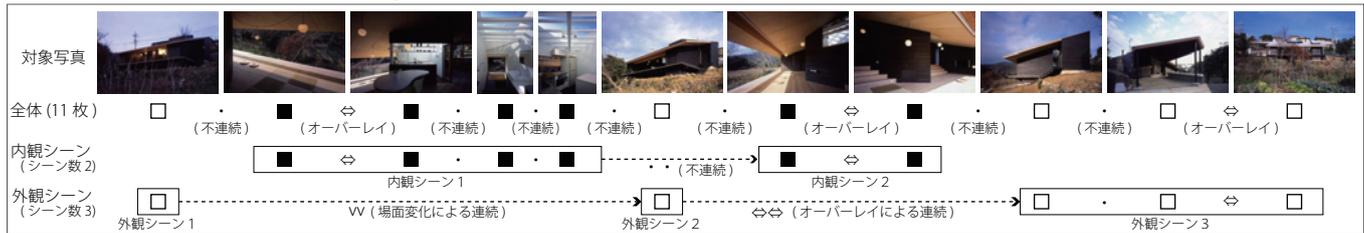


図5 連続手法の例

参照: acaa/岸本和彦 湯河原の家 <http://www.ac-aa.com/> 2008/10/01 取得

られなかったが、専門誌では大写真はそれ以外に比べて多くの他写真と連続的に扱われる傾向が見られた。つまり、ウェブサイトでは相対的にすべての空間を満遍なく扱う傾向にある一方、専門誌では大写真で紹介されている空間を中心とし、それに他写真を多く関連付けながら構成しているといえる。

3.2. 場面変遷によるタイプ分類

これまで写真ごとのつながりについて分析した。ここでは、作品介绍写真全体でどのように場面が変遷しているかを確認することで、両メディアの場面変遷の流れの特徴を考察する。まず、ウェブサイト・専門誌ともに写真の部位についてシークエンスに沿って図8に示すとおり7分類し、場面変遷の流れを図9凡例に従い図化した。また、ここでは対象建築の実体空間の連続性を確認するためにg：竣工前については図化の際に省き、前後するg以外の写真でのつながりを考慮した。その結果、場面の変遷について図9に示す1から9のタイプに分類することができ、それをまとめたのが表5及び図10である。

表5及び図10より、ウェブサイトにおいてタイプ1・タイプ4(赤枠)に明確な偏りが見て取れる一方、専門誌では比較的満遍なく様々なタイプで紹介されていることが分かった。ウェブサイトに偏りが見られるタイプ1・タイプ4は外部から内部への場面変遷の流れを持つもので、ウェブサイトではシークエンシャルな定式を持ったタイプが好まれることを読み取ることができる。

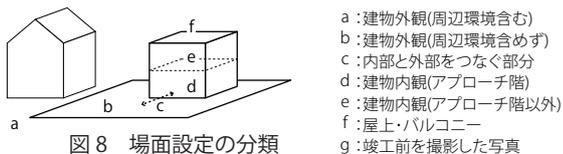


図8 場面設定の分類

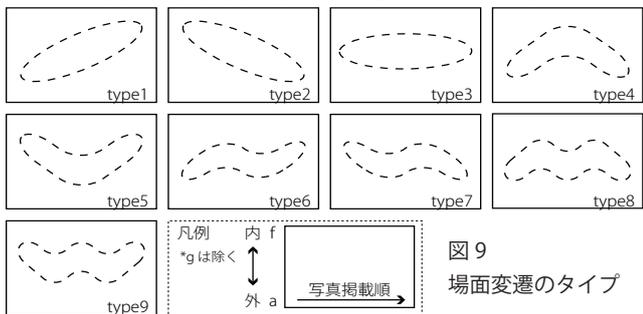


図9 場面変遷のタイプ

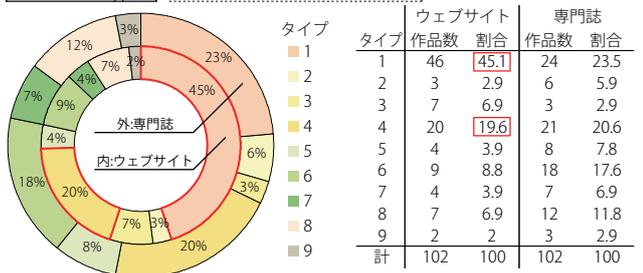


図10・表5 場面変遷のタイプ分類

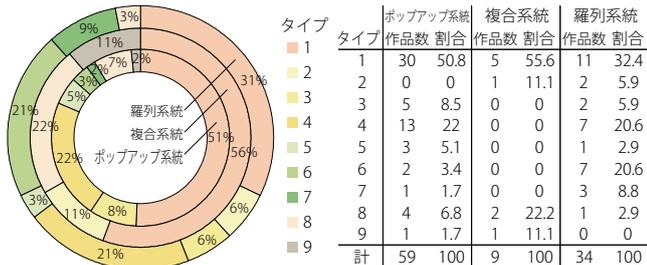


図11・表6 ウェブサイト表示形式系統別 場面変遷のタイプ分類

また、ウェブサイトについて表示形式系統ごとにタイプを調べたところ、図11及び表6のようになった。その結果、羅列系統で専門誌に類似したタイプ分布になっていることが分かった。ここでも3.1.4.と同様、表示形式系統ごとで場面変遷の流れに特徴を持つことが分かり、複数の写真を同時視認しやすい羅列系統に印刷メディアの性質を見て取ることができる。

4. 結

ウェブサイトと専門誌を比較することで、ウェブサイトで提示される建築イメージの一端を明らかにした。そこから、ウェブサイトの相対的特質として1)写真などの視覚情報が重要視されていること、2)前後する写真を連続的に構成する傾向があること、3)内観シーン・外観シーン共にシーン間のつながりは連続となりにくく、専門誌と比較すると重視されづらいこと、4)ウェブページの画面構成による表示形式の違いによって写真の連続性に差異があり、羅列系統では専門誌に類似した傾向を示すこと、5)専門誌のように大写真を中心とした空間紹介ではなく、すべての建築空間にヒエラルキーをつけず均等に紹介する傾向にあること、6)定式化された外部から内部へといった流れを持つ写真構成が好まれることが分かった。

以上より、建築家のウェブサイトの特徴をまとめると、①シークエンスに沿った連続的な空間紹介を重視し、②シーンの独立性や個々の写真の関連性から、建築空間を満遍なく一様に紹介するものとなっているといえる。それらは、現代建築を取り巻く情報環境の変容の一端を示すものである。

参考文献および註 *1) 社会構築主義の分野では言説空間が集積しひとつの社会的実在をなすとした上で、言説を分析することによって社会の一面を捉えることができるとする。(赤川学.(2006). 構築主義を再構築する, 勁草書房) 本研究では言説を写真に置き換えて考え、写真のもつ情報空間を分析する。*2) 新建築住宅特集の巻末にある建築家紹介の欄に示されるURLによるウェブサイト。*3) 評論家の多木浩二は、建築はジャーナリズムあるいはメディアに媒介されることによって普及されるとした上で、写真家はメディア独特のマナーに従って建築写真を撮り、また建築家は自覚の有無に関わらずそのマナーに影響され建築をつくるが多かったとする。(多木浩二.(2007). 建築と写真の現在 vol.1 「建築と写真」, (建築と写真の現在), TN プローブ/株式会社大林組.) 多木は過去形で述べているが、現在でもこの様な状況は続いているといえよう。*4) 1. ヤコブ・ニールセン.(2006). ヤコブ・ニールセンの Alertbox, (松井淳・奥泉直子・川崎幹人 訳). RBB PRESS. / 2. ヤコブ・ニールセン.(2000). ウェブ・ユーザビリティ, (グエル 訳). エムディエスコパレシオン. / 3. ヤコブ・ニールセン.(2002). ホームページ・ユーザビリティ, (風見舎 訳). エムディエスコパレシオン. *5) 研究を始めた2008年1月の時点で最新の過去一年分を研究対象とした。*6) 新建築住宅特集2007年1月から12月号には150事務所掲載され、そのうちウェブサイトを持つものは105事務所であった。その中で雑誌掲載作品をウェブサイトでも紹介しているものを対象とした。*7) 竣工後の建築写真の他に、竣工前のパース/模型写真/スケッチ・工事風景などの写真も含む。*8) ウェブサイトの作品介绍ページに掲載される写真のみを対象とし、二次的にリンクされる竣工前の写真や時系列的に進捗状況を示したブログなどは対象としない。また、ウェブサイトに掲載された作品介绍の状態は2008年10月1日現在の状況を用いる。*9) 1. 溝口恵美・奥山信一・横山天心・久保田創.(2006). 建築設計事務所ウェブサイトにおける建築家の言語表現, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), p585-586. / 2. 奥山信一・久保田創・嶋崎大伸.(2005). ウェブサイトにおける商品化住宅の外観に関する言語表現, 日本建築学会学術講演梗概集 (近畿), p621-622. など *10) 1. 岡河貢・足立真・坂本一成.(2003). 情報化された建築空間の構成に関する研究—ル・コルビュジェ全作品集における建築写真の連続性について—, 日本建築学会・日本建築学会計画系論文集, 第564号: 363-369. / 2. 岡河貢・足立真・坂本一成.(2006). ル・コルビュジェ全作品集における建築写真と図面・スケッチの構成—情報化された建築空間の構成に関する研究, 日本建築学会・日本建築学会計画系論文集, 第607号: 225-232. / 3. 岡河貢・足立真・坂本一成.(2006). ル・コルビュジェ全作品集における建築写真の対象と構成—情報化された建築空間の構成に関する研究—, 日本建築学会・日本建築学会計画系論文集, 第609号: 193-200. など *11) 新谷美和・貝島桃代.(2002). 建築雑誌に見る現代日本住宅における写真表現—写真と建築の関係—, 日本建築学会・日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸): 579-580. など *12) 前掲*4 *13) デジグラフィ (digigraphy) とは、デジタルカメラによって撮影された画像、あるいはアナログカメラによるものでスキャニングによってデジタル化された画像、それらの画像の使用及び表現のプロセス全体を示すものである。(飯沢耕太郎.(2004). デジグラフィ, 中央公論新社.) 以上より、ウェブサイトに掲載される写真もすべてデジグラフィであるといえる。*14) 複合系統は理論上は複数存在するが、対象のウェブサイトでは羅列型+ポップアップ型の組み合わせのみ見られた。*15) 前掲*10の文庫1を参考に分類。*16) 一枚のみで構成されるものもシーンと捉える。また、シーンごとの連続性を表す記号は図3に示す記号を重複して並べたものを用いる。*17) ここでは、雑誌の一頁及び二頁を使用した写真またはそれに類する写真を大写真とし、前者を一頁写真、後者を二頁写真とする。*18) 専門誌の大写真と同空間を同じ場所で撮影した写真を類似写真とする。